

道路工事完成図書等作成要領

平成 18 年 8 月

平成 20 年 3 月

作成要領及びチェックプログラム等の入手は、国土技術政策総合研究所の専用サイト「道路工事完成図書等作成支援サイト (<http://www.nilim-cdrw.jp>)」を参照されたい。

ISSN 1346-7328
国総研資料 第331号
平成 18 年 8 月
平成 20 年 3 月 (改定版)

国土技術政策総合研究所資料

TECHNICAL NOTE of

National Institute for Land and Infrastructure Management

No. 331

August 2006

March 2008(revision)

道路工事完成図等作成要領 (改定版)

Manual of Completion Drawing Production for Road Works

平成 18 年 8 月

(平成 20 年 3 月 改定)

国土交通省 国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management

Ministry of Land, Infrastructure and Transport, Japan

国土技術政策総合研究所資料
第 331 号 2006 年 8 月
2008 年 3 月 (改定版)

Technical Note of NILIM
No.331 August 2006
March 2008 (revision)

道路工事完成図等作成要領

高度情報化研究センター情報基盤研究室

Manual of Completion Drawing Production for Road Works

Information Technology Division, Research Center for Advanced Information Technology

概要

本研究では、CALS/EC推進の一環として道路工事完成図等の電子納品を利用した管理図の蓄積・更新の迅速化・効率化を目的に、完成図の作成仕様を「要領」としてまとめた。今後「要領」に基づいて完成図の電子データが蓄積されることにより、道路の基盤的な情報が整備され、維持管理段階を始めとする各種業務の高度化・省力化に繋がるものとする。

キーワード

CALS/EC、電子納品、道路工事、完成図、GIS

Synopsis

In this research, specification for completion drawing was developed as the manual for the purpose of speeding up and the increase in efficiency of accumulation and updating of the road management drawings as a part of the CALS/EC. From now on, electronic data of completion drawing will be accumulated as road infrastructure information, and contribute to the advance such as labor saving of the road management including a stage of control of maintenance.

Key Words

CALS/EC, Electronic delivery, Road works, Completion Drawing, GIS

執筆者一覧

監修

国土交通省 大臣官房技術調査課

国土交通省 道路局国道・防災課

執筆者

国土技術政策総合研究所 高度情報化研究センター 情報基盤研究室

室長 上坂克巳

研究官 関本義秀

交流研究員 阿部寛之

(改定版)

室長 金澤文彦

研究官 布施孝志

交流研究員 松林 豊

はじめに

道路行政の IT 化が進む中で、道路地図情報を用いた各種管理システムの利用が徐々に普及しつつある。これに伴い、各システムにおいてベースマップとなる道路地図データの迅速な更新が新たな課題となりつつあり、道路状況の変化に対するリアルタイムな情報の収集・更新が望まれている。

一方、国土交通省では、道路事業のライフサイクル（調査・計画・設計・工事・維持管理）において各段階の情報を相互に活用すべく、CALS/EC の一環として平成 16 年度から全国の公共工事において電子納品を実施しており、完成図書の電子データが徐々に蓄積されはじめているところである。

平成 18 年 3 月に発表された国土交通省 CALS/EC アクションプログラム 2005 では、「完成図を利用した管理図の蓄積・更新の迅速化・効率化」がうたわれており、この目標を達成するためにも、土木工事共通仕様書に定められている「完成図」の作成方法等を標準化し、その電子情報をより円滑に受け渡すことが不可欠となっている。

本要領は、上記のような背景を踏まえ、道路工事竣工時の完成図書データの内、完成図および工事施設帳票を道路地図データの迅速な更新に役立てることを主な目的とし、「CAD 製図基準（案）」および「工事完成図書の電子納品要領（案）」等関連基準との整合を図った上で、道路工事における完成図の定義や作成方法、および電子納品の方法等について定めている。また、特に完成平面図については、GIS の道路地図データへ変換することを意図し、GIS データと親和性の高い SXF Ver.3.0 以上による作成仕様を定めている。

なお、本要領は、完成図全体を扱う要領として位置づけられており、下記の 3 編から構成されている。

- I. 共通編 : 目的、用語の解説および適用工事など、全般に関する事項
- II. 作成編 : 作成範囲、対象施設など、完成図作成時に参照すべき事項
- III. 電子納品編 : ファイル形式、レイヤ分類およびチェック方法など、電子納品データ作成時に参照すべき事項

ただし、上述のような目的から、平成 18 年 8 月時点では、電子納品を必須とする当面の対象を「完成平面図」および「工事施設帳票」と定め、これらを中心に内容を作成した。その後のニーズを踏まえ、平成 20 年 3 月に、縦横断情報取得を目的として、「完成縦断図」を電子納品の対象とし、あわせて、「完成平面図」上に道路高さ・横断勾配を取得するための測点地物の追加を行った。

今後、本要領に従って完成図が作成され、道路の現況情報が確実に電子データ化されることで、道路情報の基盤が整備され、維持管理段階を始めとする各種業務の高度化および省力化に繋がるものとする。また、調査・計画・設計の各段階においても、精度

の高い現道情報が利用可能となる等、様々な効用も期待される。

本要領の策定にあたっては、国土交通省内部に平成 16 年 11 月に設置され、計 14 回（平成 20 年 3 月現在）実施された道路基盤地図情報意見交換会（座長：森昌文）における議論がベースになるとともに、各地方整備局からも試行や意見照会を通じ様々な意見を頂いた。また、外部からは、建設情報標準化委員会、（社）日本土木工業協会 CALS/EC 部会図面情報 WG、オープン CAD フォーマット（OCF）評議会の関係者から様々な意見を頂いた。さらに平成 18 年 1～3 月に行われた第二次試行においては、川田テクノシステム㈱・オートデスク㈱・㈱構造計画研究所・㈱横河技術情報・㈱ビッグバン・㈱ダイテックソフトウェア・ダイナウェアソリューションズ㈱・福井コンピュータ㈱・㈱フォーラムエイト・㈱シビル・デザインに、完成平面図の作成支援機能を持つ CAD を各社試作して頂き、作図負担軽減化のために多大なる協力を頂いた。平成 20 年 3 月に行われた縦横断情報取得のための試行においては、川田テクノシステム㈱、㈱ビッグバンに、測点入力支援機能を持つ CAD 試作および試行に多大なる協力をいただいた。ここに謝意と敬意を表する次第である。

平成 20 年 3 月

国土技術政策総合研究所 高度情報化研究センター情報基盤研究室

道路基盤地図情報意見交換会

座長 森 昌文

メンバー（平成 18 年 6 月時点）

上坂克巳 大庭孝之 茅野牧夫 杳掛敏夫 後藤貞二 塩井直彦 嶋田博文 隅蔵雄一郎
関本義秀 滝本悦郎 中神陽一 原田吉信 平井節生 廣瀬健二郎 舟橋弥生 森山誠二
安谷 覚 吉本紀一

（五十音順）

道路基盤地図情報意見交換会（要領改定検討）

座長 森 昌文

メンバー（平成 20 年 3 月時点）

有野充朗 伊勢田敏 大野昌仁 影井敬義 金澤文彦 栗山健作 隅蔵雄一郎 多田智
田中倫英 中前茂之 原田吉信 平井節生 布施孝志 本園民雄 安谷覚 山田剛
吉本紀一 和田賢哉 渡邊良一

（五十音順）

(改訂履歴)

No.	改訂日	対象箇所	改訂内容
1	2006/08/25	全体	平成18年8月版作成
2	2006/08/31	全体	国総研GISサイトの名称およびURLを道路工事完成図等作成支援サイトへ変更
3	2006/09/21	P.7	落丁していたため更新
4	2006/10/30	全体	完成平面図チェックプログラムと道路施設基本データチェックプログラムの統合に伴う改定
5	2006/11/24	巻末3-69、3-70	道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML) の「道路施設諸元データフォルダ日本語名」の入力例で“名”が抜けていたため改定
6	2006/12/15	P.46 表14	ロードヒーティングは現況写真不要のため、写真撮影タイプの表示を削除
		P.50	道路施設基本データ位置図の記述で、「施設対象番号」を「施設対応番号」に改定
		巻末1-2	【属性】「上下区分」の【記述例】が【定義】にない数字となっていたため、3→2へ改定
		巻末3-6 表2	D010橋梁の施設番号、施設名が重複して表示されていたため片方を削除
		巻末3-8	橋梁の補修を行った場合の作成対象詳細情報として、「D01A橋梁補修歴」「D02A橋側歩道橋補修歴」が抜けていたため改定
		巻末3-69	道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML) の「道路施設諸元データフォルダ日本語名」の入力例で“名”が抜けていたための改定 (No.4) に併せ、データ形式の文字数を14文字に改定
		巻末資料1～3 ヘッダ	道路工事完成図等作成要領 (案) の「(案)」を削除
7	2008/3/24	全体	現状に対応した時点修正と縦横断情報を取得するための内容追加に伴う改定

目 次

<u>． 共通編</u>	
1. 目的	1
2. 用語の解説	3
3. 本要領の位置付け	8
4. 構成	9
5. 適用工事	10
6. 作成支援体制	12
<u>． 作成編</u>	
1. 完成平面図	13
1-1. 作成範囲	13
1-2. 作成形状	14
1-3. 地形情報	14
1-4. 距離標	15
1-5. 旗上げ	15
1-6. 測点	17
2. 完成縦断面図	
2-1. 作成範囲	18
2-2. 作成形状	18
3. 工事施設帳票	19
3-1. 対象施設	19
3-2. 作成方法	19
4. 完成横断面図	} 今後整備を検討
5. 完成構造図	
6. 完成構造詳細図	
7. 完成用地丈量図	
<u>． 電子納品編</u>	
1. 完成平面図	20
1-1. 趣旨	20
1-2. データ作成	22
1) ファイル形式	22
2) ファイル単位	24
3) 部分図の利用	25
4) 座標設定	26

5) 取得対象項目	27
6) 図形データ作成	29
7) レイヤ分類	32
8) 図形データの単位	34
9) 属性入力	35
10) 距離標の取得	36
11) 測点の取得	37
12) 地形情報	40
13) 図面様式	42
1-3. データ貸与と請負者の作業	43
2. 完成縦断図	44
2-1. 趣旨	44
2-2. データ作成	44
1) ファイル形式	44
2) ファイル単位	44
3) 部分図の利用	44
4) 取得対象項目	45
5) 図形データ作成	45
6) レイヤ分類	45
7) 属性入力	46
8) 図面様式	46
3. 工事施設帳票	47
3-1. 概要	47
3-2. データ作成	48
1) 作成データ内容	48
2) 作成対象となる道路施設	49
3) データの作成単位	51
4) 道路施設基本データ詳細情報作成	53
5) イメージデータ作成	53
6) 道路施設基本データ位置図作成	57
7) ファイル形式	59
4. 電子成果品としての整理方法	60
4-1. 成果品項目	60
4-2. 図面管理ファイル	61
4-3. 道路施設基本データ管理ファイル	61
4-4. 完成平面図ファイル命名規則	62

4-5 . 完成縦断図ファイル命名規則	63
4-6 . 道路施設基本データファイル、フォルダ命名規則	64
4-7 . 格納フォルダ	66
5 . チェック方法	68
5-1 . 概要	68
5-2 . 完成平面図に関するチェック方法	70
5-3 . 完成縦断図に関するチェック方法	70
5-4 . 道路施設基本データに関するチェック方法	71
6 . 電子納品時の確認方法	72
7 . 完成横断図	} 今後整備を検討
8 . 完成構造図	
9 . 完成構造詳細図	
10 . 完成用地丈量図	

巻末資料目次

1. 完成平面図における地物作成仕様

1)	距離標	1-1
2)	道路中心線	1-3
3)	管理区域界	1-4
4)	車道部	1-5
5)	車道交差部	1-7
6)	踏切道	1-8
7)	軌道敷	1-9
8)	島	1-10
9)	路面電車停留所	1-11
10)	歩道部	1-12
11)	植栽	1-13
12)	自転車駐車場	1-14
13)	自動車駐車場	1-15
14)	区画線	1-16
15)	停止線	1-17
16)	横断歩道	1-18
17)	横断歩道橋	1-19
18)	地下横断歩道	1-20
19)	建築物	1-21
20)	橋脚	1-22
21)	盛土法面	1-23
22)	切土法面	1-24
23)	斜面对策工	1-25
24)	擁壁	1-26
25)	橋梁	1-27
26)	トンネル	1-28
27)	ボックスカルバート	1-29
28)	シェッド	1-30
29)	シェルター	1-31
30)	測点	1-32

2.	SXF Ver.2.0 による完成平面図の作成方法	
1.	SXF Ver.3.0 との相違点	2-1
2.	作成方法	2-2
3.	ファイル命名規則	2-7
4.	格納フォルダ	2-8
3.	道路施設基本データ詳細情報・管理ファイル作成方法	
1.	データ作成における共通記入事項	3-1
2.	道路施設基本データ詳細情報名	3-5
3.	詳細情報の作成に際しての留意事項	3-8
4.	詳細情報のフォーマット	3-10
5.	詳細情報のサンプル	3-60
6.	道路施設基本データ関連の管理ファイル	3-61

． 共通編

1 . 目的

本要領は、土木工事共通仕様書で定める道路工事における「完成図」に関わる定義を明確化し、完成図の構成およびその作成要領を示すとともに、完成図の電子納品の方法を示すことにより、竣工時に作成する完成図等の取り扱いを明確にすることを目的とする。

【解説】

道路工事における「完成図」は、これまでも土木工事共通仕様書でその作成と提出を求めているものの、明確な定義や扱う範囲、および具体的な作成方法等に関する記載が無かったため、地方整備局によっては独自の定義に基づく作成が行われており、出来形図との使い分け等を含めた定義の統一が必要となっていた。

また一方で、その実施状況を見ると、平成 16 年度以降、電子納品が全ての道路工事へ適用されたにもかかわらず、発注者が電子データを貸与できない場合、土木工事共通仕様書に基づく個々の協議により電子納品されないことも多く、道路事業における CALS/EC 普及の足枷となっている。このため、ニーズと現状を踏まえた上で、必要な情報については順次電子化を進めていく必要があり、特に維持管理に必要な電子情報は確実に電子納品されるよう義務付けるべきである。

電子納品された完成図は、その後の維持管理での利活用や次工事以降における現道情報として再利用され、特に維持管理段階においては、電子化されたデータの利用効果が高いと考えられる。さらに将来的には、工事の状況把握や安全運転支援など、ITS への利用等も考えられる。よって、完成図の電子化にあたっては、共通利用が可能で、必要な情報を持つ質の高い CAD データの整備・流通が望まれ、そのためには一定の品質を確保するための標準仕様を定める必要があった。

このような背景から、本要領では、共通仕様書における「完成図」を定義し、主要な工事区分における標準的な構成等を示すとともに、本要領の適用により電子納品を必須とする工事について規定することとした。また併せて、完成図の具体的な作成方法や電子納品の方法等について要領を定めることとした。

なお、平成 19 年度 4 月より、土木工事共通仕様書では、第 1 編 1-1-19「工事完成図」において、本要領に基づく電子納品が義務付けられた。

(補足)

本要領は、当面、「完成平面図」、「完成縦断図」および「工事施設帳票」の 3 章構成で運用し、電子納品によるデータ収集を行うものとする。なお、「完成平面図」と「工事施設帳票」は図 1 に示すような関係を有しており、道路の幾何形状（完成平面図）と施設諸元情報（工事施設帳票）として、ともに維持管理段階において有効利用されるものとなる。

将来的には、本編「4 . 構成」に規定するその他の完成図について順次追加することで、電子データ整備の範囲を拡張し、道路事業全体における情報流通環境を整備する予定である。

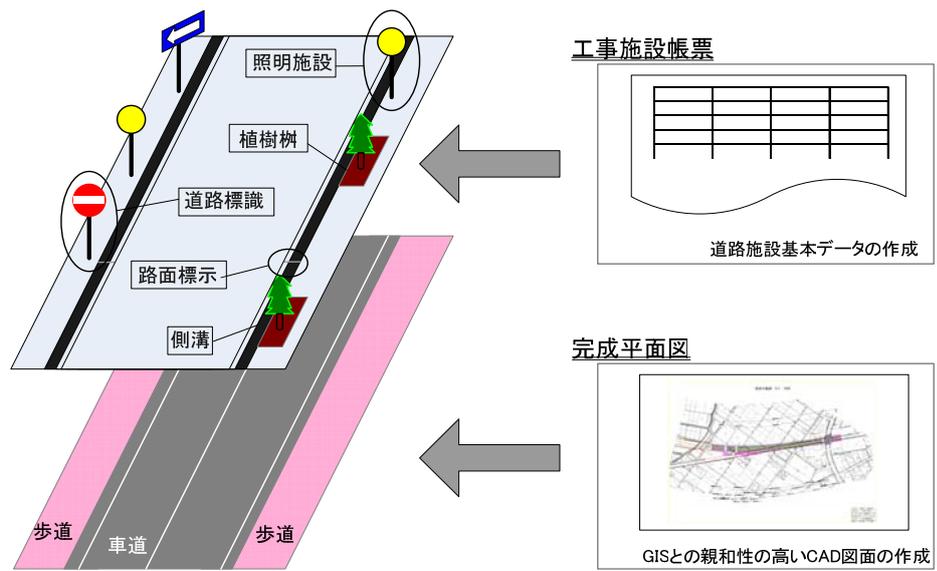


図 1 本要領で取り扱う完成平面図と工事施設帳票の関係

2. 用語の解説

1) 完成図

契約図面に基づいて完成した工事目的物の完成形状を示した図面

2) 完成平面図

本要領で定義する完成図のうちの平面図

3) 完成縦断図

本要領で定義する完成図のうちの縦断図

4) 工事施設帳票

当該工事に関連する道路施設の諸元等を取りまとめた帳票

5) 完成図等

本要領で定義する完成図および工事施設帳票

6) 道路施設基本データ

工事施設帳票の電子納品成果データ (csv、jpg 等)

7) 道路基盤地図情報

道路行政で用いる空間データのうち、各種サービスを実現する上で必要となる共用性の高いデータ

8) 距離標

道路の付属物として道路上に一定間隔 (1km または 0.1km 毎) で設置し、起点からの距離を把握するために用いる標識

9) SXF

Scadec data eXchange Format の略称であり、ISO 規格である STEP AP202 に準拠した CAD データ交換仕様

10) CSV

Comma Separated Values の略称であり、データをカンマ (,) で区切って並べたテキストファイル

11) ラスタ (Raster)

縦横に並んだピクセルの明るさや色によって表現された画像

12) ベクタ (Vector)

線や円などの図形の位置・形・大きさなどの図形情報によって表現された画像

13) 世界測地系

世界共通となる測地基準系

14) T.P.

Tokyo Peil の略称であり、東京湾の平均潮位 (東京湾中等潮位) を基準とした地表面の高さ

15) TS 法

TS とは Total Station (トランシット付き光波測距儀) の略称であり、TS 法はそれを用いた測量方法

16) GPS 法

GPS とは Global Positioning System (汎地球測位システム) の略称であり、GPS 法はそれを用いた測量方法

17) 地理情報標準プロファイル (JPGIS)

JPGIS とは Japan Profile for Geographic Information Standards の略称であり、空間データを異なるシステム間で相互利用する際の互換性の確保を主な目的に、データの設計・品質・記述方法・仕様の書き方等のルールを定めたもの

18) GIS

地理情報システムを意味する Geographic Information Systems の略称であり、地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータを総合的に管理・加工し、視覚的に表示することで、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術

19) 地物

地球上の位置に関連した実世界の現象であり、本要領では道路本体や道路付属物を指す

20) 地物項目の取得

本要領に定める方法で、地物項目を完成平面図の CAD データ上に作図すること

【解説】

1) 完成図

土木工事共通仕様書の中では完成図の提出を規定しているが、完成図＝出来形管理図として設計値に対して出来形値を（ ）書きで対応づけ、出来形形状を色分けして示したり、完成図≠出来形管理図として当初設計値や形状を消去して完成形状のみを示した図面を作成したり、運用上明確ではない。なお、「出来形管理図」とは「土木工事施工管理基準及び規格値（案）」の中で定められ、請負者が施工管理を行う上で必要となる、設計値と施工された出来形との差異を示すものである。

本要領では、「完成図」を、施工された公物の管理および以後の工事の計画・設計等に利用することを目的に工事目的物の完成形状を示した図面として定義し、「出来形管理図」とは明確に区別するものとする。

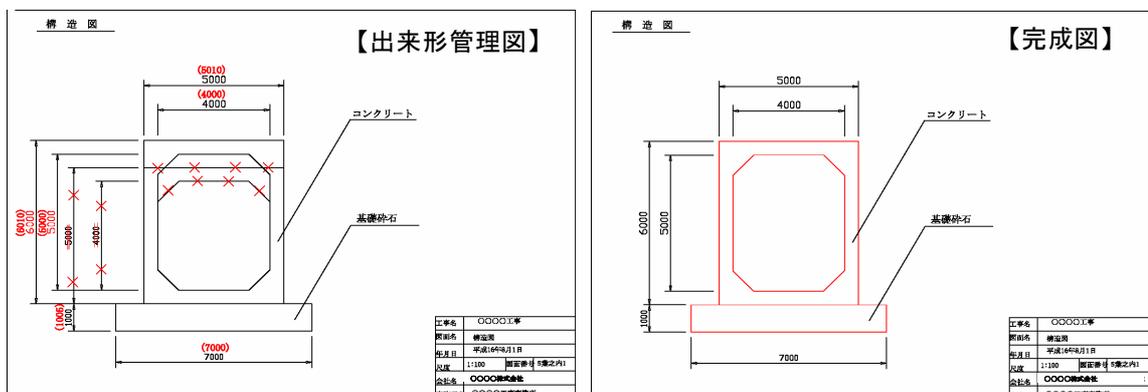


図 2 出来形管理図と完成図の違い (完成構造図)

2) 完成平面図

完成平面図は、本要領で定義する完成図のうちの平面図であり、工事後の維持管理段階における道路管理図や次回工事発注図等として利用される。

3) 完成縦断図

完成縦断図は、本要領で定義する完成図のうちの縦断図であり、工事後の維持管理段階における道路管理図や次回工事発注図等として利用される。

4) 工事施設帳票

工事施設帳票は、当該工事に関連する道路施設の諸元等を取りまとめたものであり、道路施設台帳の作成・更新の際、基となるデータである。

道路施設台帳は、道路に関する管理業務を円滑に遂行するために作成され、道路の現況等道路管理上の基本的事項等を総括的に記載した台帳である。

工事完成図書の電子納品では、工事施設帳票を所定の電子データ形式(道路施設基本データ)で納める。

5) 完成図等

完成図等は、本要領で定義する完成図および工事施設帳票を指す。なお、主な工事区分による完成図等の構成例を「5. 適用工事」に示す。

6) 道路施設基本データ

道路施設基本データは、工事施設帳票の電子納品成果(csv、jpg、xml等)であり、道路管理データベースシステム(通称MICHI)の基となるデータである。

7) 道路基盤地図情報

道路行政で用いる空間データのうち、車両や歩行者への各種サービスを実現する上で必要となる共用性の高いデータ(共通基盤)であり、地理情報標準第2版(JSGI2.0)*の実用版といえる地理情報標準プロファイル(JPGIS)に準拠し作成される。

GIS等のシステムにおける大縮尺系の道路地図情報として、各種データと重ね合わせて利用することが可能となる。

*「地理情報標準第2版(JSGI2.0)」(平成14年3月 地理情報標準推進委員会 国土交通省国土地理院)

8) 距離標

距離標は、道路管理者が道路の管理を行うにあたり、道路の付属物として道路上に一定間隔(1kmまたは0.1km毎)で設置し、起点からの距離を把握するために用いる標識である。「一級国道地点標の設置について」(昭和39年3月10日道路局長通達)および「地点標設置指針・同解説(案)の送付について」(平成5年7月5日国道第一課交通安全事業係長事務連絡)に基づき設置される。

9) SXF

SXFは、Scadec data eXchange Formatの略称であり、ISO規格であるSTEP AP202に準拠したCADデータ交換仕様である。線や円、文字、寸法線、およびハッチングなど図形情報のみを対象とする仕様をVer.2.0(以下SXF Ver.2.0)といい、これに加え図形情報に対

して属性情報を付与できる仕様を Ver.3.0 および Ver.3.1 (以下 SXF Ver.3.x) という。SXF Ver.2.0 では物理ファイルが図面ファイル (.sfc/.p21) のみであるのに対し、SXF Ver.3.x では物理ファイルが図面ファイル (.sfc/.p21) と属性ファイル (.saf XML 形式) に分かれている。ただし、SXF Ver.3.x の仕様のうち、図形情報に関する仕様は SXF Ver.2.0 との下位互換性を確保している。詳細については、「SXF Ver.3.0 仕様書」および「SXF Ver.3.1 仕様書」(建設情報標準化委員会 CAD データ交換標準小委員会)を参照のこと。

10) CSV

CSV は、Comma Separated Values の略称で、データをカンマ(,)で区切って並べたテキストファイルであり、表計算ソフト等で保存する際、ファイル形式に「CSV(カンマ区切り) (*.CSV)」を選択することで作成される。通常、CSV ファイルを表計算ソフトで開くと、カンマ区切り位置でセルに分割されて、テキストエディタで開くとカンマが表示される。

11) ラスタ (Raster)

ラスタは、縦横に並んだピクセルの明るさや色によって表現される画像である。JPEG や、GIF、PNG、BMP、TIFF など多くの画像形式がある。なお、SXF Ver.3.x の仕様書で定めるラスタ形式とはこのうち JPEG と TIFF (モノクロ 2 値) で、SXF Ver.2.0 では TIFF のみ扱える。

12) ベクタ (Vector)

ベクタは、線や円などの図形の位置・形・大きさなどの図形情報によって表現された画像であり、CAD ソフトや GIS エンジンで利用される。

13) 世界測地系

地球上の位置を経度・緯度で表すための基準となる座標系及び地球の形状を表す楕円体のことをあわせて測地基準系といい、世界測地系とは、現代の科学的知識に基づき国際的に定められた世界共通となる測地基準系であり、世界測地系の楕円体の中心は、地球の重心と一致するように設定されている。

我が国が明治時代から測量を行ってきた成果は、その後の測量機器や測量技術の進歩、さらに地殻変動の影響等により、精度としては不十分であることが明らかになり、例えば、東京から見て札幌の位置が西へ約 9m、福岡の位置が南へ約 4m ずれていることが分かっている。また、今後、GPS 等宇宙技術を利用した測量を円滑に導入するため、地球の形状や座標系について、諸外国との調和を図るとともにデータ処理にふさわしい測地基準系を導入する必要があることから、平成 14 年 4 月 1 日の測量法改正以後、全ての測量業務は世界測地系によることとなった。

本要領における世界測地系とは、測量法の改正に伴い移行した世界測地系に基づく新しい「日本測地系 2000 (Japanese Geodetic Datum 2000)」を指す。

14) T.P.

T.P.は、Tokyo Peil の略であり、東京湾の平均潮位 (東京湾中等潮位) を基準とした地表面の高さを表わす。

15) TS 法

TS は、**Total Station**（トランシット付き光波測距儀）の略称であり、TS 法はそれを用いて地形・地物等を測量する方法。一般に狭い範囲を高精度に測量する場合に使われる。

16) GPS 法

GPS は、**Global Positioning System**（汎地球測位システム）の略で、4～5 個以上の人工衛星の電波を同時に受信し位置を求めるシステムであり、GPS 法はこのシステムを用いた測量法である。

17) 地理情報標準プロファイル (JPGIS)

「地理情報標準プロファイル (JPGIS) (平成 17 年 1 月)」(国土交通省国土地理院) は、空間データの整備等に必要な基本項目について定めた地理情報標準(日本工業規格(JIS X 7100 シリーズ)、地理情報に関する国際規格 (ISO 19100 シリーズ)の中から、実利用に必要最小限の部分を取り出して体系化したものである。

地理情報標準プロファイルを利用することで、データの定義・構造・品質・記録方法等を共通のルールで明確に記述した製品仕様書や、中立的な共通ルールにしたがった交換標準となるデータを作成することができる。

18) GIS

GIS は、地理情報システムを意味する **Geographic Information Systems** の略称であり、文字や数字、画像等を地図と結びつけてコンピュータ上に再現し、位置や場所からさまざまな情報を統合したり、分析したり、分かりやすく地図表現したりすることができる仕組みである。

19) 地物

地理情報標準プロファイルでは「地球上の位置に関連した実世界の現象」と定義され、本要領では道路本体や道路付属物のことを指す。

20) 地物項目の取得

「点データ」「線データ」「面データ」の 3 種類の図形要素を用いて、本要領に定める図形データの作図ルールに従い地物形状を完成平面図の CAD データ上に作図し、その属性情報を入力することである。また、作成した地物データは本要領に定めるレイヤ分類の規定に従い格納する。

3. 本要領の位置付け

本要領に関連する基準類は、以下の通りである。

- ① 「土木工事共通仕様書」(国土交通省各地方整備局発行)
- ② 「土木工事施工管理基準及び規格値(案)」(国土交通省各地方整備局発行)
- ③ 「工事完成図書の電子納品要領(案)」(平成16年6月 国土交通省)
- ④ 「CAD製図基準(案)」(平成16年6月 国土交通省)

本要領は、発注者および請負者を対象とし、「土木工事共通仕様書」で定められている完成図および特記仕様書で提出が謳われている工事施設帳票について、上記の関連する基準類に基づき、その作成方法および電子納品の方法等を規定するものとして位置付ける。

なお、本要領に規定していない事項については、上記の基準類に従うものとする。

また、上記の基準類が改訂された場合には最新の基準に読み替えるものとする。

【解説】

本要領は、発注者および請負者を対象とし、図3に示すとおり「土木工事共通仕様書」で定められている完成図および特記仕様書で提出が謳われている工事施設帳票の完成図書作成にあたり、その範囲や作成要領、および電子納品の方法等を規定するものとして位置付ける。

したがって、本要領の適用工事では、完成図のうち平面図および縦断図について、当面、従来作成している図面に代わり本要領に基づき作成した完成平面図を提出する。また、工事施設帳票については、本要領に基づき作成した道路施設基本データを電子納品するものとする。

なお、本要領は「CAD製図基準(案)」などを基本として定めており、本要領に規定していない事項については、図3に示す関連基準に従うものとする。

また、上記の基準類が改訂された場合には最新の基準に読み替えるものとする。

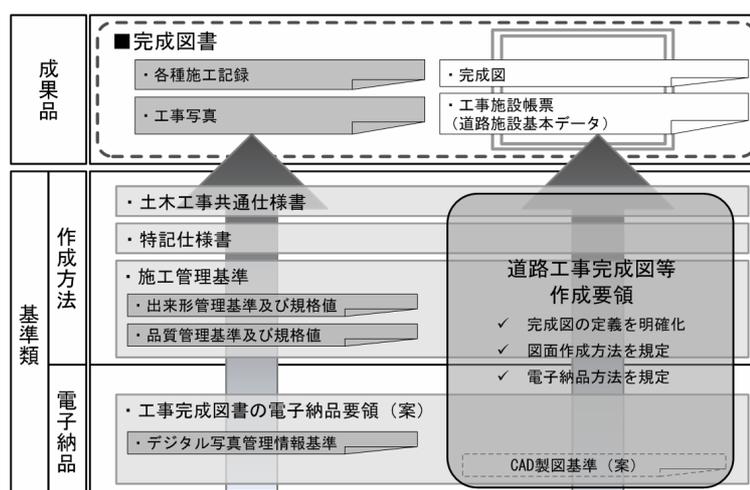


図3 本要領の位置づけ

「工事完成図書の電子納品要領(案)」および「CAD製図基準(案)」については、国土交通省のサイト(<http://www.cals-ed.jp>)より入手可能である。

その他参考となる基準類(完成図の作成で直接的に利用しないが、参考となるもの)の名称については、本要領の解説に随時記載する。

4 . 構成

道路工事における完成図等は、平面図、縦断図、横断図、構造図、構造詳細図、用地丈量図および工事施設帳票から構成する。

【解説】

道路工事における完成図は、平面図、縦断図、横断図、構造図、構造詳細図および用地丈量図から構成するものとし、これに工事施設帳票を加え、本要領における完成図等とする。

5. 適用工事

本要領では、舗装工事および道路修繕工事(管内全域で行う簡易な道路修繕工事等を除く)における平面図、縦断図、並びに全工事(道路施設に変更を加えない道路維持工事を除く)における工事施設帳票について、電子化した完成図等による電子納品を必須とする。

なお、これ以外の工事における完成図等については、従来どおり、受発注者間の事前協議の上で電子化の範囲等を決定し、電子納品を行うこととする。

【解説】

土木工事共通仕様書では、完成図の電子納品にあたり、電子化の範囲等について受発注者間での事前協議の上、決定するものとしている。これに対し、本要領では完成平面図および完成縦断図の作成による供用開始時の道路および道路施設の形状取得を趣旨とし、本線舗装を主体とする工事においては完成平面図および完成縦断図の CAD データ作成を必須とするものとした。

上記の趣旨に基づき、本要領を適用する工事と各工事において作成対象となる完成図および工事施設帳票の標準的な組み合わせを、新土木工事積算体系におけるレベル0事業区分およびレベル1工事区分に合わせ表1に示す。ここで、「」を附した舗装工事、共同溝・電線共同溝・情報ボックス工事および道路修繕工事の平面図・縦断図については、本要領に基づいた完成平面図および完成縦断図の作成と電子納品を必ず実施するものとする。ただし、共同溝・電線共同溝・情報ボックス工事および道路修繕工事については、新土木工事積算体系におけるレベル2工種で「舗装工」を含む工事を対象とし、例えば「道路土工」、「道路付属施設工」、「法面工」および橋梁関連工種(「橋梁床版工」、「橋梁支承工」、「橋脚巻き立て工」等)のみを対象とする工事は除くものとする。また、レベル2工種で「舗装工」を含む工事であっても、管内全域で行う舗装修繕のような簡易な道路修繕工事(小規模な欠損部補修作業等)については、平面図を作成する必要はないものとする。なお、表1では上記凡例の他、発注図書において標準的に組み込まれると思われる図面に「」を、参考的に示されるとと思われる図面には「-」を附した。

また、工事施設帳票については、除草、除雪および清掃等、道路施設に変更を加えない維持工事を除き、基本的に表1に示す全ての工事において作成するものとする。

なお、その他の工事を含め、表1で「」および「-」を附した図面については、従来通り、土木工事共通仕様書に準じ、受発注者間の事前協議の上で電子化の範囲等を決定するものとする。

表 1 本要領を適用する工事と完成図等の構成

事業区分 (レベル0)	工事区分 (レベル1)	完成図						工事施設 帳票
		平面図	縦断図	横断図	構造図	構造 詳細図	用地 丈量図	
道路新設・改築	道路改良	○	○	○	○	○	○	●
	舗装	●	●	○	○	○	—	●
	橋梁上部工(鋼・コンクリート)	○	—	—	○	○	—	●
	橋梁下部工	—	—	—	○	○	○	●
	トンネル(NATM・矢板) 地下横断歩道 地下駐車場 シェッド(コンクリート・鋼製)	○	—	—	○	○	○	●
共同溝・電線共同溝	共同溝 電線共同溝 情報ボックス	●※1	●※1	—	○	○	○	●
道路維持修繕・雪寒	道路維持	—	—	—	—	—	—	●※2
	道路修繕	●※3	●※3	○	○	○	—	●
	雪寒	○	—	—	○	○	—	●

(凡例) ●：本要領に基づく完成図等の作成、電子納品が必須

○：土木工事共通仕様書に準じ受発注者間と事前協議の上で電子化の範囲等を決定
(発注図書において標準的と思われる図面)

—：土木工事共通仕様書に準じ受発注者間と事前協議の上で電子化の範囲等を決定
(発注図書において参考的と思われる図面)

(注意) ※1：新土木工事積算体系のレベル2工種で「舗装工」を含まない共同溝、電線共同溝、情報ボックス工事については、平面図および縦断図を作成する必要はない。また、「舗装工」を含む工事であっても、仮復旧および道路の一部舗装のみを行う工事については平面図および縦断図を作成する必要はない。

※2：除草、除雪および清掃等、道路施設に変更を加えない道路維持工事については工事施設帳票を作成する必要はない。

※3：新土木工事積算体系のレベル2工種で「舗装工」を含まない道路修繕工事については平面図および縦断図を作成する必要はない。また、「舗装工」を含む工事であっても、管内全域で行う簡易な道路修繕工事（小規模な欠損部補修作業等）については平面図および縦断図を作成する必要はない。

6. 作成支援体制

本要領に基づく完成図および道路施設基本データの作成を支援するため、国土技術政策総合研究所は、道路工事完成図等作成支援サイト(<http://www.nilim-cdrw.jp/>)において各種支援サービスを提供する。請負者は、必要に応じて、作成支援サイトの各種サービスを利用するものとする。

【解説】

本要領に基づく完成図および道路施設基本データの作成を支援するため、国土技術政策総合研究所は、道路工事完成図等作成支援サイト(<http://www.nilim-cdrw.jp/>)（以下、「作成支援サイト」という。）において表 2 に示すような各種サービスを提供する。請負者は、必要に応じて、作成支援サイトの各種サービスを利用するものとする。

表 2 作成支援サイトによる提供サービス（平成 18 年 8 月現在）

提供サービス	内容
本要領に係わる基準類・ツール類およびサンプル等の提供	本要領を始め、各種チェックプログラムおよびサンプルデータ等、データ作成にあたり必要となる基準類・ツール類等をダウンロードできる。
完成平面図のデータチェックサービス	何らかの事情により Java ソフトウェアの利用環境が用意出来ない場合や解消されないエラーが残る場合には、サイトを通じて完成平面図のチェックを受けることができる。
各種問い合わせ（ヘルプデスク）	基準類・ツール類およびデータチェック等に関する質問をすることができる。

本要領では、作成支援サイトより提供される道路工事完成図等チェックプログラム（Java 言語で開発）による自己チェックを原則とし、その結果で合格した完成平面図の納品を義務付けている。なお、チェック全般の方法については、「[電子納品編 4.チェック方法](#)」に従うものとする。

. 作成編

1. 完成平面図

1-1. 作成範囲

完成平面図の作成範囲は、延長方向は工事起点から工事終点とし、横断方向は管理境界までとする。

【解説】

道路工事完成平面図の作成範囲は、図 4 に示すとおり延長方向については工区単位とするが、横断方向については、図 5 に示すとおり道路区域全体とし、工種に関わらず全ての地物を作成対象とする。なお、工区が重複する工事が発生する場合や、隣接工事が存在する場合には、特記仕様書等に示す作成範囲に基づくものとする。

なお、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 1-2.5) 取得対象項目」に従い、作成範囲における対象地物を取得するものとする。

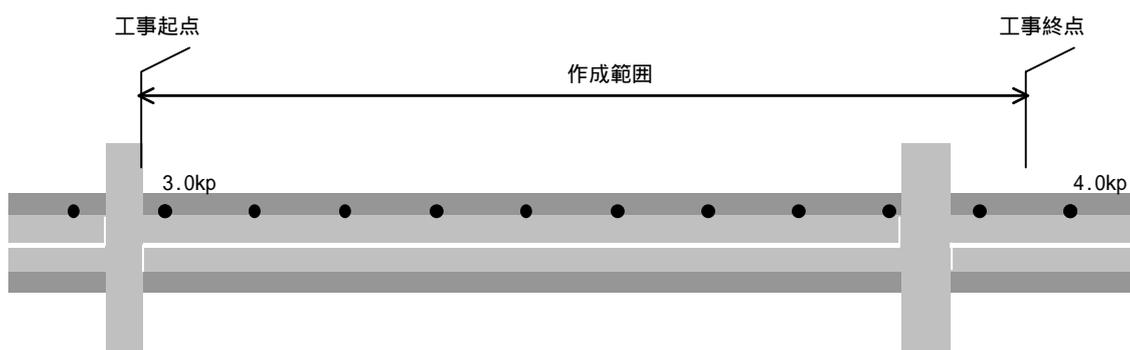


図 4 完成平面図の作成範囲（延長方向）

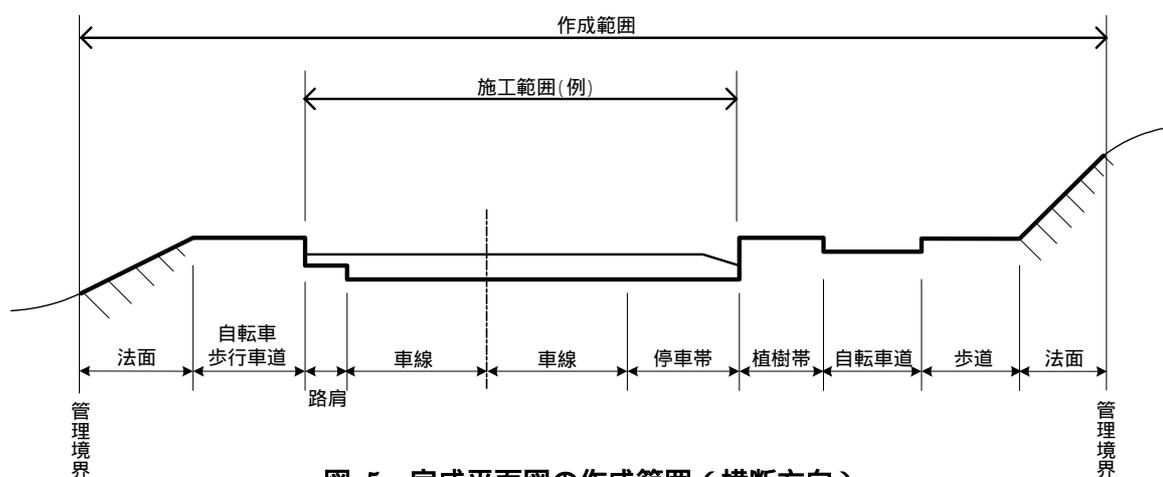


図 5 完成平面図の作成範囲（横断方向）

1-2 . 作成形状

完成平面図に示す形状は、設計変更後の最終の発注図を用いることを基本に、見え消しとした部分はすべて消去し、完成形状のみを表示したものとする。ただし、設計変更の対象とならなくても、監督職員の承諾を得て施工した箇所については、その承諾図の形状を反映するものとする。

なお、施工対象箇所と既設箇所については明確に区分できる表現とする。

【解説】

完成平面図は、維持管理での活用を想定し、設計変更で更新された最終的な発注図を用いることを基本に、当初発注図の見え消しとした部分はすべて消去し、工事の完成形状を表現するものとする。また、出来形測量結果のいわゆる「朱書き」は、別途出来形管理図に示し、完成平面図には表現しないこととする。ただし、設計変更の対象とならなくても、監督職員の承諾を得て施工した箇所については、その承諾図の形状を反映するものとする。

また、既設箇所を地形と同様の線種としたり、施工対象箇所を明示するなど、これらを明確に区別できる表現とする。

なお、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 1-2 . 8) 図形データの単位」に従い、施工対象箇所と既設箇所を別の図形として作成するものとする。

1-3 . 地形情報

完成平面図の作成にあたっては、発注図に含まれる地形情報を利用するものとする。

【解説】

完成平面図の作成にあたっては、発注図に含まれる各種形式の地形図情報を利用するものとする。

なお、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 1-2 . 12) 地形情報」に従い、ラスター形式またはベクタ形式により、地形情報を保持するものとする。

1-4 . 距離標

完成平面図には原則として工事区間内にあるすべての距離標を記載するものとする。なお、工事区間内の距離標が2点に満たない場合は、工事区間外にある直近の距離標を記載する。ただし、新設道路工事で距離標が未整備の場合は、測点を代用することができる。

【解説】

完成平面図の位置と方位を明らかにすることを目的として、図7に示すように供用後の位置を示す距離標を下記の要領で必ず2点以上となるよう記載する。なお、別途、平成18年度より全国直轄国道における1km毎の地点標を対象に4級基準点相当の測量が予定されており、当該距離標については、これらの成果を転記するものとする。

- ・ 工事区間内にある距離標はすべて完成平面図に記載するものとし、工事区間内の距離標が2点に満たない場合は、図6に示すように工事区間外にある直近の距離標を記載し2点を確保する。
- ・ 道路修繕工事で距離標を移設した場合は、移動後の距離標を完成平面図に記載する。
- ・ 新設道路工事で距離標が未整備の場合は、測点情報を用いて距離標を記載することができる。

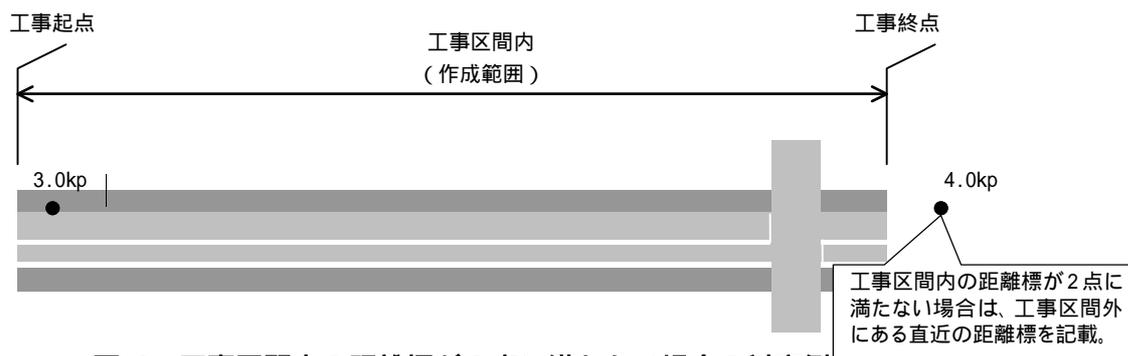


図6 工事区間内の距離標が2点に満たない場合の対応例

なお、距離標の移設に際しては、「一級国道地点標の設置について」および「地点標設置指針・同解説(案)の送付について」に準拠する。

また、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 1-2 . 10) 距離標の取得」に従うものとする。

1-5 . 旗上げ

完成平面図における旗上げには、設計変更後の最終形状寸法値および施工数量を記載する。

【解説】

完成平面図は契約図面に基づいて完成した工事目的物の完成形状を示した図面とするため、旗上げは、図7に示すように設計変更後の最終形状寸法値および施工数量を記載する。なお、設計変更とはせず、監督職員の承諾により施工したものについては、承諾図の値とする。

また、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 1-2 . 7) レイヤ分類」に従い、所定のレイヤに格納するものとする。

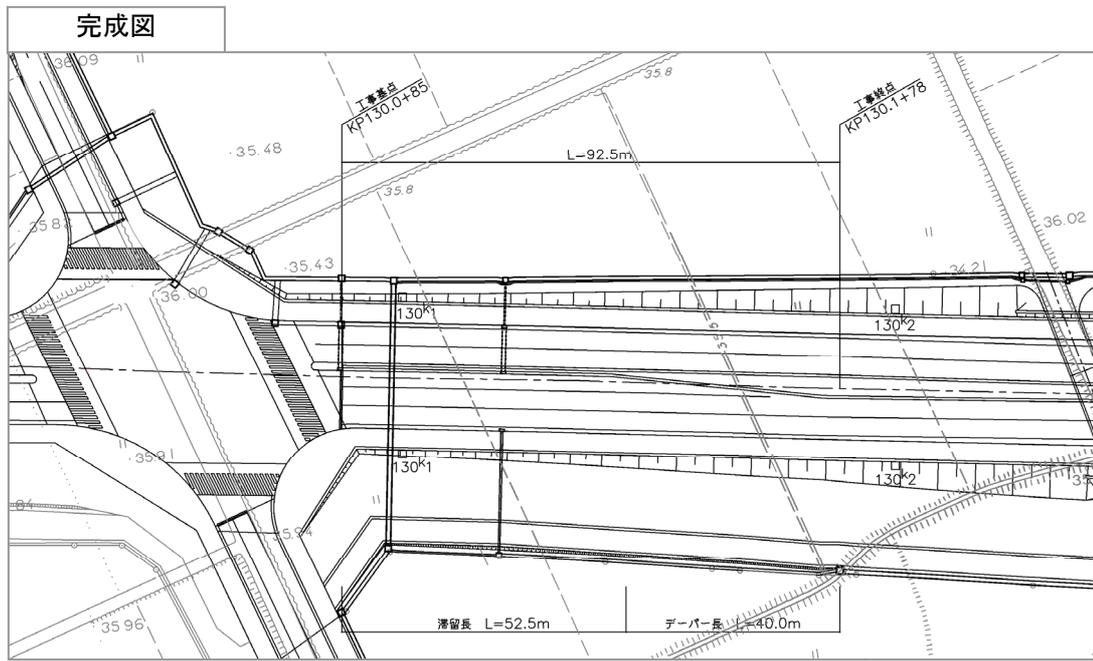
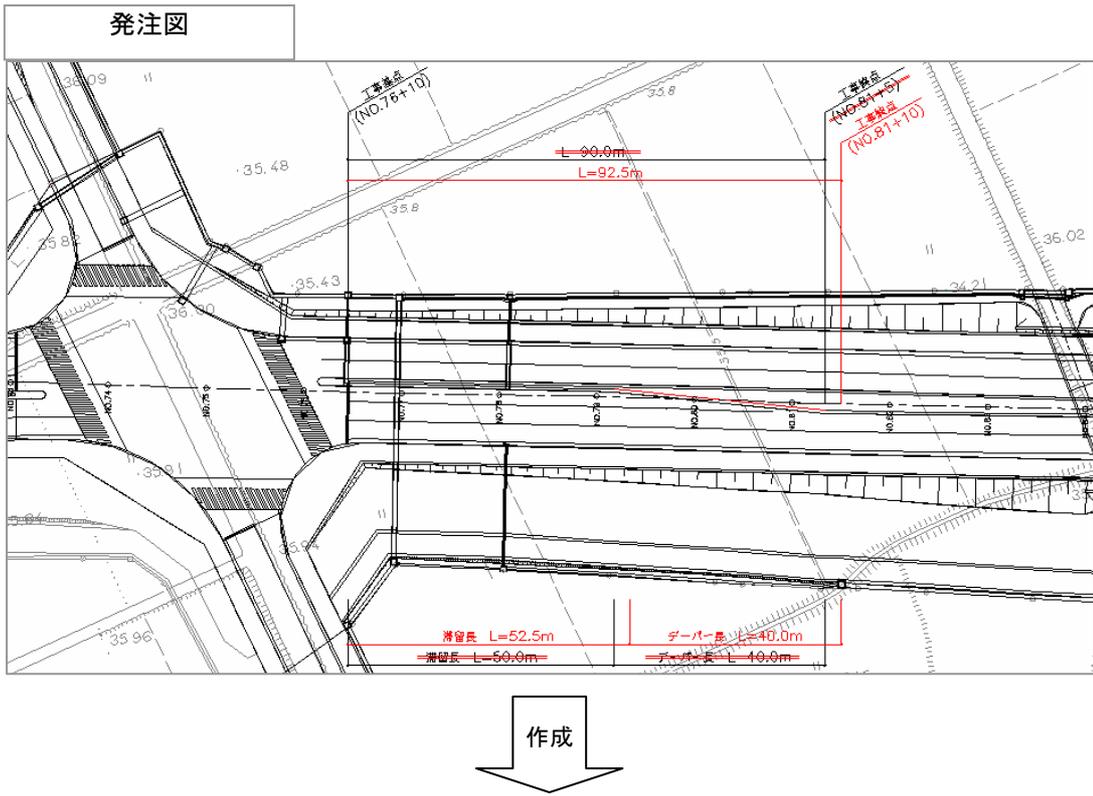


図 7 発注図と完成平面図の比較 (イメージ)

1-6 . 測点

完成平面図には道路中心線上に測点を記載する。測点間隔は、監督職員より貸与される縦断図の測点間隔に合わせる。ただし、監督職員より縦断図が貸与されない場合、測点間隔は20m（IC 区間は 10m）を標準とする。

【解説】

完成平面図に道路の高さ、勾配情報等を付すことを目的として、道路中心線上に測点を記載する。測点間隔は、監督職員より貸与される縦断図の測点間隔と合わせる。一方、監督職員より縦断図が貸与されない場合、測点間隔は 20m(IC 区間は 10m)を標準とし、測点番号は 100m 程度毎に記載する。

また、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 1-2 . 11) 測点の取得」に従うものとする。

2. 完成縦断図

2-1. 作成範囲

完成縦断図の作成範囲は、延長方向は工事起点から工事終点までとし、道路中心線の縦断構造を記載する。

【解説】

道路工事完成平面図の作成範囲は、延長方向は工事起点から工事終点までとし、完成平面図の作成範囲と合わせる。

2-2. 作成形状

完成縦断図に示す形状は、設計変更後の最終の発注図を用いることを基本に、見え消しとした部分はすべて消去したものとする。ただし、設計変更の対象とならなくても、監督職員の承諾を得て施工した箇所については、その承諾図の形状を反映するものとする。

【解説】

完成縦断図は、設計変更で更新された最終的な発注図を用いることを基本に、当初発注図の見え消しとした部分はすべて消去するものとする。また、出来形測量結果のいわゆる「朱書き」は、別途出来形管理図に示し、完成縦断図には表現しないこととする。ただし、設計変更の対象とならなくても、監督職員の承諾を得て施工した箇所については、その承諾図の形状を反映するものとする。

3. 工事施設帳票

3-1. 対象施設

電子納品する工事施設帳票の対象施設は、請負工事に含まれる施設の内、道路管理者（国土交通省）が管理する施設とする。

【解説】

電子納品する工事施設帳票の対象施設は、請負工事において新設または改良、撤去した施設の内、道路管理者（国土交通省）が管理する施設とする。

完成平面図の作成範囲とは異なり、請負工事に含まれる施設のみを対象とすることに留意すること。

なお、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 2-2.2）作成対象となる道路施設」に従うものとする。

3-2. 作成方法

道路施設を新たに設置・施工した場合には、その諸元情報を記載した工事施設帳票を所定の形式（道路施設基本データ）で作成する。また、施設の改良・撤去により既存の道路施設基本データに変更が生じた場合にはその更新を行う。

工事施設帳票は行政区境を考慮した区間毎に作成する。

【解説】

請負者は、新たに道路施設を設置・施工した場合、その道路施設に関する基本情報や詳細情報等を記載した工事施設帳票を所定の形式（道路施設基本データ）で作成する。また、施設の改良・撤去により既存の道路施設基本データに変更が生じた場合には、既存の道路施設基本データを発注者から借用して諸元情報を変更または追加する。

道路施設基本データの作成区間は、市区町村の行政区境を考慮する。

なお、電子納品の実施にあたっては、「 . 電子納品編 2-2. データ作成」に従うものとする。

Ⅲ. 電子納品編

1. 完成平面図

1-1. 趣旨

完成平面図は、工事目的物の完成形状を示した図面であり、施工された公物の管理および以後の計画・設計・工事等に利用されるものである。特に維持管理段階において利用される道路の基盤的なデータの整備においては、様々な属性や面的情報を有する品質の高い CAD データの蓄積が望まれる。

よって本編では、完成平面図の電子納品について、ファイル形式、距離標や車道部等の取得地物項目、レイヤ分類、作図ルール、属性入力方法、図面様式、チェック方法、格納フォルダから納品時の確認方法に至るまでを規定した。

【解説】

完成平面図を CAD データとして作成することで、工事後の維持管理における利用や次回工事発注時における発注図への活用を始め、様々な利用方法が考えられ、特に「道路基盤地図情報」に変換し GIS の大縮尺系の共通基盤として利用することにより、管理図を始め ITS 等の様々な目的に活用することが可能となる。

このため本編では、完成平面図の CAD データを維持管理段階において GIS に活用することを考え、電子納品に関連する事項を細かく規定した。本編に基づく電子納品を行うことにより、ひいては道路管理データベースシステム（通称 MICH I）等の各種データベースとの連携も可能となる。

よって本編では、図 8 に示すように様々な形式の発注図から「道路基盤地図情報」へ変換可能な完成平面図を作成し、電子納品するまでの手順全体を対象範囲とした。

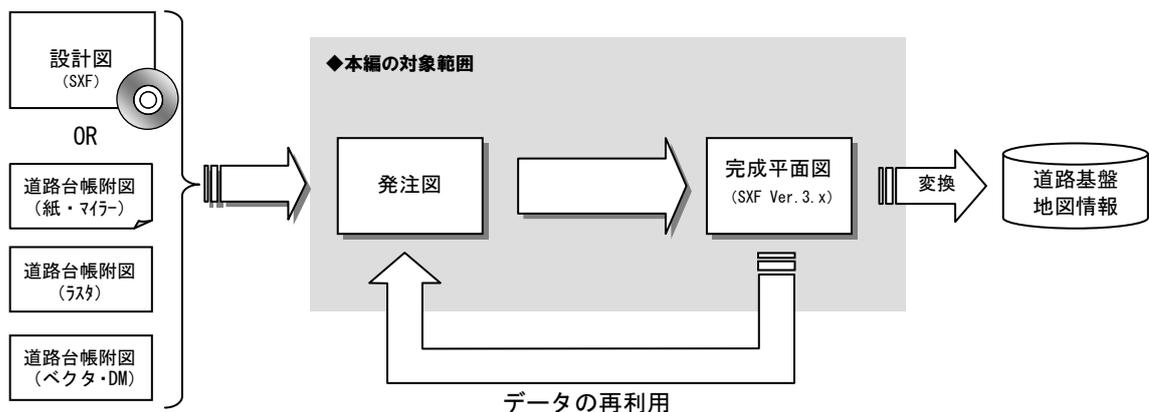


図 8 本編の対象範囲

本要領では「I. 共通編 5. 適用工事」にて規定したとおり、舗装工事および道路修繕工事では、本要領に基づいた完成平面図の作成と電子納品を必ず実施するものとし、発注図の形式（SXF、DM、ラスタ、紙図面等）にかかわらず、「1-2. データ作成」に従い SXF データを作成するものとする。なお、発注者が貸与するデータと請負者の作業の考え方については、「1-3. データ貸与と請負者の作業」に示すとおりとした。



図 9 完成平面図の画面イメージ

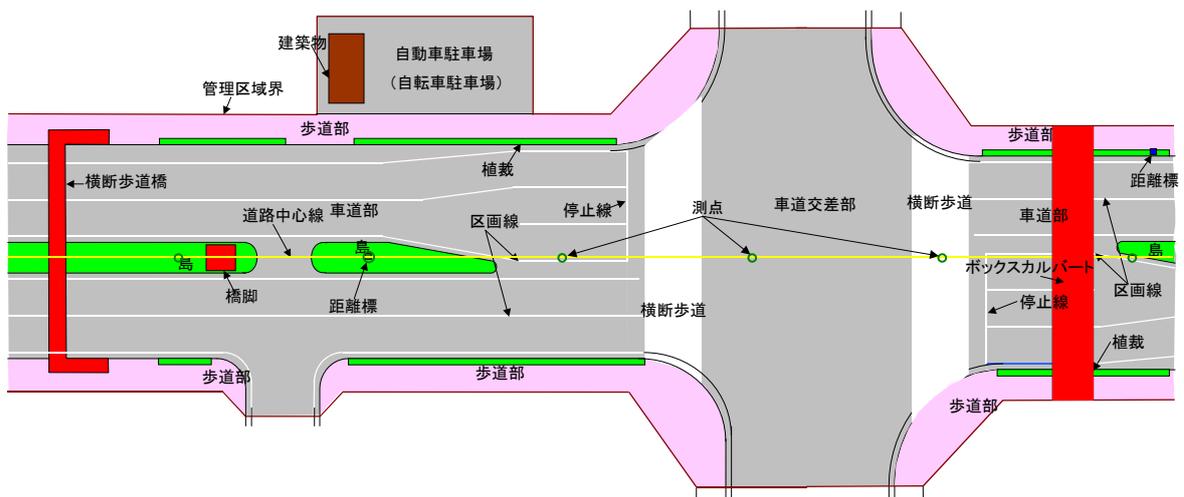


図 10 維持管理で用いる道路基盤地図情報のイメージ

1-2 . データ作成

1) ファイル形式

完成平面図のファイル形式は、図形データに任意の属性データを付与することができる SXF Ver.3.x の仕様に準拠するものとし、図形データ等を格納するファイルは P21 形式、属性データを格納するファイルは SAF 形式とする。

【解説】

完成平面図のファイル形式は、維持管理段階で GIS に活用することを踏まえ、図形データに任意の属性データを付与することができる SXF Ver.3.x の仕様を採用する。

SXF Ver.3.x 仕様における物理ファイル形式は、図形データ等を格納する P21 形式（拡張子 .p21）と、図形に対応した属性データを格納する SAF 形式（拡張子 .saf）の 2 つにより構成される。

・図形 SXF データ：P21 形式（拡張子 .p21）
・属性 XML データ：SAF 形式（拡張子 .saf） } SXF Ver.3.x データ

これら 2 つのファイルは、SXF Ver.3.x の属性付加機構を備えた「道路基盤地図情報交換属性セット（案）」に対応する CAD ソフトウェア上で作図および属性入力を行うことにより、自動的に作成される。ただし、2 つのファイルは同一フォルダ内に格納されなければ正しく利用できないため、電子納品時には必ず同一フォルダ内（DRAWINGF フォルダ内）に格納すること。

（補足）

現行の CAD 製図基準（案）では、SXF Ver.3.x の適用に関する規定はないため、本要領で独自に規定している。

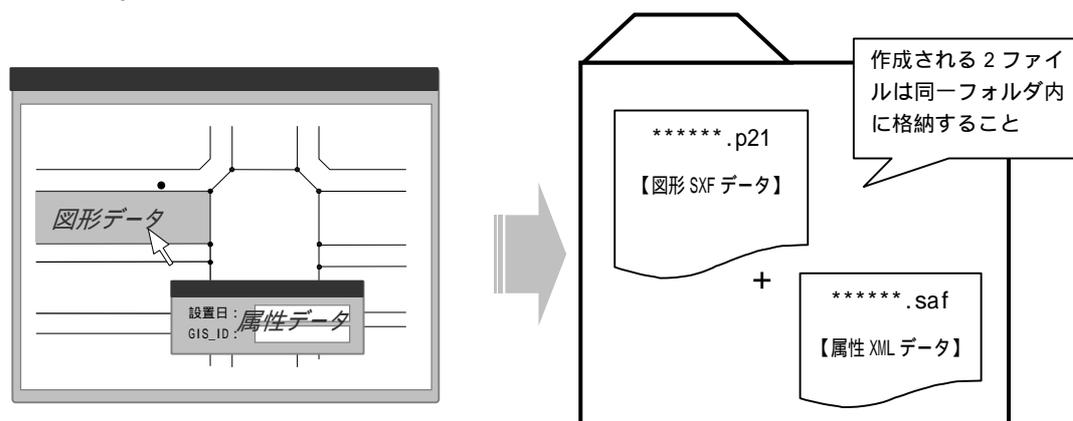


図 11 SXF Ver.3.x によるデータ作成（イメージ）

また、SXF Ver.3.x 対応の市販 CAD が普及するまでの間、暫定的に SXF Ver.2.0 でデータ作成することを可とし、その場合は表 3 に従い巻末資料 2 を参照する。特に留意すべき相違点は、

属性入力に関して、距離標および測点のみがその対象で、CSV ファイルにより作成するが、他の地物の属性は入力不要である。また、CAD データ上の距離標と測点の図形に関して、CSV ファイルに対応する文字コードを図上に配置する必要がある。

表 3 SXF Ver.2.0 で作成する場合の巻末資料 2 の参照箇所

目次構成 (本編 Ⅲ. 電子納品編 1、3)	巻末資料 2 を参照 する箇所 (記載項目)
1. 完成平面図	—
1-1. 趣旨	—
1-2. データ作成	1.、2.
1) ファイル形式	—
2) ファイル単位	—
3) 部分図の利用	—
4) 座標設定	—
5) 取得対象項目	—
6) 図形データ作成	2-1
7) レイヤ分類	2-2
8) 図形データの単位	—
9) 属性入力	2-3
10) 距離標の取得	1.、2-1~2-3
11) 測点の取得	1.、2-1~2-3
12) 地形情報	2-4
13) 図面様式	—
1-3. データ貸与と請負者の作業	—
4. 電子成果品としての整理方法	—
4-1. 成果品項目	—
4-2. 工事管理ファイル	—
4-4. 完成平面図ファイル命名規則	3.
4-7. 格納フォルダ	4.

2) ファイル単位

完成平面図のファイル単位は、原則 1 工事 1 ファイルとする。
ただし、工区が不連続な場合には、複数ファイルとすることもできる。

【解説】

完成平面図のファイル単位は、GIS データにおいて不整合等が発生する可能性のあるデータ接合箇所を極力抑えるため、工事区間延長が長い場合でも連続していれば、1 工事 1 ファイルを原則とする。

ただし、工区が不連続で 1 ファイルとしての作成が困難な場合には、複数ファイルとすることもできる。

3) 部分図の利用

完成平面図の作成においては、SXF仕様書における部分図の概念に基づき、全ての図形を一つの部分図に作図する。

【解説】

完成平面図は、「4)座標設定」で規定するように、平面直角座標系での図形データを表現するため、SXFの部分図に作図しなければならない。

SXF仕様書（建設情報標準化委員会CADデータ交換標準小委員会）によれば、『土木図面や建築図面では、一枚の図面に異なる縮尺で図形が表現される場合が多く、SXF仕様ではこの図面データ表現を実現するために「部分図」という概念を導入し、異なる縮尺での図形データの表示を可能』としており、『SXF仕様の図面データ表現は、用紙上に部分図を配置することによって行う』こととしている。

完成平面図の作成においても、これに従い部分図に作図を行うものとする。しかし、部分図は、それぞれに座標系の設定が可能であるため、複数の部分図を配置した場合には、操作画面では図形が正しく配置されているように見えても実際の座標値とずれた図形が発生することがある。よって、完成平面図は全ての図形を一つの部分図に作図するものとする。

図12に完成平面図における部分図の利用イメージを示す。

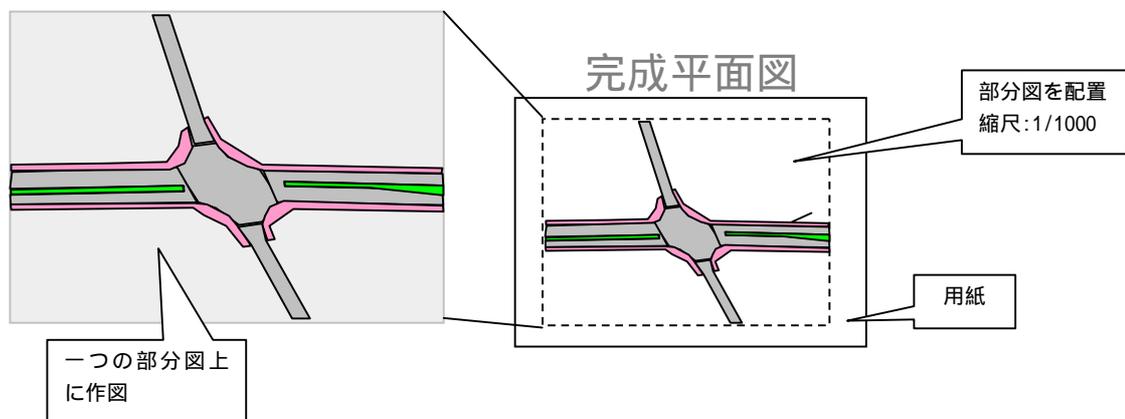


図12 部分図の利用イメージ

なお、この部分図は、作図に用いるCADソフトによって、名称が異なっていたり（「モデル」や「シート」など）、機能が若干異なったりすることが多く、操作や設定方法も一般的にそれぞれ異なるため、作図にあたっては、各CADソフトのマニュアル等を参照されたい。

4) 座標設定

完成平面図の座標系は世界測地系の平面直角座標系とする。発注図の座標系が日本測地系であった場合、座標変換を行う。

なお、作図における CAD ソフトの設定は次のとおりとする。

- ・ 座標設定は、「測地座標系」を基本とする。
- ・ 部分図の原点 (0,0) は、平面直角座標系の原点 (0,0) と一致させる。
- ・ 作図は実寸で行い、 P21 形式へ出力するときの単位はミリメートル (mm) とする。

【解説】

平成 14 年 4 月 1 日の測量法改正以後、全ての測量業務は世界測地系によるものとされており、完成平面図の作成においても、用いる座標系は世界測地系の平面直角座標系によるものとする。したがって、発注図の座標系が日本測地系であった場合、国土地理院の座標変換サービスや測量 CAD ソフトを用いる等、座標変換を行う必要がある。

次に SXF 仕様書では、2 種類の座標系 (「数学座標系」と「測地座標系」) を部分図ごとに使用できるものと規定しているが、完成平面図の作成における CAD ソフト上の座標設定は、この内、「測地座標系 (南北方向を X 軸、東西方向を Y 軸とする直交座標) 」を基本とする。なお、数学座標系しか設定できない CAD ソフトを利用する場合は、南北方向が Y 軸となるように作図するものとする。

また、図 13 のように原点の設定では、部分図の原点 (0,0) を地域で定められた平面直角座標系の原点 (0,0) と一致させる。なお、実際の CAD ソフト上の画面では、用紙にあわせて座標軸を回転させることから、図面上の真上が北とならない場合が多い。

さらに、作図は実寸で行い、P21 形式へ出力するときの単位は SXF 仕様書に基づいて必ずミリメートル (mm) となるようにする。

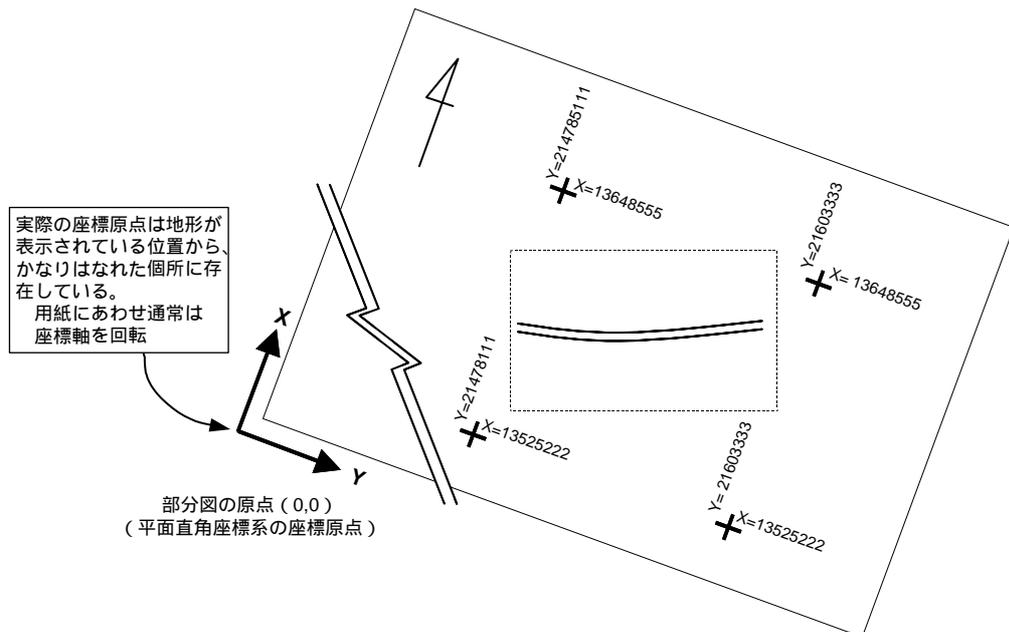


図 13 CAD ソフト上での座標設定のイメージ

5) 取得対象項目

完成平面図は、表 4 に示す 30 種類の地物項目を取得対象とし、請負工事の施工対象に関わらず、施工工区の道路区域内における全ての地物項目を取得するものとする。

ただし、表 5 に示すように、本要領で定める形式で既設の地物が既に作図された平面図を発注図として貸与される場合には、施工対象の地物項目のみを更新し、完成平面図を作成するものとする。

また、各地物項目の取得にあたっては、「6) 図形データ作成」の作図ルールに従うものとし、作成したデータについては、「7) レイヤ分類」に規定するレイヤへ格納するものとする。特に、「道路面地物」に分類される 9 種類の面データについては、隣接する面データの境界線が一致するよう留意する。なお、距離標の取得については、「10) 距離標の取得」に従うものとする。

表 4 取得対象とする地物項目

図形名称	図形要素		
	面	線	点
道路中心線			
距離標			
管理区域界			
測点			
道路面地物	車道部		
	車道交差部		
	踏切道		
	軌道敷		
	島		
	路面電車停留所		
	歩道部		
	自転車駐車場		
	自動車駐車場		
植栽			
区画線			
停止線			
横断歩道			
横断歩道橋			
地下横断歩道			
建築物			
橋脚			
盛土法面			
切土法面			
斜面对策工			
擁壁			
ボックスカルバート			
シット			
シルター			
橋梁			
トンネル			

表 5 発注図の形式による取得対象

	施工対象の地物	既設の地物
本要領で整備されていない発注図の場合 (発注図が電子化されていない場合も含む)		
本要領で整備された発注図の場合		

凡例： ◻ : 取得する、 ◻ : 取得しない

【解説】

本要領で取得対象とする地物項目は、道路管理者がサービスを実現する上で必要となる共用性の高い情報として「道路基盤地図情報製品仕様書（案）」（国土交通省）の中で定められている 30 地物とする。表 4 に本要領における図形名称とその図形要素を示す。

発注図が電子化されていない、もしくは本要領に準じて整備されたものではないなど、完成平面図を新規に作成する必要がある場合は、施工工区の道路区域内において、表 4 に示す地物項目を全て取得する。また、発注図として貸与された図面が、本要領に準じて整備されたものであった場合、表 4 を参考に、当該工事における取得対象地物を確認の上、変更が生じた地物についてのみ修正を行う。加えて、表 4 で対象とする地物に変更がない場合は、発注図の平面図をそのまま完成平面図として提出することができる。

なお、工区が重複する工事が発生する場合や、隣接工区が存在する場合には、特記仕様書等に示す作成範囲に基づくものとする。

次に、各地物の取得にあたっては、本節「6) 図形データ作成」、および「10) 距離標の取得」に規定する各図形要素の作図ルールに従うものとする。特に、「道路面地物」に分類される 9 種類の面データについては、組み合わせられることで道路面を一体的に構成する地物であり、隣接する面データ同士の境界線が一致する必要があるため、十分に留意する。また、作成したデータについては、同「7) レイヤ分類」に規定するレイヤへ格納するものとする。

6) 図形データ作成

・作成する図形の種類

完成平面図の作成に用いる図形は、「点データ」「線データ」「面データ」の3種類とし、それぞれ使用可能な図形要素を表6に示す。

なお、地物毎に用いる図形の種類（形状）は、巻末資料1を参照のこと。

表6 図形の種類

図形の種類	利用可能な図形要素
点データ	点
線データ	直線、円弧
面データ	面（ハッチング）

・作図ルール

図形の作図にあたっては、「CAD製図基準（案）」に準拠した上で、表7の作図ルールに従うものとする。

表7 作図ルール

図形の種類	作図ルール
点データ	<ul style="list-style-type: none"> ・位置座標 (x, y) 1点のみを持つデータとする。 ・点の表示方法は円形または四角形を用い、色は巻末資料1に示す各地物仕様に従う。
線データ	<ul style="list-style-type: none"> ・直線および円弧を利用して作成する。 ・線種および線の太さは任意とし、色は巻末資料1に示す各地物仕様に従う。 ・楕円弧、スプラインを利用してはならない。 ・途切れのある線データは作成してはならない。 ・ねじれ構造（自己交差）の線データは作成してはならない。
面データ	<ul style="list-style-type: none"> ・領域を塗りつぶすハッチングで作成する。 ・ハッチングの種類は任意とするが、色は巻末資料1に示す各地物仕様に従う。 ・CADソフトが提供するブロック等のテンプレート図形を利用してはならない。《道路面地物のみに適用》 ・隣接する道路面地物の面データは、接合箇所を一致させ、重ねたり離したりしてはならない。

【解説】

図形データの作成では、SXFの仕様に従った図形要素として、点データ、線データおよび面データの3種類を用いることとする。

点データについては、視認性を確保するため、SXF仕様におけるマーカコードとして「2: circle」または「5: square」を用いるものとし、円図形等を別途追加した表現は不要とする。なお、着色は巻末資料1に示す各地物仕様に従う。

線データについては、GISデータへの変換を適正に行うため、途切れのある線データおよびねじれ構造（自己交差）のある線データを作成してはならない。

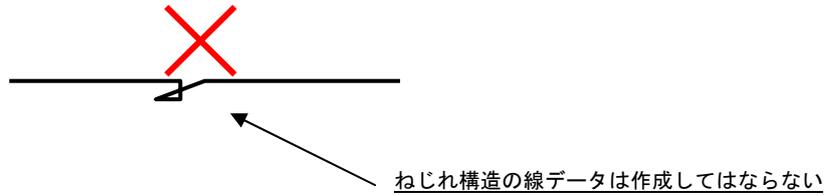
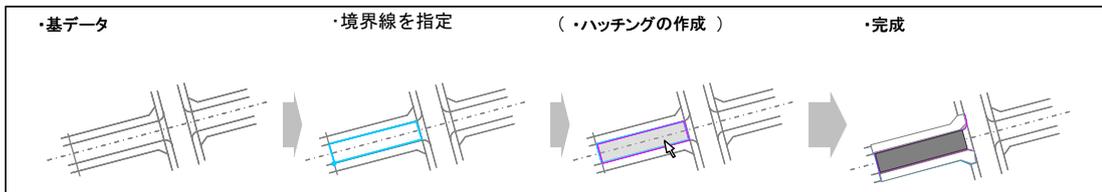


図 14 線データの作成（ねじれ構造の禁止）

面データについては、SXF Ver.3.x 固有の機能である「既定義ハッチング（Area_control）」を用いる。これは、従来のハッチングと異なり、点データや線データと同様に、特定の領域に任意の属性を付加することが可能なデータ形式であるが、作成方法自体は従来のハッチングと同様の操作が一般的であり、詳細は「道路基盤地図情報交換属性セット（案）」対応の CAD ソフトのマニュアルを参照されたい。また、隣接する道路面地物の面データの作成時には、接合箇所を一致させ、重ねたり離したりしてはならない。

境界線を指定して面データを作成



区切り線の追加により領域を指定して面データを作成

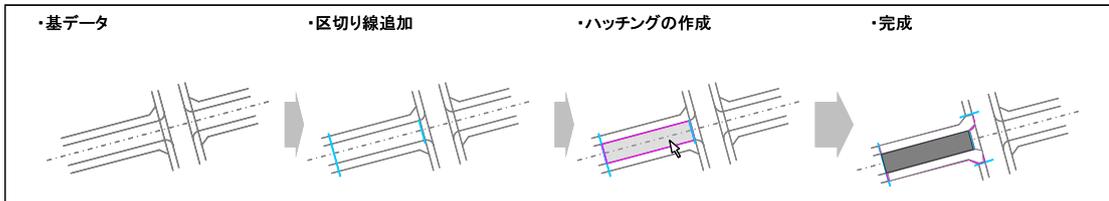


図 15 面データの作成手順例

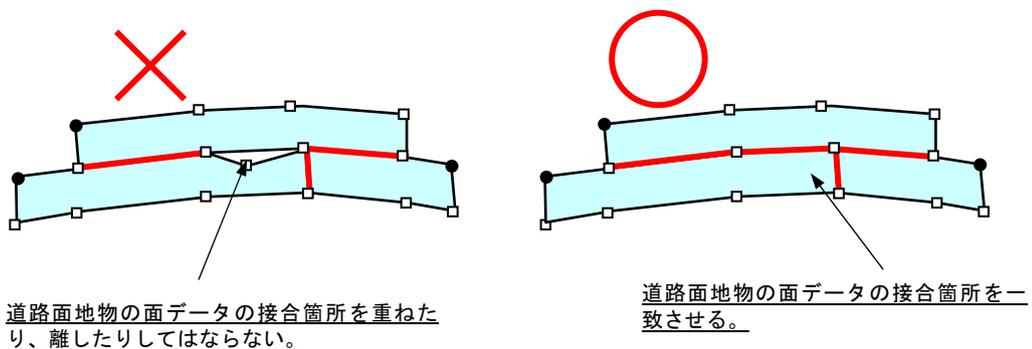
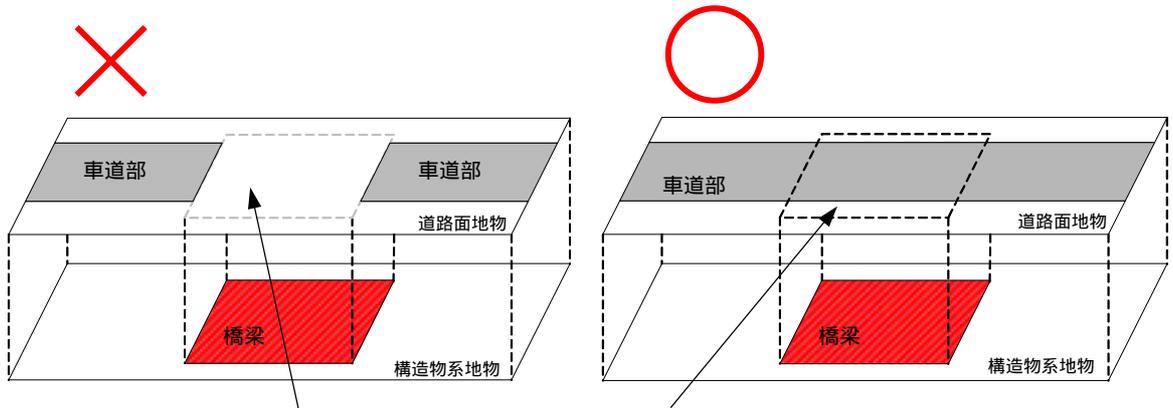


図 16 道路面地物の面データ作成（接合箇所の一致）

なお、SXF Ver.2.0 を利用する場合には、面データについて従来のハッチングを用いるとともに、距離標の点データと属性データを関連付けるためのテキストデータである「地物コード」を配置する（巻末資料 2 2.作成方法 参照）。

車道部や歩道部などで構成される道路面地物については、橋梁やトンネルなどの構造物系地物(道路支持地物)がある場合でも連続して存在するものであるため、面を切断することなく、連続して作成すること。



橋梁やトンネルなどの構造物地物がある場合でも車道部などの道路面地物は連続して存在するものであるため、切断することなく、連続して作成すること。

図 17 道路面地物の作成 (連続した面の作成)

7) レイヤ分類

本要領に従い完成平面図に作成した地物データは、表 8 の太枠内に示すレイヤに格納する。また、その他のデータは「CAD 製図基準 (案)」に従いその他のレイヤに格納する。

表 8 レイヤ分類一覧表

分類	図形名称	レイヤ名	図形要素				着色	備考	
			面	線	点	その他 (文字列、 エラスタ)			
本要領で規定した地物を格納するレイヤ	道路中心線	C-BMK					黄		
	距離標	C-BMK-BMKZ-KMPOST					緑		
	管理区域界	C-BMK-BMKZ-BOUNDARY					橙		
	測点	C-BMK-BMKZ-STATION					緑		
	道路面地物	車道部	C-STR-STRZ-ROADWAY					暗灰	道路面を構成する地物 (隣接する面データの境界形状一致が必要)
		車道交差部	C-STR-STRZ-CROSSING					暗灰	
		踏切道	C-STR-STRZ-RAILROADCROSS					赤	
		軌道敷	C-STR-STRZ-TRAMAREA					赤	
		島	C-STR-STRZ-ISLAND					黄緑	
		路面電車停留所	C-STR-STRZ-TRAMSTOP					赤	
		歩道部	C-STR-STRZ-SIDEWALK					桃	
		自転車駐車場	C-STR-STRZ-BICYCLEPARK					暗灰	
		自動車駐車場	C-STR-STRZ-CARPARK					暗灰	
	植栽	C-STR-STRZ-PLANT					黄緑	道路面以外を構成する地物 (隣接面データの形状一致は必要としない)	
	区画線	C-STR-STRZ-LINE					白		
	停止線	C-STR-STRZ-STOPLINE					白		
	横断歩道	C-STR-STRZ-CROSSWALK					白		
	横断歩道橋	C-STR-STRZ-PEDESTRIANBRIDGE					赤		
	地下横断歩道	C-STR-STRZ-UNDERPASSWALK					赤		
	建築物	C-STR-STRZ-BUILDING					茶		
	橋脚	C-STR-STRZ-PIER					赤		
	盛土法面	C-STR-STRZ-BANK					緑		
	切土法面	C-STR-STRZ-CUT					橙		
	斜面対策工	C-STR-STRZ-SLOPE					赤		
	擁壁	C-STR-STRZ-WALL					赤		
	ボックスカルバート	C-STR-STRZ-BOX					赤		
	シット	C-STR-STRZ-SHED					赤		
	シェルター	C-STR-STRZ-SHELTER					赤		
	橋梁	C-STR-STRZ-BRIDGE					赤		
	トンネル	C-STR-STRZ-TUNNEL					紫		
その他のレイヤ	外枠	C-TTL						図面表記用 (図枠、表題欄、地形図)	
	タイトル枠	C-TTL-FRAM							
	区切り線、罫線	C-TTL-LINE							
	文字列	C-TTL-TXT							
	現況地物	C-BGD							
	等高線の計曲線	C-BGD-HICN							
	等高線の主曲線	C-BGD-LWCN							
	主な横断構造物	C-BGD-CRST							
	ラスタ化された地図	C-BGD-RSTR							
	特に明示すべき現況地物	C-BGD-EXST							
	旗上げ	C-BGD-HTXT							
	基準となる点(測量ポイント)	C-BMK-SRVR							
	用地境界(幅杭)	C-BMK-ROW							
	旗上げ	C-BMK-HTXT							
	主構造物外形線(道路幅員)	C-STR							
	構造物1(橋梁)	C-STR-STR1							
	構造物2(トンネル)	C-STR-STR2							
	構造物3(連絡等施設)	C-STR-STR3							
	構造物4(盛土のり面)	C-STR-STR4							
	構造物5(切土のり面)	C-STR-STR5							
	構造物6(平場)	C-STR-STR6							
	構造物7(擁壁)	C-STR-STR7							
	構造物8(側道)	C-STR-STR8							
	構造物9(歩道)	C-STR-STR9							
	構造物A(取付け道路)	C-STR-STRA							
	構造物B(用排水構造物)	C-STR-STRB							
	構造物C(交通安全施設)	C-STR-STRC							
	構造物n(その他の構造物等)	C-STR-STRn							
	寸法線、寸法値	C-STR-DIM							
	文字列	C-STR-TXT							
	旗上げ	C-STR-HTXT							
	リッチ、シボ、肌、差りつぶり、記号等	C-DCR							

【解説】

現行の「CAD 製図基準（案）」で規定されているレイヤ分類は、レイヤ単位の色や線種、画面上の表示・非表示および紙への出力・非出力の設定等、主に図面としての閲覧や出図の作業性を重視したものとなっており、格納する個々の図形データを連想しにくい名称となっている。

本要領では、各地物データの作成とチェックの作業性に重点を置くものとし、地物と格納するレイヤの対応関係を明確にするため、一地物ごとにレイヤ分類を行うとともに、4 階層のレイヤ命名則を採用し、格納する地物を連想可能なレイヤ名としている。

また、「CAD 製図基準（案）」で定められていないレイヤを使用するため、図面管理ファイルの記入にあたっては「4-2 . 図面管理ファイル」に従うものとする。

なお、SXF Ver.2.0 を利用する場合には、「距離標」、「測点」および「ラスタ化された地図」を格納するレイヤに、属性情報と図形情報に対応付けるための「地物コード」および「ファイル名コード」をテキストとしてそれぞれ追加する必要がある（巻末資料 2 1.SXF Ver.3.x との相違点 参照）。

（補足）

現行の「CAD 製図基準（案）」では 4 階層のレイヤ命名則を採用していないため、本要領で独自に規定している。4 階層のレイヤ命名則を採用したため、通常の電子納品のチェックプログラムを利用する際、レイヤ名称の文字数に起因するエラーが検出される。このエラー対応を含め、完成平面図の電子納品に関するチェックについては「5 . チェック方法」に従うものとする。

8) 図形データの単位

図形の作成にあたっては、施工対象箇所の図形と既設箇所の図形を区分するものとする。また、同区分の図形については、極力分割しないことが望ましいが、作業の都合上やむを得ない場合はこの限りでない。

【解説】

図形の作成にあたっては、請負工事の施工対象箇所を明確にするため、図 18 に示すよう、施工対象箇所と既設箇所は別の図形とすることとする。

また、同区分の図形については、属性の入力漏れやファイル容量の増大、隣接データとの境界のずれ等を防ぐため、図 19 に示すように、線や面を分割せず極力連続して作成することが望ましい。ただし、工事区間延長が長い等、作業に支障をきたす場合はこの限りでない。

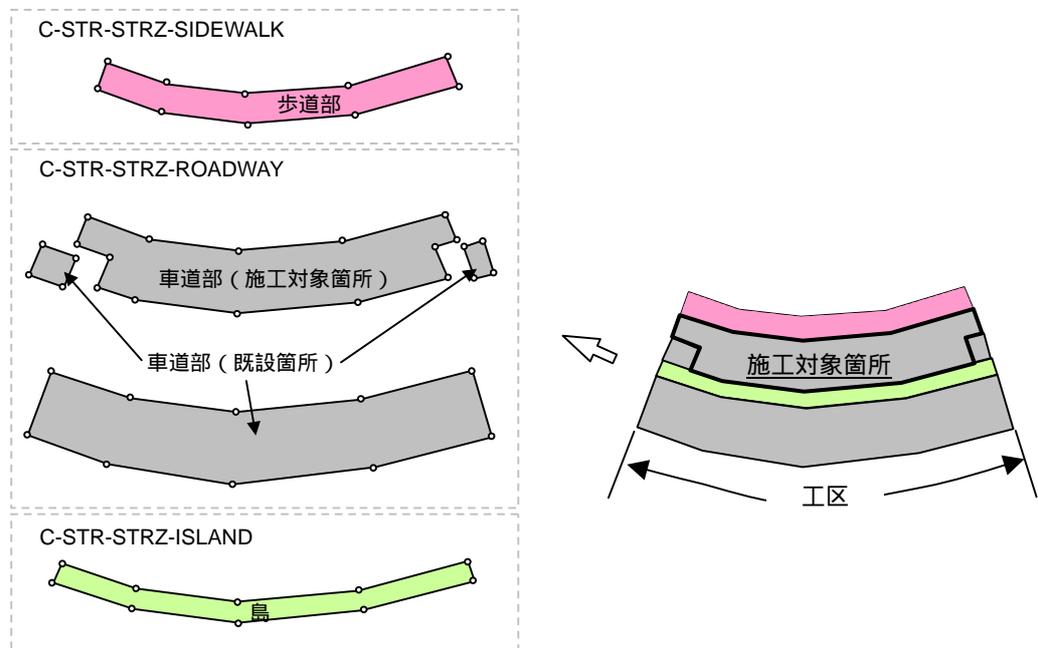


図 18 図形データの区分 (イメージ)

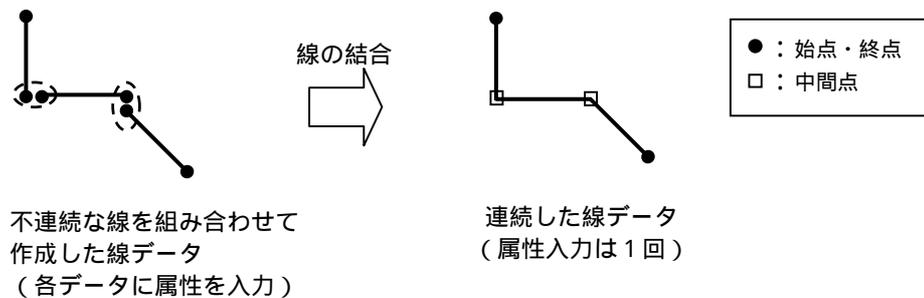


図 19 連続した線データの作成例

9) 属性入力

完成平面図の各地物には、表 9 に示す属性項目を入力する。属性項目のうち“設置日”については、施工対象箇所は工事完了日とし、既設箇所は既存の完成平面図に工事完了日が記載されている場合にはその日とし、不明な場合には“不明”と入力する。

表 9 入力する属性項目

地物名	入力する属性項目
距離標	設置日、路線番号、現旧区分、上下区分、接頭文字、距離程、種別、緯度、経度、高さ
測点	設置日、測点番号、追加距離、高さ、横断勾配(左)、横断勾配(右)
距離標および測点以外の地物	設置日

【解説】

属性は、表 9 に示す属性項目を図形単位で入力する。なお、属性項目のうち“設置日”については、各地物を施工対象とした最新の工事の完了日とする。ただし、当該工事において施工対象外となる地物の“設置日”については、既存の完成平面図に工事完了日が記載されている場合にはその工事完了日を入力し、不明な場合には“不明”と入力する。

また、SXF Ver.2.0 で作成する場合、距離標および測点以外の地物項目については、工事管理ファイル (INDEX_C.XML) の「工事件名等 - 工期終了日」から“設置日”が推定できるため、暫定的に属性を入力しないこととした (巻末資料 2 2.作成方法 参照)。ただし、距離標および測点は表 9 に示す属性項目を CSV 形式で入力する。なお、CSV ファイルの作成にあたっては、作成支援サイト (<http://www.nilim-cdrw.jp/>) より提供される「距離標・測点属性入力支援ツール」(Excel 形式ファイル) を利用すること。

10) 距離標の取得

距離標の属性として入力する緯度、経度、高さについては、別途現地計測された距離標の情報を監督職員より借用して利用するものとし、必ず2点以上確保するものとする。

ただし、新設舗装工事で距離標が未整備である場合には、設計・施工時の測点情報を用いて距離標地物を作成することができる。

また、道路修繕工事において、現地計測された距離標を2点以上確保できない場合には、その後の測量実施を勘案し、工事区間の起終点近傍の百米標2点の測量について、監督職員と協議を行うこととする。

【解説】

完成平面図に記載する距離標には、「一級国道地点標の設置について」および「地点標設置指針・同解説(案)の送付について」に基づき、設置日、路線番号、現旧区分、上下区分、接頭文字および種別等の基本情報に加え、緯度・経度、高さ(T.P.)および距離程を属性として入力するものとする。このうち、1km毎の地点標における緯度、経度および高さ等の位置情報については、別途、平成18年度より全国の直轄国道における1km毎の地点標を対象に4級基準点相当の測量が予定されているため、当該成果を監督職員より借用して利用するものとする。なお、GISの大縮尺系の共通基盤である「道路基盤地図情報」へ変換する際の完成平面図の位置を固定するため、少なくとも1ファイルにつき2点以上の距離標を確保するものとする。

また、1km毎の地点標を補完する百米標の属性については、CAD上でプロットした座標値を変換した緯度、経度を入力し、高さ(T.P.)には“0”と入力することによりよい。

ただし、新設舗装工事において、距離標が未整備である場合には、発注図に記載されている測点情報を用いて距離標地物を作成できるものとし、測点の緯度・経度および高さについては、設計時に用いた座標値および計画路面高から求めてよい。

なお、現地計測された1km毎の地点標が工事区間に1点しかない、もしくは1点もない場合には、工事において距離標の緯度・経度、高さを測量し、これを代用することで2点を確保する必要がある。この場合、その後の1km毎の地点標に対する測量実施を勘案し、工事区間の起終点近傍の百米標を対象とするものとし、実施に当たっては、監督職員と協議を行うものとする。

現地計測を行う場合は、TS法およびGPS法等を用い、その精度は4級基準点測量と同レベルとし、公共測量作業規程に基づく基準点測量の実施は不要とする。

また、計測作業については、以下の方法を基本とする。

- ・ 位置：距離標近傍の路面に鉋を打設するなどして、作業性を確保した上で計測する。
- ・ 高さ：距離標が設置されている直近の路面高(T.P.)を計測する。計測時に利用する水準点は、近傍にある水準点や施工時に仮設されたベンチマークとする。

なお、距離標の記載全般については、「作成編 1-4. 距離標」に従うものとする。

11) 測点の取得

測点の属性として入力する測点番号、追加距離、高さ、横断勾配（左）、横断勾配（右）については、監督職員より貸与される縦断図および横断図に記載されている測点番号、追加距離、計画路面高、計画横断勾配を利用する。監督職員より縦断図および横断図が貸与されない場合、出来形測量結果として整理した測点番号、追加距離、路面高、横断勾配を入力する。

【解説】

測点の属性として入力する測点番号、追加距離、高さ、横断勾配（左）、横断勾配（右）については、監督職員より貸与される縦断図および横断図に記載されている測点番号、追加距離、計画路面高（T.P.）、横断勾配の値を利用する。

高さ属性および横断勾配属性は、図 20 を参考に inputs する。なお、横断勾配（左）には工事起点から終点方向に向かって左側車線の横断勾配値、横断勾配（右）には工事起点から終点方向に向かって右側車線の横断勾配値を入力する。横断勾配の属性値は、道路中央部から外側に向かう場合は「-」の符号を記載し、逆勾配の場合には「+」の符号を記載する（「+」については省略可）。また、中央分離帯が設置されている道路における高さの属性値は、図 21 を参考に右側および左側の各々の路面高の平均値を入力する。

監督職員より縦断図および横断図が貸与されず、計画路面高や横断勾配の設計値が不明な場合は、出来形測量により取得した値を代用する。高さ属性の入力値は表 10 を参考に取得する。路面高が取得できない場合は、高さの属性に“9999.999”を入力すること。

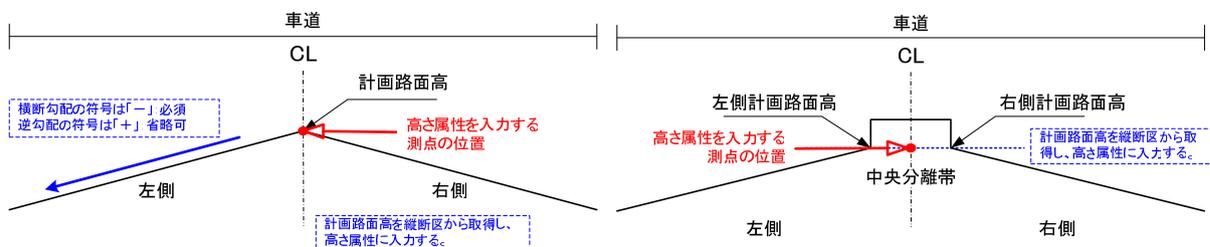


図 20 一般的な道路における高さ属性を入力する測点の位置

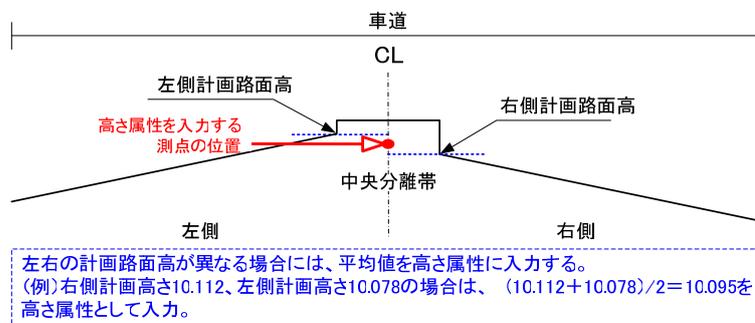


図 21 右側と左側で計画路面高が異なる場合の高さ属性を入力する測点の位置

交差点や拡幅箇所等にて複数の横断勾配が存在する場合は、本線部分（または主たる部分）の横断勾配を対象に取得するものとし、すり付け部分等の勾配は対象としない。

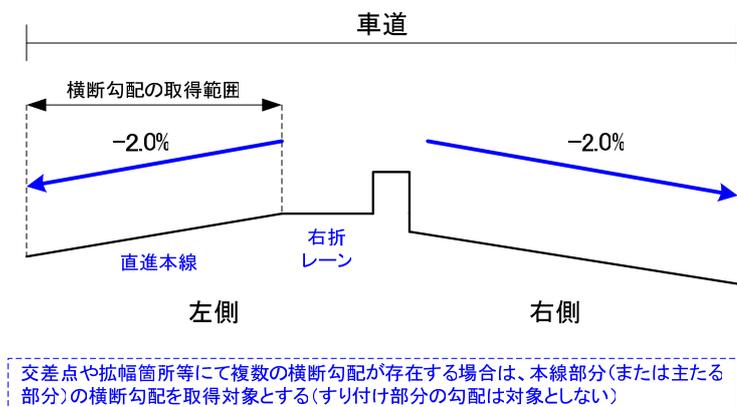


図 22 交差点や拡幅箇所等にて複数の横断勾配が存在する場合の横断勾配の取得方法

一方向単路における横断勾配の取得方法については、図 23 を参考に、道路中心線を境にして左右の横断勾配を入力する。片勾配の場合は左右で符号が異なることに留意して入力すること。

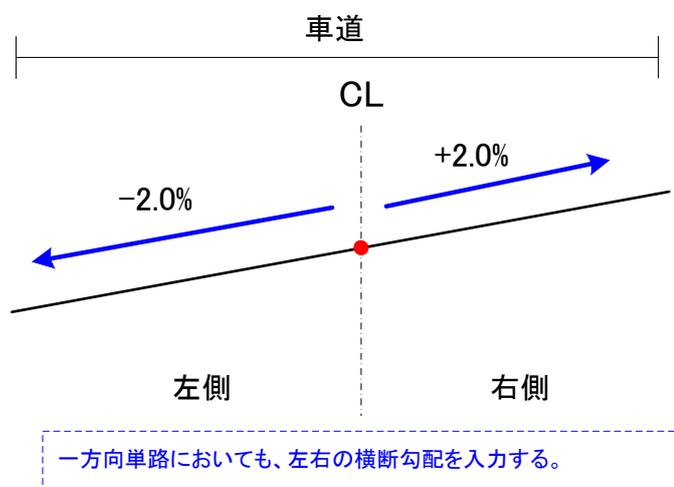
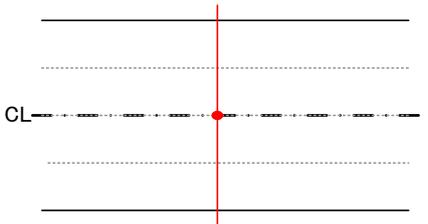
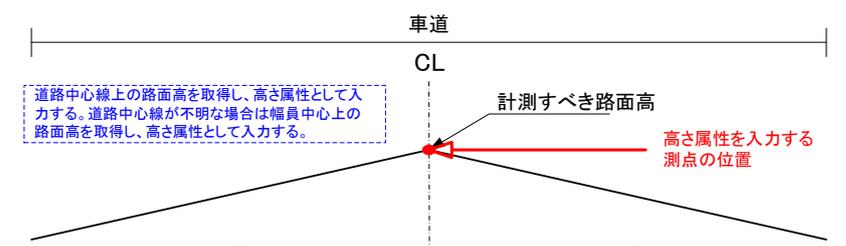
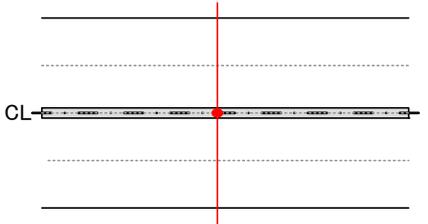
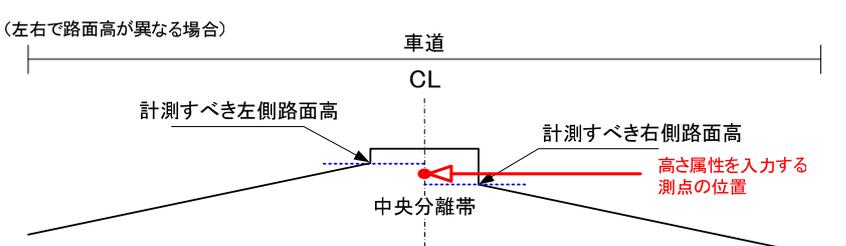
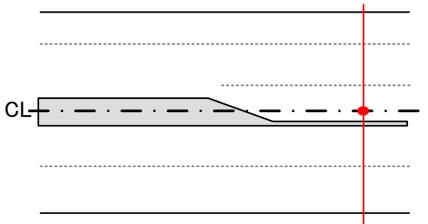
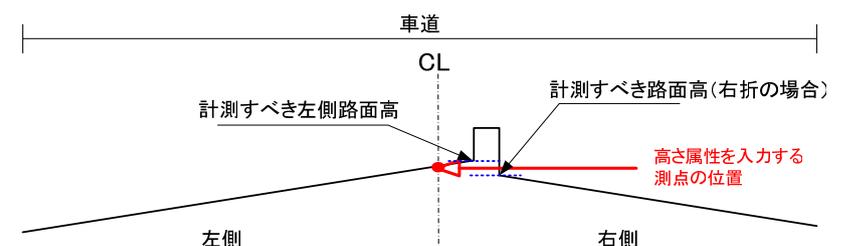
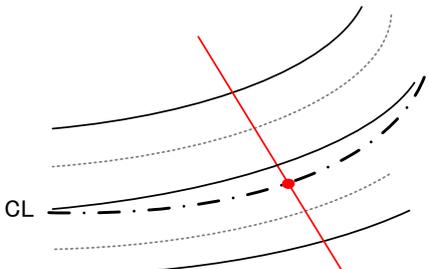
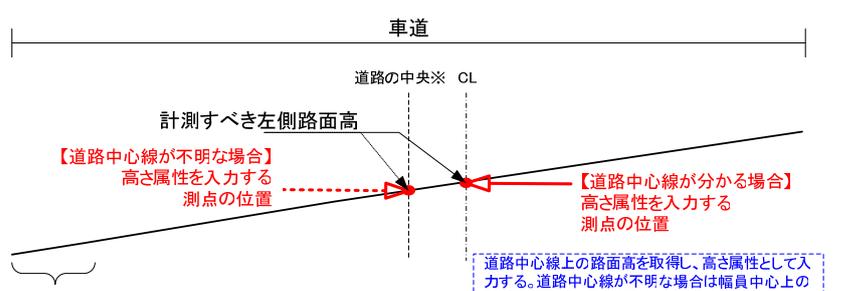
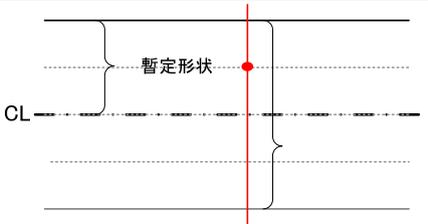
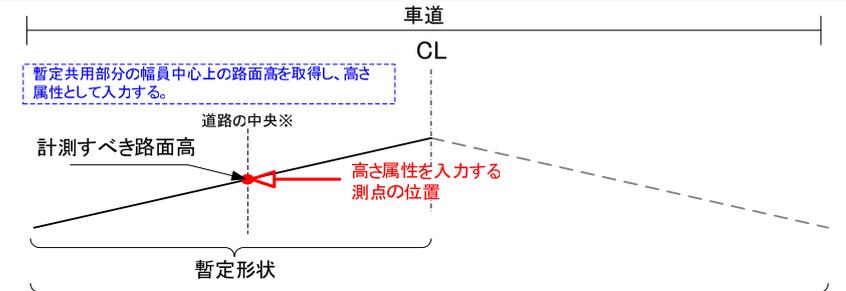


図 23 測道、ランプ等の一方向単路における横断勾配の入力値

表 10 監督職員より縦断面図および横断面図が貸与されない場合の高さ属性を入力する測点の位置

平面図	横断面図
 <p>左右対称の道路(中央分離帯なし)</p>	 <p>車道 CL 計測すべき路面高 高さ属性を入力する測点の位置 左側 右側</p> <p>道路中心線上の路面高を取得し、高さ属性として入力する。道路中心線が不明な場合は幅員中心上の路面高を取得し、高さ属性として入力する。</p>
 <p>中央分離帯が設置されている道路 (左右の路面高が異なる場合)</p>	 <p>車道 CL 計測すべき左側路面高 計測すべき右側路面高 高さ属性を入力する測点の位置 中央分離帯 左側 右側</p> <p>中央分離帯側の路面高を取得し、高さ属性として入力する。左右の路面高が異なる場合には、平均値を高さ属性として入力する。 (例)右側計画高さ10.112、左側計画高さ10.078の場合は、$(10.112 + 10.078) / 2 = 10.095$を高さ属性として入力。 幅の広い中央分離帯がある場合においても、上記のとおり高さを取得する。</p>
 <p>交差点手前で右折レーンが設置されている道路</p>	 <p>車道 CL 計測すべき左側路面高 計測すべき路面高(右折の場合) 高さ属性を入力する測点の位置 左側 右側</p> <p>中央分離帯側の路面高を取得し、左右の路面高が異なる場合には、平均値を高さ属性として入力する。</p>
 <p>道路の片側を拡幅されている道路</p>	 <p>車道 道路の中央※ CL 計測すべき左側路面高 計測すべき路面高 高さ属性を入力する測点の位置 高さ属性を入力する測点の位置 内側拡幅 道路中心線上の路面高を取得し、高さ属性として入力する。道路中心線が不明な場合は幅員中心上の路面高を取得し、高さ属性として入力する。</p> <p>【道路中心線が不明な場合】高さ属性を入力する測点の位置 【道路中心線が分かる場合】高さ属性を入力する測点の位置</p>
 <p>道路の片側が暫定共用されている道路</p>	 <p>車道 CL 計測すべき路面高 高さ属性を入力する測点の位置 暫定形状 完成形状 道路の中央※</p> <p>暫定共用部分の幅員中心上の路面高を取得し、高さ属性として入力する。</p>

※道路の中央とは、軌道が道路の側端に寄って設けられている場合においては当該道路の軌道敷を除いた部分の中央とし、道路標識等による中央線が設けられているときはその中央線の設けられた道路の部分とする。(道路交通法第17条第4項より)

12) 地形情報

完成平面図の地形情報は、発注図のデータ形式（ラスタ形式またはベクタ形式）に従い、該当するレイヤに格納する。ただし、発注図が紙ベースである場合には図面のスキャニングを行いラスタ形式のデータを作成する。

ラスタ形式の地形図については、外部参照等により所定のレイヤに配置するものとする。

また、ベクタ形式の地形図については、「CAD 製図基準（案）」に従い、等高線の計曲線や主曲線等の地形情報を所定のレイヤに格納するものとする。

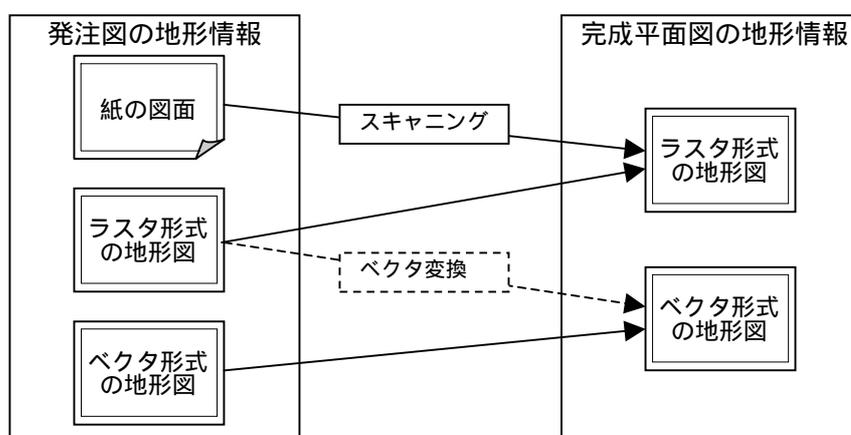
【解説】

完成平面図の地形情報は、ラスタ形式またはベクタ形式で保持するものとするが、図 24 に示すように発注図の地形図がラスタ形式の場合には完成平面図の地形図も同形式で保持し、発注図の地形図がベクタ形式の場合には完成平面図の地形図も同形式で保持する。なお、発注図が紙情報のみである場合は、図面のスキャニングを行いラスタ形式の地形図を作成する。

完成平面図の作成において、ラスタ形式の地形図を利用する場合には、複数枚の外部参照も可能な SXF Ver.3.x の図面フィーチャを利用し、図 25 に示すように C-BGD-RSTR レイヤ上に配置する。また、ラスタ形式の地形図を結合・修正したり、新たにスキャニングしてラスタ形式の地形図を作成した場合には C-BGD-RSTR レイヤ上に配置するものとする。なお、ラスタ形式の地形図を利用する場合には、ラスタ形式の地形図と CAD データを同じフォルダに格納する必要がある。また、SXF Ver.2.0 でラスタ形式の地形図を利用する場合には、「巻末資料 2 2.作成方法」を参照すること。

ベクタ形式の地形図については、「CAD 製図基準（案）」に従い、等高線の計曲線や主曲線等の地形情報を所定のレイヤに格納する必要がある。工事の中で新たに地形図を作成したり、発注図の地形図を修正した場合には、責任主体“C”の所定のレイヤに格納する。

ラスタ形式の地形図をベクタ形式にあえて変換して利用する必要はなく、作業の都合により変換して利用する場合においては、線分を極力結合させ、ショートベクタの発生によるファイル容量の増大化を防ぐものとする。



作業の都合でラスタ形式の地形図をベクタ形式に変換して利用する場合は、ショートベクタの発生によるファイル容量の増大を防止する。

図 24 完成図における地形情報の保持方法

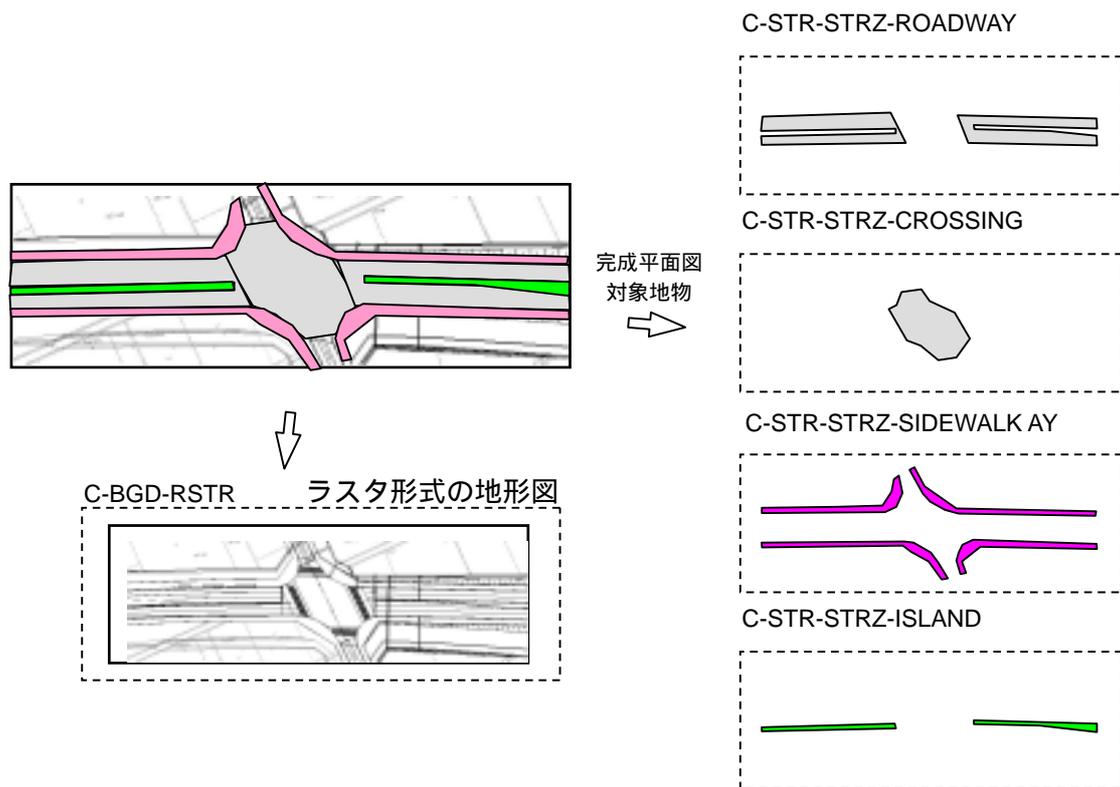


図 25 ラスタ形式の地形図を利用した場合のレイヤ分類

13) 図面様式

完成平面図の出力用の図面様式は、「CAD 製図基準（案）」に準じ、以下のとおりとする。

- ・ 用紙の大きさは、天地方向は A1 を標準とし、幅は工事区間延長に応じて必要な長さとする。
- ・ 右下には図面表題欄を作成する。
- ・ 縮尺は 1 /500 または 1/1000 とする。

【解説】

図面用紙の大きさは、「CAD 製図基準（案）」に準じて天地方向は A1 を標準とし、幅は工事区間延長に応じて必要な長さとする。

図面表題欄には、「CAD 製図基準（案）」に準じ図 26 に示すように記載事項を入力する。また、SXF Ver.3.x では、図面表題欄と同じ情報に加え、事業名や契約区分等の情報を含めた図面管理情報を別途入力する必要がある。入力の方法は CAD ソフトにより異なるが、一部の CAD ソフトでは図形上の表題欄と連動して入力できるものもある。なお、SXF Ver.2.0 を利用する場合には、従来どおりの方法で図面表題欄を作成するものとし、図面管理情報の入力は不要である。

図面の縮尺は「CAD 製図基準（案）」に準じ、1/500 または 1/1000 とする。

工 事 名	国 道 号 地区改良工事		
図 面 名	完成平面図		
作成年月日	平成 18 年 3 月 31 日		
縮 尺	1 : 500	図面番号	1 / 1
会 社 名	建設株式会社		
事業者名	× × 地方整備局	国道事務所	

図 26 図面表題欄作成例

1-3. データ貸与と請負者の作業

発注者は本要領に従った CAD データを発注図として請負者に貸与し、請負者はこのデータを基に完成平面図を作成する。

発注者が本要領に従った形式で発注図を貸与できない場合、これに代わる発注図を貸与し、請負者は本要領に従った CAD データを新規に作成するものとする。

【解説】

発注者は、基本的に本要領に従った CAD データを発注図として請負者に貸与するものとする。この場合、請負者は、施工対象に関連した地物データおよび属性項目について修正を行う。

また、発注者は、本要領で定める完成平面図のレイヤ分類や作図ルール等に従った CAD データを貸与できない場合、DXF 形式等その他 CAD データや紙図面を提供する。この場合、請負者は本要領に従った CAD データを新規に作成する。

表 11 貸与される発注図の形式と請負者の作業

	貸与される発注図の形式	請負者の作業
1	本要領に準じて整備された CAD データ	・地物データおよび属性項目についての修正作業
2	本要領に準じていない CAD データ	・本要領で定める地物データの作成およびレイヤ分類作業 ・必要に応じ距離標測量作業（距離標計測、座標等属性入力）
3	紙図面	2の他に以下の作業が必要 ・本要領で定める地物データの作成に必要な電子化作業（スキャン、トレース作業） ・SXF 形式への変換作業

2. 完成縦断図

2-1. 趣旨

完成縦断図は、工事目的物の縦断構造に関する完成形状を示した図面であり、施工された公物の管理および以後の計画・設計・工事等に利用されるものである。特に維持管理段階において利用される道路の基盤的なデータの整備においては、道路面の高さ、勾配情報等を取得するために利用される。

よって本編では、完成縦断図の電子納品について、ファイル形式、ファイル単位、取得対象物、レイヤ分類、作図ルール、図面様式、格納フォルダについて規定した。

【解説】

縦断図を取得することにより、「道路基盤地図情報」に高さ、横断勾配情報等を加えることができ、ITSでの活用を始め、様々な高度利用が可能となる。

このため本編では、完成縦断図の電子納品に関連する事項を規定した。

2-2. データ作成

1) ファイル形式

完成縦断図のファイル形式は、「CAD製図基準(案)」に従い作成するものとする。

【解説】

完成平面図のファイル形式はSXF Ver.3.xの仕様を標準とするが、完成縦断図は、SXF Ver.2.0の仕様で作成してもよい。

2) ファイル単位

完成縦断図のファイル単位は、工事区間延長に基づき設定するものとする。

【解説】

完成平面図のファイル単位は、原則1工事1ファイルとしているが、完成縦断図は、工事区間延長に基づき適宜設定する。

3) 部分図の利用

完成縦断図の作成においては、部分図の利用に関する制限を設けない。

【解説】

完成平面図の作成では、SXF仕様書における部分図の概念に基づき、全ての図形を一つの部分図に作図することとしているが、完成縦断図は、部分図の利用に関する制限を設けない。

4) 取得対象項目

完成縦断図は、測点地物の属性入力に必要となる測点番号、追加距離、路面高、横断勾配（左）、横断勾配（右）を取得対象とし、監督職員から貸与される設計変更で更新された最終的な縦断図を基に取得するものとする。

監督職員から設計変更で更新された最終的な縦断図が貸与されない場合や貸与された図面に取得対象項目が不足している場合は、出来形測量結果から測点番号、追加距離、測点の路面高、横断勾配（左）、横断勾配（右）を取得するものとする。

【解説】

監督職員から設計変更で更新された最終的な縦断図が貸与される場合は、縦断図に取得対象項目である測点番号、追加距離、路面高、横断勾配（左）、横断勾配（右）が記載されていることを確認し、不足がなければ貸与図面を利用して完成縦断図を作成する。

貸与されない場合や貸与されたがその図面に取得対象項目が不足している場合は、出来形測量結果から測点番号、追加距離、測点の路面高、横断勾配（左）、横断勾配（右）を取得し、完成縦断図を作成する。

5) 図形データ作成

完成縦断図に用いる図形は「CAD 製図基準（案）」に従い作成するものとする。

【解説】

完成縦断図では、「CAD 製図基準（案）」に準拠して作図するものとし、完成平面図のような図形の種類および作図ルール等を設けない。

6) レイヤ分類

完成縦断図で作成するデータは、「CAD 製図基準（案）」に従ったレイヤに格納する。

【解説】

完成縦断図は、「CAD 製図基準（案）」に準拠したレイヤに格納するものとする。

7) 属性入力

完成縦断図には、属性項目を入力する必要はない。

【解説】

完成平面図では、各地物に設置日等の属性項目を入力しているが、完成縦断図では、属性項目を入力しない。

8) 図面様式

完成縦断図の出力用の図面様式は、「CAD 製図基準（案）」に準じ、以下のとおりとする。

- ・ 用紙の大きさは、A 列サイズとし、A1 を標準とする。
- ・ 右下には図面表題欄を作成する。
- ・ 縮尺は以下を標準とする。
 $H=1/1000$ 、 $V=1/100$ 又は $H=1/500$ 、 $V=1/100$ （標準）
 $H=1/200 \sim 1/500$ 、 $V=1/100$ （平面交差点設計）
 $H=1/500$ 、 $V=1/100$ （立体交差点設計）

【解説】

図面用紙の大きさは、「CAD 製図基準（案）」に準じて、A 列サイズとし、A1 を標準とする。

図面表題欄には、「CAD 製図基準（案）」に準じ図 27 に示すように記載事項を入力する。完成平面図では図面表題欄と同じ情報に加え、事業名や契約区分等の情報を含めた図面管理情報を別途入力する必要があるが、完成縦断図では従来どおりの方法で図面表題欄を作成するものとし、図面管理情報の入力は不要である。

図面の縮尺は「CAD 製図基準（案）」に準じ、以下のとおりとする。

- $H=1/1000$ 、 $V=1/100$ 又は $H=1/500$ 、 $V=1/100$ （標準）
- $H=1/200 \sim 1/500$ 、 $V=1/100$ （平面交差点設計）
- $H=1/500$ 、 $V=1/100$ （立体交差点設計）

工事名	国道 号 地区改良工事		
図面名	完成縦断図		
作成年月日	平成 18 年 3 月 31 日		
縮尺	1 : 500	図面番号	1 / 1
会社名	建設株式会社		
事業者名	× × 地方整備局	国道事務所	

図 27 図面表題欄作成例

3. 工事施設帳票

3-1. 概要

工事施設帳票は、道路管理データベース（通称 MICH I）から作成される、道路施設台帳の基になる情報である。工事施設帳票の電子納品では、請負工事に関連する道路施設の諸元や補修に関するデータを道路施設基本データという形式で作成する。

よって本編では、道路施設基本データの電子納品について、データ作成方法、ファイル形式、格納するフォルダ形式、データチェック方法、工事完成時の取り扱いまでを規定した。

【解説】

工事施設帳票の電子納品では、地物の諸元の電子データとして道路施設基本データを作成する。発注者は本要領に従った道路施設基本データを保有する場合は、発注データとして請負者に貸与し、請負者は貸与された発注データを基に道路施設基本データを作成することを基本とする。

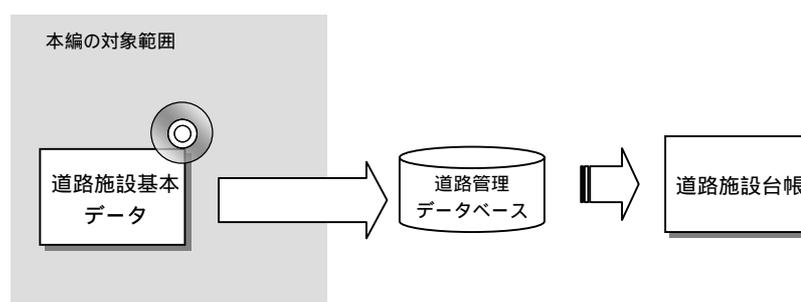


図 28 本編の対象範囲

3-2. データ作成

1) 作成データ内容

新設・改良や維持修繕などの請負工事に関連する道路施設について、以下に示すデータを道路施設基本データとして作成する。

- ・道路施設基本データ詳細情報（拡張子 .csv）
- ・イメージデータ（道路施設一般図：拡張子 .jpg または、拡張子 .p21）
- ・イメージデータ（現況写真：拡張子 .jpg）
- ・道路施設基本データ位置図（拡張子 .pdf）

道路施設形状に変更を加えない工事についてはイメージデータを作成する必要はない。

【解説】

道路施設基本データは、新設または改良、撤去した道路施設に対して、道路施設毎に作成する。

道路施設基本データ詳細情報は、工事に関連する道路施設の諸元情報等を、文字・数値で作成するものである。

イメージデータは、道路施設一般図および現況写真を対象とする。なお、補修補強工事や維持工事など、施設一般図に変更が生じない工事については道路施設一般図を作成する必要はない。また、現況写真についても、道路施設形状に変更を加えない工事については作成する必要はない。なお、施設の撤去の場合には、イメージデータを作成する必要はない。

道路施設基本データ位置図は、道路施設毎に作成した道路施設基本データ詳細情報の施設位置等を確認するために作成するものである。

道路施設の改良・撤去により、既存の道路施設基本データの変更が生じる場合は、既存の道路施設を事例にして、4種類の情報から成る道路施設基本データの構成を以下に示す。

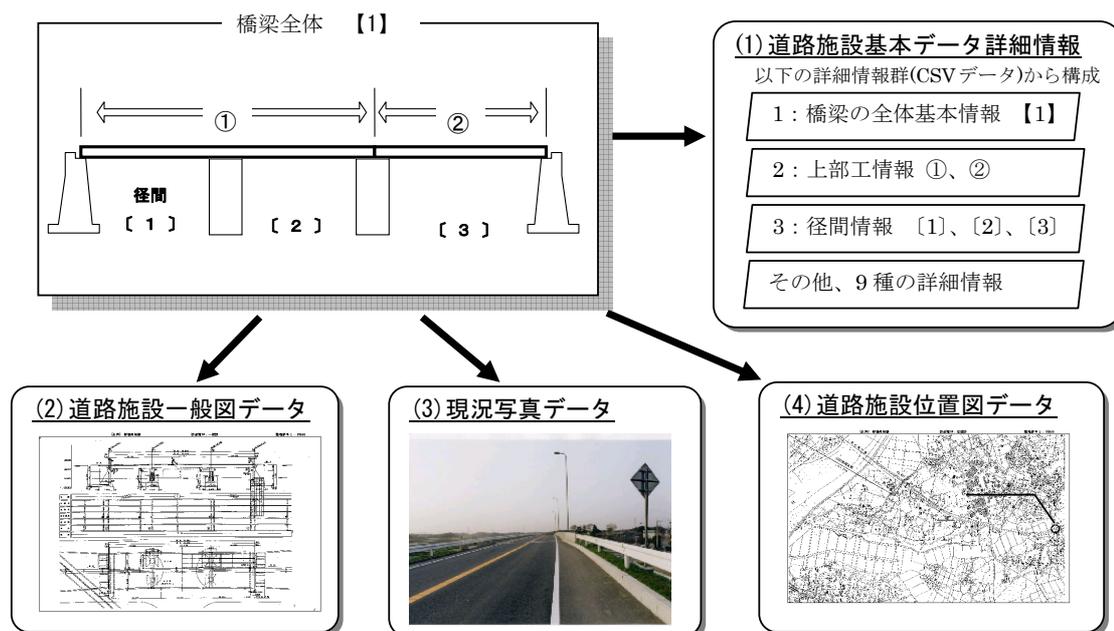


図 29 道路施設基本データの構成

2) 作成対象となる道路施設

道路施設基本データは、請負工事において新設または改良、撤去した施設の内、表 12 に示す直轄道路施設を対象として作成する。請負工事が影響する施設をよく確認し、データ作成対象施設を選出する必要がある。

表 12 道路施設基本データの作成対象となる道路施設

区分	施設番号	施設名	区分	施設番号	施設名
道路構造	C020	縦断勾配	付属物及び付帯施設	E050	道路標識
	C030	平面線形		E060	道路情報板
	C050	舗装		E070	交通遮断機
	C060	道路交差点		E080	I . T . V
	C070	鉄道交差点		E090	車両感知器
	C080	歩道及び自転車歩行者道		E100	車両諸元計測施設
	C090	独立専用自歩道		E110	気象観測施設
	C100	中央帯		E120	災害予知装置
	C110	環境施設帯		E130	自動車駐車場等
	構造物	D010		橋梁	E140
D020		橋側歩道橋		E150	雪崩防止施設
D030		横断歩道橋		E160	落石防止施設
D040		トンネル		E170	消雪パイプ
D050		洞門		E180	ロードヒーティング
D060		スノーシェッド		E190	除雪ステーション
D070		地下横断歩道		E210	共同溝
D080		道路BOX等		E220	C A B 電線共同溝
D090		横断BOX等		E230	植栽
D100		パイプカルバート		E240	遮音施設
D120		擁壁		E250	遮光フェンス
		E010		防護柵	E270
	E020	道路照明		E330	光ケーブル施設
	E030	視線誘導標（反射式）		E350	ビーコン
	E040	視線誘導標（自光式）			

【解説】

主な工事における道路施設基本データの標準的な取得対象道路施設を、表 13 に示す。請負工事の内容によっては、取得対象道路施設が表 13 以外にも追加されることがある。

3) データの作成単位

道路施設基本データは、表 14 に示す作成単位で作成する。

作成単位とは、対象施設の道路施設基本データを作成する際の区分けを示したものであり、作成対象施設毎、データ作成単位が異なるので留意する必要がある。

表 14 道路施設基本データの作成単位 (1/2)

区分	施設番号	施設名	作成単位			
			路線 毎	施設箇所 毎	都道府県 市区町村 毎	備考 (施設箇所の補足)
道路構造	C020	縦断勾配		備考参照		縦断勾配変化区間毎
	C030	平面線形		備考参照		線形区間毎
	C050	舗装			舗装施工区分毎 道路構造物区分毎 舗装種別毎	
	C060	道路交差点			交差方式毎	
	C070	鉄道交差点			交差方式毎	
	C080	歩道及び自転車歩行者道			上下線毎 路線分割区分毎 沿道状況区分毎 歩道等種別毎 歩道形式毎	
	C090	独立専用自歩道			自歩道専用区分毎	
	C100	中央帯			中央帯形式毎	
	C110	環境施設帯				
	構造物	D010	橋梁		備考参照	
D020		橋側歩道橋		備考参照		上下線等分離されている場合は分離単位毎
D030		横断歩道橋				
D040		トンネル		備考参照		上下線等分離されている場合は分離単位毎
D050		洞門			構造形式毎	
D060		スノーシェッド			構造形式毎	
D070		地下横断歩道				
D080		道路BOX等				
D090		横断BOX等			設置区分毎 構造形式毎	
D100		パイプカルバート			形式種別毎 管径毎	
付属物及び付帯施設(その1)	D120	擁壁			構造形式毎	
	E010	防護柵			防護柵種別毎	
	E020	道路照明		備考参照		照明柱毎
	E030	視線誘導標(反射式)		備考参照	誘導標種類毎	同一種類が続く場合は1設置箇所とする。
	E040	視線誘導標(自光式)				
	E050	道路標識		備考参照		ポールまたは門型構造毎
	E060	道路情報板				
	E070	交通遮断機				
	E080	I・T・V				
	E090	車両感知器			感知器形式毎	
E100	車両緒元計測施設					

表 14 道路施設基本データの作成単位 (2/2)

区分	施設番号	施設名	作成単位				備考 (施設箇所の補足)
			路線 毎	施設箇所 毎	都道府県 市区町村 毎	その他	
付 属 物 及 び 付 帯 施 設 (そ の 2)	E100	車両緒元計測施設					
	E110	気象観測施設				施設内の装置種別 毎	
	E120	災害予知装置				施設内の装置種別 毎	
	E130	自動車駐車場等					
	E140	自転車駐車場					
	E150	雪崩防止施設				施設箇所内の施設 種別毎	
	E160	落石防止施設				施設箇所内の施設 種別毎	
	E170	消雪パイプ				設置区分毎	
	E180	ロードヒーティング				融雪施設区分毎 設置区分毎	
	E190	除雪ステーション					
	E210	共同溝				共同溝区分毎	
	E220	C A B 電線共同溝				CAB、電線共同溝、 情報 BOX 毎	
	E230	植栽					
	E240	遮音施設				施設種類毎	
	E250	遮光フェンス				種類毎	
	E270	流雪溝					
E330	光ケーブル施設		備考参照			端局・接続箱区間毎	
E350	ビーコン						

【解説】

道路施設基本データは、路線毎に施設箇所数分作成する。なお、施設によっては、種類・形式毎に作成するものがあるので、表 14 の施設毎の作成単位に留意すること。

また、延長方向に長さを持つ施設（舗装、歩道及び自転車歩行者道、擁壁、防護柵、植栽等）は、市区町村の行政区境で分け、市区町村単位で作成する。

4) 道路施設基本データ詳細情報作成

道路施設基本データ詳細情報とは、請負工事に含まれる道路施設の路線、位置、諸元・形式、設置年等の文字・数値情報で構成する CSV データである。

詳細情報は、道路施設基本データ作成単位毎の作成を基本とするが、一つの作成単位で複数の詳細情報を作成する施設もあるので留意する。

【解説】

道路施設基本データ詳細情報は、作成する施設毎、作成単位毎に、「巻末資料 3 4.詳細情報のフォーマット」で示すデータフォーマットに従い CSV データとして作成する。

詳細情報は、道路施設基本データ作成単位毎の作成を基本とするが、橋梁のように、1 施設につき、橋梁基本、橋梁幅員構成、橋梁上部工など複数の詳細情報を作成する施設もあるので留意し（巻末資料 3 2.道路施設基本データ詳細情報名 表 2 参照）詳細情報単位に 1 ファイルに取りまとめる。

5) イメージデータ作成

道路施設一般図は、完成図書として提出する工事完成図の中より以下に示す事項を満足する構造一般図、全体一般図等を選択し、JPG データ（P21 形式の CAD データで代用可）として電子化する。

- ・施設と道路との位置関係が把握できること。
- ・道路線形、幅員構成等が把握できること。
- ・施設の断面図等により、高さ方向、交差状況の寸法等が把握できること。

現況写真は、対象となる施設の形式毎に指定された撮影方法で作成し、JPG データとして電子化する。また、作成する写真の枚数は、各施設とも最大 5 枚までとする。

なお、施設毎、イメージデータ作成の有無が異なるので留意する。

【解説】

施設毎に作成するイメージデータを、表 15 に示す。現況写真欄、一般図欄に「 」が記入されている施設は、各イメージデータを作成する。

道路施設一般図では、既存の図面に朱書きしたものは完成状態として別途再作成すること。なお、CAD 図面（P21 形式）で作成済の場合は、イメージデータの代用としてよい。

道路施設基本データとして作成する現況写真は、対象施設の形式毎、表 16 に示す A タイプ～D タイプの 4 種類の撮影方法で作成する。ただし、土木工事共通仕様書等で定める「写真管理基準」に則って撮影した工事写真で、表 16 に示した撮影方法と類似しているものは、道路施設基本データとして作成する現況写真に転用してよい。

なお、表 16 に示す撮影方法を基本とするが、指定された方法での現場撮影が困難な場合は、可能な範囲で撮影した結果を提出することとする。

表 15 施設別取扱い図面種別一覧

施設番号	施設名	一般図	現況写真	現況写真撮影方法タイプ	備考
C020	縦断勾配	-	-		
C030	平面線形	-	-		
C050	舗装	-	-		
C060	道路交差点			D ()	
C070	鉄道交差点	-		D ()	
C080	歩道及び自転車歩行者道	-	-		
C090	独立専用自歩道	-	-		
C100	中央帯	-	-		
C110	環境施設帯	-	-		
D010	橋梁			C ()	
D020	橋側歩道橋			C ()	
D030	横断歩道橋			C ()	
D040	トンネル			C ()	
D050	洞門			C ()	
D060	スノーシェッド			C ()	
D070	地下横断歩道			C ()	
D080	道路BOX			C ()	
D090	横断BOX			C ()	
D100	パイプカルバート			C ()	
D120	擁壁			C ()	
E010	防護柵	-	-		
E020	道路照明	-		B ()	
E030	視線誘導標(反射式)	-	-		
E040	視線誘導標(自光式)	-	-		
E050	道路標識	-		B ()	
E060	道路情報板	-		B ()	
E070	交通遮断機	-		B ()	
E080	I . T . V	-		B ()	
E090	車両感知器	-		B ()	
E100	車両諸元計測施設	-		D ()	
E110	気象観測施設	-		D ()	
E120	災害予知装置	-		D ()	
E130	自動車駐車場等			D ()	
E140	自転車駐車場			D ()	
E150	雪崩防止施設			A	
E160	落石防止施設			A	
E170	消雪パイプ			D ()	
E180	ロードヒーティング		-		
E190	除雪ステーション	-		D ()	
E210	共同溝			D ()	
E220	C A B 電線共同溝			D ()	
E230	植栽			A	
E240	遮音施設			A	
E250	遮光フェンス			A	
E270	流雪溝	-	-		
E330	光ケーブル施設			D ()	
E350	ビーコン			B ()	

注 1) : 現況写真の撮影方法タイプについては、表 16 を参照のこと。

注 2) : 「 - 」については作成不要。

表 16 現況写真撮影方法 (1/2)

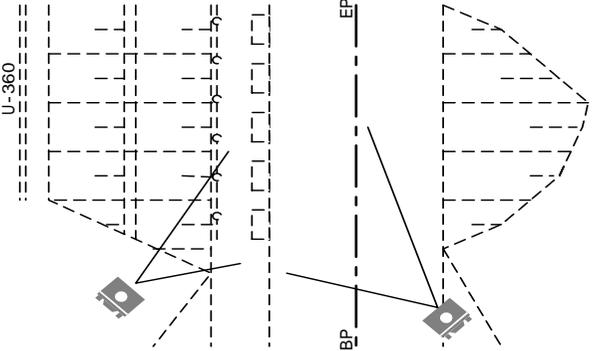
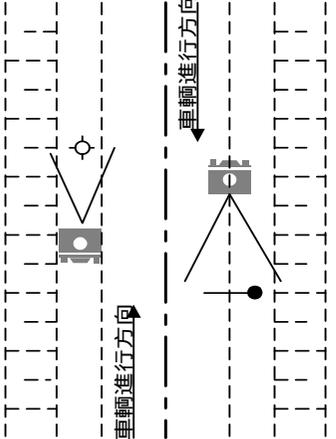
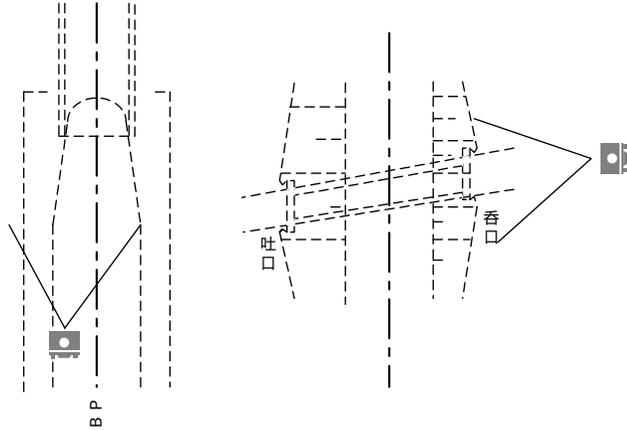
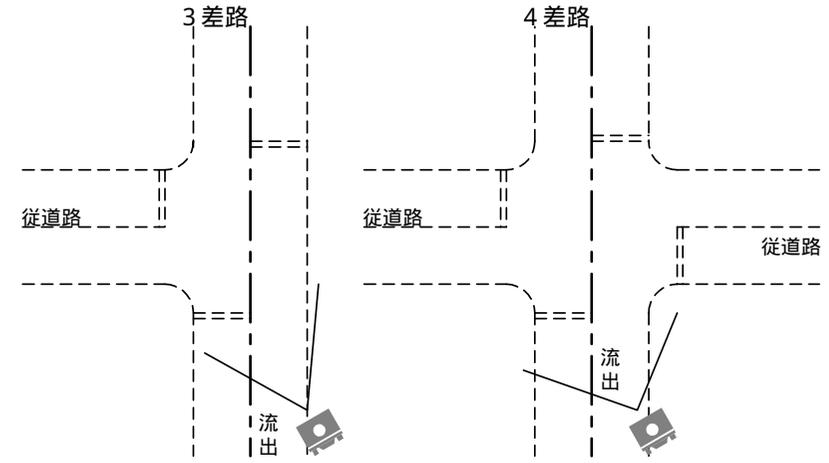
撮 影 タ イ プ	撮 影 方 法
<p>Aタイプ (対象施設の形式：路線方向に長さのある場合)</p> 	<p>起点から終点に向かって撮影するのを基本とする。</p> <p>歩道及び路肩に施設がある場合、施設反対側車道端で撮影する。 但し、4車線道路の場合は中央帯とする。</p> <p>中央分離帯に施設がある場合、左側車道端から撮影する。</p> <p>切土のり面に施設がある場合、施設の反対側から全体が視界に入る位置から撮影する。</p> <p>盛土のり面に施設がある場合、施設全体が視界に入る位置から撮影する。</p>
<p>Bタイプ (対象施設の形式：路線方向に点在するもの)</p> 	<p>車の進行方向に向かって撮影するのを基本とする。</p> <p>施設の全景と周辺状況が分かる位置から撮影する。</p> <p>標識は、標識板の近接撮影 (できれば施設の設置状況も分かるもの) とする。</p>

表 16 現況写真撮影方法 (2/2)

撮 影 タ イ プ	撮 影 方 法
<p>Cタイプ (対象施設の形式：構造物)</p> 	<p>橋梁・橋側 歩道橋・横断歩道橋は、施設全体が入るように撮影する。 なお、高架橋等施設全体が1枚で収まりきらない場合は、必要に応じて複数に分けて撮影する。(最大5枚まで)</p> <p>トンネル・洞門・スノーシェッド・道路BOX等は、起点側入口の全体が入るよう撮影する。</p> <p>地下横断歩道は、両出入口が視界に入るよう撮影する。</p> <p>横断BOX・パイプカルバート等は、呑口断面上流側から撮影する。</p> <p>擁壁は、起点側から終点側に向かっての全体撮影とする。</p> <p>注 延長が300mを超える場合は、300m毎に1枚とする。(最大5枚まで)</p>
<p>Dタイプ (対象施設の形式：道路交差点, その他)</p> 	<p>道路交差点 3差路.....主道路の反対側流出路肩部から従道路方向を撮影する。 4差路.....主道路の起点側流出路肩部から交差点全体が入るよう撮影する。</p> <p>鉄道交差点 平面.....起点側から交差点の全体が入るよう撮影する。 立体.....起点右側の鉄路から立体空間全体が入るよう撮影する。(鉄路への立入りについては協議の上撮影を行う。)</p> <p>車両諸元計測施設・災害予知装置・除雪ステーション等は建物の全景が入るよう撮影する。</p> <p>気象観測施設は観測機種毎に撮影する。但し、テレメータは施設の全景を撮影する。</p> <p>自動車駐車場・自転車 駐車場等は、施設の反対側車道端から全体が入るよう撮影する。</p> <p>共同溝・C A B電線共同溝等の地下埋設施設は、マンホール・ハンドホール等を撮影する。</p>

6) 道路施設基本データ位置図作成

道路施設基本データ位置図は道路台帳附図、路線図等を基に、データ作成した施設の位置が明確に判別できる情報を明記したものとする。

【解説】

道路施設基本データ位置図は道路台帳附図、路線図等を基に、工事に関連しデータ作成した施設の位置（特に延長方向）が明確に判別できる下記情報を明記したものとする。

- ・距離標（百米標）又は、測点の位置
- ・図面縮尺（スケール） 等

道路施設基本データ位置図には、下記情報をタイトルとして明記する。

- ・当該年度
- ・工事名
- ・工事番号
- ・道路施設基本データ位置図番号（当該工事内でユニークになる番号を付番する）

位置図番号はIで始まり3桁の番号から構成される。

作成例：I 001

（位置図） （作成する位置図ファイル分の連番）

道路施設基本データを作成した施設の位置を明記する。また、その位置に対して、施設を認識するための下記情報を旗揚げ表示で記載する。

- ・道路施設名称

道路施設名称は、「巻末資料3 表6」に示す道路施設名称とする。

- ・施設対応番号

施設対応番号とは、当該施設の道路施設基本データ詳細情報と道路施設基本データ位置図に旗揚げされている当該施設との整合を図るものとして、位置図番号＋ハイフン「-」付3桁の番号から構成される。

作成例：I 001 + -001

（位置図番号） （位置図に記載する施設数分の連番）

- ・距離標（百米標又は測点）及び距離標からの距離（m）

道路施設基本データ位置図の作成事例を、次頁に示す。

7) ファイル形式

道路施設基本データのファイルは以下の形式を原則とする。

- ・ 道路施設基本データ詳細情報： CSV 形式
- ・ 道路施設一般図 : JPG 形式 または、 SXF (P21) 形式
- ・ 現況写真 : JPG 形式
- ・ 道路施設基本データ位置図 : PDF 形式

【解説】

道路施設一般図、現況写真を作成する場合の解像度等詳細仕様は以下のとおりとする。

表 17 イメージファイルの詳細仕様

項目	一般図	現況写真	
		デジタルカメラ撮影の場合	スキャンの場合
ファイル形式(圧縮形式)	JPG	JPG	JPG
階調(色数)	フルカラー	フルカラー	フルカラー
解像度	200dpi	100万画素程度	200dpi
圧縮レベル	50	50	50

なお、道路施設一般図について、CAD 図で JPG 形式図面の代用とする場合は、SXF (P21) 形式とする。

4 . 電子成果品としての整理方法

4-1 . 成果品項目

完成平面図に関する電子成果品は、以下に記すものとする。

- ・ 図形 SXF データ (拡張子 .p21)
 - ・ 属性 XML データ (拡張子 .saf)
 - ・ ラスタ地形図 TIFF データ (拡張子 .tif)
 - ・ 図面管理ファイル (DRAWINGF.XML)
- } SXF Ver.3.x データ

完成縦断図に関する電子成果品は、以下に記すものとする。

- ・ 図形 SXF データ (拡張子 .p21)
- ・ 図面管理ファイル (DRAWINGF.XML)

道路施設基本データに関する電子成果品は、以下に記すものとする。

- ・ 詳細情報データ (拡張子 .csv)
- ・ 施設一般図データ (拡張子 .jpg または、拡張子 .p21)
- ・ 現況写真データ (拡張子 .jpg)
- ・ 位置図データ (拡張子 .pdf)
- ・ 道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML)

【解説】

完成平面図に関する電子成果品は、SXF Ver.3.x データを構成する図形 SXF データ (拡張子 .p21)、属性 XML データ (拡張子 .saf)、背景図 (地形図) として利用した場合のラスタ地形図 TIFF データ (拡張子 .tif)、および DRAWINGF フォルダを管理する図面管理ファイル (DRAWINGF.XML) である。

また、完成平面図を SXF Ver.2.0 で作成する場合、属性 XML データの代わりに、距離標および測点の属性情報を入力した CSV データ (拡張子 .csv) となる (巻末資料 2 2.作成方法参照)。

完成縦断図に関する電子成果品は、SXF Ver.2.0 以上の仕様に対応した図形 SXF データ (拡張子 .p21) および DRAWINGF フォルダを管理する図面管理ファイル (DRAWINGF.XML) である。

道路施設基本データに関する電子成果品は、当該工事に関連する施設詳細情報データ (拡張子 .csv)、道路施設一般図データ (拡張子 .jpg または、拡張子 .p21 : 作成が必要な工事、施設のみ)、施設現況写真データ (拡張子 .jpg : 作成が必要な施設のみ)、データ作成した施設の位置図データ (拡張子 .pdf) ならびに道路施設基本データ関連フォルダを管理する道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML) である。

4-2 . 図面管理ファイル

電子成果品として提出する図面管理ファイル (DRAWINGF.XML) については、「CAD 製図基準 (案)」に従い、図形 SXF データ (拡張子 .p21) に関する図面管理項目を記入するものとする。

なお、図面管理項目の内、「図面情報 - 図面名」には、完成平面図については“完成平面図”、完成縦断図については“完成縦断図”と記入し、「その他 - 新規レイヤ」には、新規レイヤの略語・概要を記入する。また、「図面情報 - 基準点情報」は平面直角座標の系番号、X 座標、Y 座標を必須項目とする。

【解説】

電子成果品として提出する図面管理ファイル (DRAWINGF.XML) の作成にあたっては、基本的に「CAD 製図基準 (案)」に従って図形 SXF データ (拡張子 .p21) に関する図面管理項目を記入する。

また、図面管理項目の内、「図面情報 - 図面名」には、完成平面図については“完成平面図”、完成縦断図については“完成縦断図”と記入するものとする。加えて、完成平面図については表 8 に示す太枠で囲まれたレイヤは、「CAD 製図基準 (案)」で規定されていないため、「その他 - 新規レイヤ」に新規レイヤの略語・概要を記入する。

さらに、「図面情報 - 基準点情報」については、「CAD 製図基準 (案)」で「緯度・経度もしくは平面直角座標の X, Y 座標を記入する」としているが、完成平面図は、GIS の大縮尺系の共通基盤である「道路基盤地図情報」へ変換する際、平面直角座標の系番号が必要となるため、本要領では平面直角座標の系番号、X 座標、Y 座標を必須とすることに注意する。なお、緯度・経度から平面直角座標への変換については、測量 CAD ソフトや国土地理院の座標変換サービス (<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/main.html>) 等を用いて行うことができる。また、平面直角座標の系番号 (1~19) については、例えば該当工事の施工箇所を国土地理院の HP (<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/patchjgd/download/Help/jpc/jpc.htm>) で照合すること等で確認することができる。

4-3 . 道路施設基本データ管理ファイル

電子成果品として提出する道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML) については、作成する道路施設基本データのファイル名、格納フォルダ名等を管理項目として記入するものとする。

【解説】

電子成果品として提出する道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML) の作成にあたっては、「巻末資料 3 6.道路施設基本データ関連の管理ファイル」に従って、工事概要ならびに本要領に従って作成した詳細情報ファイル名、イメージデータファイル名、データを格納するフォルダ名等を記入する。

4-4 . 完成平面図ファイル命名規則

完成平面図に関する電子成果品は、表 18 に示すファイル命名規則に従い整理する。

表 18 完成平面図ファイル命名規則

ファイル名					備考
C	0	PL	001	Z .p21	
				拡張子： 図形 SXF データ：.p21 属性 XML データ：.saf ラスタ地形図 TIFF データ：.tif	.拡張子
				改定履歴： 完成平面図は最終形を表す“Z”とする。	0~9, A~Z
				図面番号： 図形 SXF データ、属性 XML データは、同一の図面番号を用いる。 ただし、ラスタ地形図についてはこの限りではない。	001~999
				図面種類： 図形 SXF データ：PL 属性 XML データ：PL ラスタ地形図 TIFF データ：RT	
				整理番号：0~9 CAD 製図基準に従い、必要に応じ利用する。	0~9
				ライフサイクル：どの段階で作成したデータかを表す。 ここでは施工段階である“C”を採用。	S：測量, D：設計 C：施工, M：維持管理

【解説】

完成平面図の成果品のファイル名は、表 18 の規則によるものとする。

完成平面図を SXF Ver.2.0 で作成する場合、属性 XML データの代わりに、距離標の属性情報を入力した CSV データを作成する（巻末資料 2 2.作成方法 参照）。

（補足）

現行の CAD 製図基準（案）では SXF Ver.3.x に対応した属性 XML データおよびラスタ地形図 TIFF データの命名規則がないため、本要領で独自に規定している。

図形 SXF データと属性 XML データについては、ファイル名を同一とし、拡張子のみ異なるものとする。また、ラスタ地形図 TIFF データの図面番号については、図形 SXF データ 1 ファイルに対して複数存在する場合、図形 SXF データの図面番号と異なってもよいものとする。

4-5 . 完成縦断図ファイル命名規則

完成縦断図に関する電子成果品は、表 19 に示すファイル命名規則に従い整理する。

表 19 完成縦断図ファイル命名規則

ファイル名					備考
C	0	PF	001	Z .p21	
				拡張子： 完成縦断図は .p21 のみとする	.拡張子
				改定履歴： 完成縦断図は最終形を表す“Z”とする。	0~9, A~Z
				図面番号：	001~999
				図面種類： 図形 SXF データ：PF	
				整理番号：0~9 CAD 製図基準に従い、必要に応じ利用する。	0~9
				ライフサイクル：どの段階で作成したデータかを表す。 ここでは施工段階である“C”を採用。	S：測量, D：設計 C：施工, M：維持管理

【解説】

完成縦断図の成果品のファイル名は、表 19 の規則によるものとする。

4-6 . 道路施設基本データファイル、フォルダ命名規則

道路施設基本データに関する電子成果品は、表 20 に示すファイル、フォルダ命名規則に従い整理する。なお、フォルダ名およびファイル名、拡張子は、半角英数文字とする。

表 20 道路施設基本データに関するフォルダ・ファイル構成

構成	名称 / 拡張子	備考
道路施設基本データ管理ファイル	ORG999.XML 拡張子：.xml	道路施設基本データの属性を表すデータ。
道路施設基本データ管理ファイル DTD	ORG99901.DTD 拡張子：.dtd	
道路施設諸元データフォルダ	SYOGEN	
道路施設基本データ位置図ファイル	Innn.PDF 拡張子：.pdf 「nnn」は連番（位置図ファイル数分）	
道路施設諸元サブフォルダ	例：D010（橋梁）	道路施設の種類毎に作成し、フォルダ名称は施設番号に合わせる。
個別道路施設諸元サブフォルダ	例：D010ii 「ii」は連番（施設数分）	
道路施設基本データ詳細情報ファイル	例：D010ii.CSV D011 ii.CSV 拡張子：.csv	ファイル名称は道路施設基本データ詳細情報番号に連番「ii」を付ける。
道路施設一般図フォルダ	S_DRAW	一般図が必要な施設のみ作成。
道路施設一般図ファイル	例：D010iijj.JPG、 D010iijj.P21 拡張子：.jpg、p21 「jj」は連番（イメージファイル数分）	
道路施設現況写真フォルダ	S_PHOTO	現況写真が必要な施設のみ作成。
現況写真ファイル	例：D010iijj.JPG 拡張子：.jpg	

【解説】

道路施設諸元サブフォルダは、道路施設の種類毎に作成し、フォルダ名称は表 12 に示す施設番号に合わせる。個別道路施設諸元サブフォルダは、道路施設基本データの作成対象施設数分作成し、フォルダ名称は、道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「ii」¹を付けたものとする。

1：「ii」は作成対象施設数分の連番になり、連番が 100 を超える場合は、アルファベット（半角大文字）および数字（半角）を用いる。100～109 の場合は A0～A9、110～119 の場合は B0～B9 とする。

道路施設基本データを構成するデータファイル名は、作成した施設名称との関連を明確にするため、施設毎、施設番号、道路施設基本データ詳細情報番号を基に、連番を付した名称とする。

< 詳細情報ファイル名 >

ファイル名称は、道路施設基本データ詳細情報番号(「巻末資料 3 表 2 参照: D010、D011、D012 など) に連番「ii」¹を付ける。

事例: 橋梁の詳細情報 D01001.CSV、D01101.CSV、D01201.CSV、……

< 施設一般図ファイル名 >

ファイル名称は、施設番号に連番「ii」+ 連番「jj」²を付ける。

2: 「jj」は図面ファイル数分の連番になる。

事例: トンネルの一般図 D0400101.JPG、……

< 現況写真ファイル名 >

ファイル名称は、施設番号に連番「ii」+ 連番「jj」³を付ける。

3: 「jj」は写真ファイル数分の連番になる。

事例: 道路標識の現況写真 E0500101.JPG、……

< 施設位置図ファイル >

ファイル名称は I (位置図を表すアルファベット) に連番「nnn」⁴を付ける。

4: 「nnn」は位置図ファイル数分の連番になる。

事例: I001.PDF、……

4-7. 格納フォルダ

本要領の規定に基づき作成した完成図等の電子データは、「工事完成図書の電子納品要領(案)」に従い、所定のフォルダに格納するものとする。

完成平面図データ(図形 SXF データ(拡張子 .p21)、属性 XML データ(拡張子 .saf)の2種類)、ラスタ地形図 TIFF データ(拡張子 .tif)および完成縦断図データ(拡張子 .p21)を DRAWINGF(完成図フォルダ)に格納する。

道路施設基本データは、「OTHR」フォルダに「ORG999」フォルダを作成し、さらに「ORG999」フォルダの下に「SYOGEN」フォルダを作成する。その直下に各施設の道路施設諸元データを格納する道路施設諸元サブフォルダを作成する。道路施設諸元サブフォルダ名称は、作成する施設の施設番号に合わせる。(例、「C050」(舗装)、「D010」(橋梁)、「D020」(橋側歩道橋)、「D040」(トンネル)など)。さらに、道路施設諸元サブフォルダの直下に個別の施設毎のフォルダを作成する。

【解説】

完成平面図、道路施設基本データならびに完成縦断図の成果品格納フォルダを、図 31 に示す。

なお、道路施設基本データの道路施設一般図、現況写真データは、作成する施設と関連付けるため、図 31 に示す、道路施設基本データ用のフォルダ(S_DRAW、S_PHOTO)に格納すること。

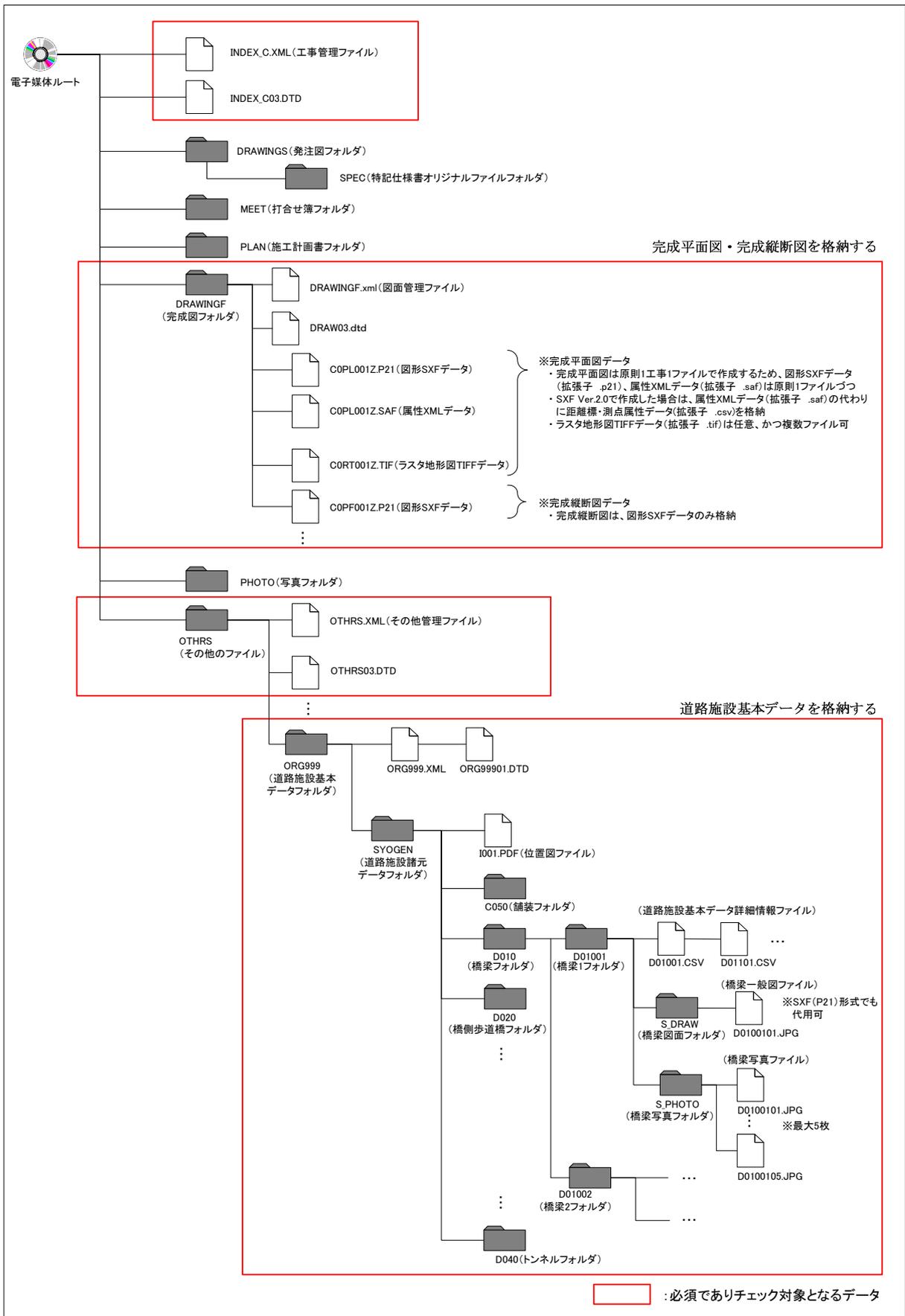


図 31 成果品格納フォルダ

5 . チェック方法

5-1 . 概要

請負者は、作成した完成平面図および道路施設基本データについて、作成支援サイトより提供される道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックと、目視等によるチェックを行い、合格した成果品を納品するものとする。

完成縦断図については、目視等によるチェックを行い、合格した成果品を納品するものとする。

【解説】

請負者は、本要領に基づき作成した完成平面図および道路施設基本データについて、作成支援サイトより提供される道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックと目視等によるチェックを行う。完成縦断図では、道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックは必要ない。なお、個別の具体的なチェック項目および内容については、次項以降を参照するものとし、すべての項目についての合格を必須とする。

特に、道路工事完成図等チェックプログラムは、作成支援サイト(<http://www.nilim-cdrw.jp/>)より提供される。

プログラムによるチェック結果では、作成されたデータにエラーがなかった場合、完成平面図、道路施設基本データそれぞれに、「チェック結果：合格」と記載されたチェックプログラム結果ログが得られる。なお、【確認】欄に0件以外の件数が表示された場合には、検出箇所のデータを目視にてチェックし、正しく作成されていることが確認できることを条件に合格と判断する。

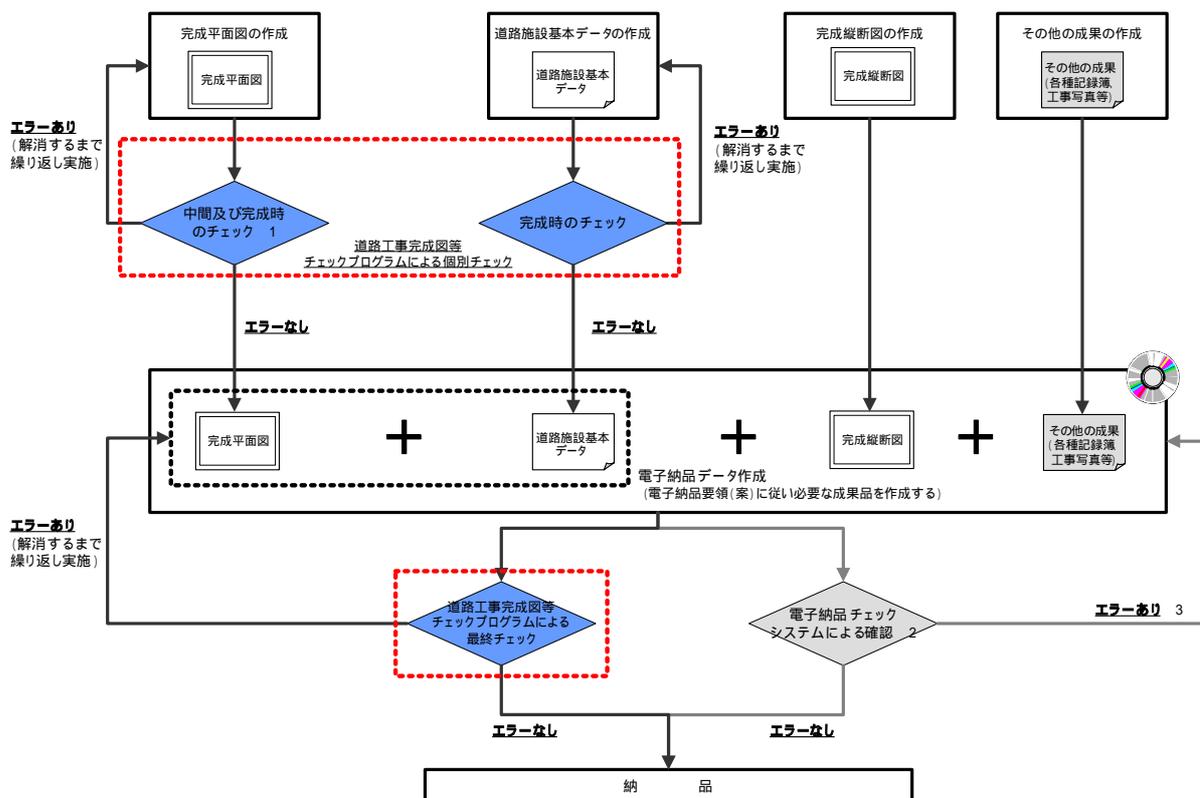
完成平面図データのチェック結果 : 合格
【エラー】 0件 (【確認】 0件)

道路施設基本データのチェック結果 : 合格
【エラー】 0件 (【確認】 0件)

図 32 合格の場合のチェックプログラム結果ログ例

ここで、図形 SXF データ(拡張子 .p21)をチェックするプログラムについては、道路工事完成図等チェックプログラムの他に電子納品チェックシステムが存在する。電子納品チェックシステムは管理ファイル(拡張子 .xml)の記載内容とともに、図形 SXF データのファイル名、フォルダ名等が「工事完成図書の電子納品要領(案)」に従っているかをチェックするものである。

よって、電子成果品の作成および納品に当たっては、図 33 のような手順で道路工事完成図等チェックプログラムおよび電子納品チェックシステムの2つを併用するものとする。



- 1: 完成平面図データのチェックでは、表8における4階層レイヤ名とその中のデータ、および属性ファイルについてチェックを行う。
- 2: 「電子納品チェックシステム」は電子納品成果全体についてチェックを行う。
- 3: 電子納品チェックシステムによるエラーに関しては、電子納品運用ガイドライン(案)等に従い、適宜、監督職員に相談する。

図 33 道路工事完成図等チェックプログラムの利用イメージ

(補足)

現行の CAD 製図基準 (案) では 4 階層のレイヤ名を採用していないため、電子納品チェックシステムにより完成平面図をチェック対象とした場合にはレイヤ名の文字数に関するエラー (メッセージ: 【エラー】記述内容が 11 文字を超えています) が発生するが、現状ではこれを許容するものとする。ただし、それ以外のエラーに関しては電子納品運用ガイドライン (案) 等に従い、適宜、監督職員に相談するものとする。

5-2 . 完成平面図に関するチェック方法

完成平面図のチェックは、表 21 に従って行うものとする。

表 21 完成平面図のチェック項目・内容

項目	対象	内容		
プログラムによるチェック	全地物	<ul style="list-style-type: none"> 道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックに合格(エラー件数:0)したか? 参考:プログラムによるチェック内容 <ul style="list-style-type: none"> 部分図・座標系の設定 作図ルール 属性入力値 レイヤ分類 距離標図形の位置 等 		
目視等によるチェック	データの過不足	距離標	<ul style="list-style-type: none"> 作成範囲に存在する距離標をすべて点データとして作成しているか? 作成範囲に存在する距離標が2点に満たない場合、近傍にある距離標を利用し、2点を確保しているか? 	
		施工対象地物	<ul style="list-style-type: none"> 線データ(道路中心線、区画線、停止線など)をすべて作成しているか? 面データ(車道部、車道交差部、島、歩道部、植栽、横断歩道など)をすべて作成しているか? 	
		施工対象外地物	<ul style="list-style-type: none"> 線データ(管理区域界など)をすべて作成しているか? 面データ(盛土法面、切土法面、擁壁、ボックスカルバート、橋梁、トンネルなど)をすべて作成しているか? 	
	図形の正確性	全地物	図形データの形状は、各地物の定義(巻末資料1参照)に従い作成しているか?	
		施工対象地物	すべての出来形測量箇所計測値と、該当する図形データ上の距離との誤差が、計測延長の0.5%以内となっているか?	
		施工対象外地物	発注図に記載された形状と、それを利用して作成した図形データの形状の誤差が実寸で10cm以内となっているか?	
	属性の正確性	地物名	施工対象地物	図形データの地物名は、施工した工種・施設等と対応しているか?
			施工対象外地物	図形データの地物名は、発注図で確認できる工種・施設と対応しているか?
		属性値	距離標	<ul style="list-style-type: none"> 距離標の属性に、現地の距離標の情報を正しく入力しているか? 特に「緯度」「経度」の座標値は現地計測結果を正しく入力しているか?
			施工対象地物	設置日には当該工事の工事完了日を入力しているか?
施工対象外地物	設置日には当該地物の工事完了日を入力しているか? 工事完了日が不明の場合、「不明」と入力しているか?			

【解説】

完成平面図のチェックは、表 21 に示す項目・内容に従い行うものとする。特に、目視等によるチェックは、請負工事の施工対象箇所および既設箇所について、データの過不足や図形および属性の正確性等に関して、表 21 に従い「出来形管理規定及び規格値」の考え方を参考に品質評価を実施するものとする。

チェック結果は、チェック結果記録(様式1)、「完成平面図」チェック結果記録(様式2)として整理し、道路工事完成図等チェックプログラム結果ログとあわせて工事完成時に監督職員へ提出する。

5-3 . 完成縦断図に関するチェック方法

完成縦断図のチェックは、「CAD製図基準(案)」に基づき実施するものとする。

5-4 . 道路施設基本データに関するチェック方法

道路施設基本データのチェックは、表 22 に従って行うものとする。

表 22 道路施設基本データのチェック項目・内容

項目	対象	内容
プログラムによるチェック	詳細情報	<ul style="list-style-type: none"> ・道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックに合格(エラー件数:0)したか？ （参考：プログラムによるチェック内容） <ul style="list-style-type: none"> ・管理ファイルの記述 ・フォルダ構成 ・ファイル名称 ・入力桁数の妥当性 ・必須入力の有無
目視等によるチェック	データの過不足、妥当性	全体
	詳細情報	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な施設のデータを作成しているか？ ・必要な施設数分のデータを作成しているか？ ・詳細情報(.csv)、必要な一般図・現況写真、位置図(.jpg、 .pdf)を作成しているか？ ・詳細情報、一般図、現況写真の整合は取れているか？
	イメージデータ	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル形式は適切か？ ・新規データ:必要な項目の作成漏れがないか？ ・変更データ:変更すべき部分のみを修正しているか？ ・設置位置(距離標等)が施設位置図上の位置と合っているか？ ・距離標の自・至が逆転していないか？ ・要領に従った作成単位で作成しているか？
		<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル形式は適切か？ ・図面に記載されている数値など判別できるか？ ・位置図に必要なタイトル情報、施設位置の旗揚げ、必要な旗揚げ情報を記載しているか？ ・写真の撮影方法は適切か？ ・写真表示精度に問題はないか？(ピンボケなど)

【解説】

道路施設基本データのチェックは、表 22 に示す項目・内容に従い行う。特に、目視等によるチェックは、作成データの過不足や、入力の誤り等の有無について、表 22 に示す方法により品質評価を実施する。

なお、プログラムおよび目視等によるチェックで発見された問題点を解消できない場合、請負者はデータ作成支援機関に内容確認を依頼することができる。

データ内容確認時にデータ作成支援機関へ提出する資料は以下のとおりとし、必ず図 31 で規定するフォルダ形式で提出するものとする。ただし、道路施設基本データに関連する情報（INDEX_C.XML および OTHERS フォルダ以下のデータ）以外は不要である。

- ・ 道路施設基本データ詳細情報（電子データ）
- ・ イメージデータ（電子データ）
- ・ 道路施設基本データ（総括表・一覧表・詳細表の紙帳票）
- ・ その他、必要があれば補足資料

プログラムおよび目視等によるチェックが完了した後、請負者はチェック結果記録（様式 1）および道路工事完成図等チェックプログラム結果ログを合わせ、工事完成時に監督職員へ提出するものとする。

6 . 電子納品時の確認方法

請負者は、電子成果品の納品時に以下の出力資料を監督職員へ提出するものとし、監督職員は当該資料に基づく内容確認を行うものとする。なお、出力資料のうち、完成平面図の図面を行う場合は、SXF ブラウザ Ver.3.0 以上を使用し、図面のフッターに SXF ブラウザで印刷したことを示す印字があることを確認すること。

- ・完成平面図
 - ・完成縦断図
 - ・チェック結果記録（様式 1）
 - ・「完成平面図」チェック結果記録（様式 2）
 - ・道路工事完成図等チェックプログラム結果ログ
- 完成平面図作成の適用工事のみ提出する資料

【解説】

請負者は、電子成果品の納品にあたって、打合せ記録簿や施工計画書、現場写真等の従来の電子データに加え、表 23 上段に示す電子データを CD-R 等の媒体に格納して監督職員へ提出し内容確認を受けるものとする。また、請負者は、本要領に関する内容の確認用資料として表 23 下段に示す資料を用意し、電子成果品と併せて監督職員へ提出するものとする。

表 23 電子成果品の納品時における提出物（本要領関連）

提出物	内容（本要領に関連するもの）
電子成果品 （CD-R に格納）	工事管理ファイル（INDEX_C.XML） 図面管理ファイル（DRAWINGF.XML） 完成平面図：図形 SXF データ（拡張子 .p21） 完成平面図：属性 XML データ（拡張子 .saf） （SXF Ver.2.0 では距離標属性データ（拡張子 .csv）） ラスタ地形図 TIFF データ（拡張子 .tif） （背景図として利用している場合） 完成縦断図（拡張子 .p21） その他管理ファイル（OTHERS.XML） 道路施設基本データ管理ファイル（ORG999.XML） 道路施設基本データ詳細情報（拡張子 .csv） 道路施設基本データイメージ情報（拡張子 .jpg , .p21 , .pdf）
出力資料（紙出力）	<ul style="list-style-type: none"> ・チェック結果記録（様式 1） ・完成平面図 ・完成縦断図 ・「完成平面図」チェック結果記録（様式 2） ・道路工事完成図等チェックプログラム結果ログ <p style="text-align: right;">「完成平面図」作成の適用工事のみ提出する資料</p>

監督職員は、出図された完成平面図について、作成範囲、作成形状および地物データの作成漏れの有無等を目視により確認するものとする。

加えて、請負者は、完成平面図を図形 SXF データで作成していることの確認を受けるため、完成平面図の出図にあたって、(財)日本建設情報総合センターの運営する CALS/EC ポータルサイト (<http://www.cals.jaic.or.jp/cad/download.htm>) より提供される SXF ブラウザ Ver.3.0 以上の印刷機能を使用することで、図面のフッターに SXF ブラウザで印刷したことを示す印字を行うものとし、監督職員はこれを確認することとする。なお、完成平面図を SXF Ver.2.0 データで作成した場合にも、SXF ブラウザ Ver.3.0 以上で出図することとするが、作成に利用した CAD によっては、複数のラスタ形式の地形図を利用している場合に 2 枚目以降の地形図は出図されない可能性がある。この場合に限り、請負者は CAD ソフトから出図した完成平面図を添付してもよい。

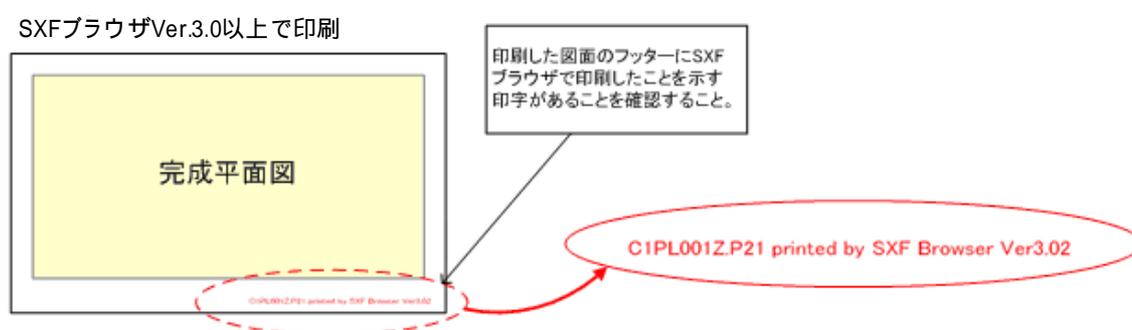


図 34 SXF ブラウザによる印刷イメージ

監督職員は、上記の他、「4.チェック方法」に記載した完成平面図および道路施設基本データそれぞれのチェック結果をとりまとめたチェック結果記録(様式1)と、完成平面図に関する請負者のチェック結果である「完成平面図」チェック結果記録(様式2)、および道路工事完成図等チェックプログラムによる結果ログにより、成果品内容の確認を行うものとする。なお、完成平面図および道路施設基本データの作成において解消されないエラーが残る場合、事前に監督職員への相談または作成支援サイト (<http://www.nilim-cdrw.jp/>) への問い合わせ(ヘルプデスク)、もしくは同サイトのデータチェックサービスの利用等を経て、監督職員の了解を経た上で対応する。

(補足)

電子媒体に格納してある電子データのチェックとして、電子納品チェックシステムを利用し、別途チェック結果を提出する際、完成平面図についてはレイヤ名の文字数に関するエラー(【エラー】記述内容が 11 文字を超えています)が検出される。これは、現行の CAD 製図基準(案)が 3 階層のレイヤ命名則を採用し、11 文字以上のレイヤ名を禁止していることに起因する。本要領では独自に 4 階層のレイヤ命名則を採用したことから、これを許容するものとする。

(様式2)

平成 年 月 日

作成者： 印

「完成平面図」チェック結果記録

項目	対象	内容	チェック結果		
プログラムによるチェック	全地物	<ul style="list-style-type: none"> 道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックに合格したか？ <p>参考：プログラムによるチェック内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 部分 図・座 標系の設定 作図 ルール 属性 入力値 レイ ヤ分類 距離 標図形の位置 等 			
目視等によるチェック	データの過不足	距離標	<ul style="list-style-type: none"> 作成範囲に存在する距離標をすべて点データとして作成しているか？ 作成範囲に存在する距離標が2点に満たない場合、近傍にある距離標を利用し、2点を確保しているか？ 		
		施工対象地物	<ul style="list-style-type: none"> 線データ（道路中心線、区画線、停止線など）をすべて作成しているか？ 面データ（車道部、車道交差部、島、歩道部、植栽、横断歩道など）をすべて作成しているか？ 		
		施工対象外地物	<ul style="list-style-type: none"> 線データ（管理区域界など）をすべて作成しているか？ 面データ（盛土法面、切土法面、擁壁、ボックスカルバート、橋梁、トンネルなど）をすべて作成しているか？ 		
	図形の正確性	全地物	<ul style="list-style-type: none"> 図形データの形状は、各地物の定義（巻末資料1参照）に従い作成しているか？ 		
		施工対象地物	<ul style="list-style-type: none"> すべての出来形測量箇所の計測値と、該当する図形データ上の距離との誤差が、計測延長の0.5%以内となっているか？ 		
		施工対象外地物	<ul style="list-style-type: none"> 発注図に記載された形状と、それを利用して作成した図形データの形状の誤差が実寸で10cm以内となっているか？ 		
	属性の正確性	地物名	施工対象地物	<ul style="list-style-type: none"> 図形データの地物名は、施工した工種・施設等と対応しているか？ 	
			施工対象外地物	<ul style="list-style-type: none"> 図形データの地物名は、発注図で確認できる工種・施設等と対応しているか？ 	
		属性値	距離標	<ul style="list-style-type: none"> 距離標の属性に、現地の距離標の情報を正しく入力しているか？特に「緯度」「経度」の座標値は現地計測結果を正しく入力しているか？ 	
			施工対象地物	<ul style="list-style-type: none"> 設置日には当該工事の工事完了日を入力しているか？ 	
施工対象外地物			<ul style="list-style-type: none"> 設置日には当該地物の工事完了日を入力しているか？工事完了日が不明の場合、不明と入力しているか？ 		

各チェック項目について、合格基準を満たすものはチェック結果欄に“ ”と記すこと。

卷末資料

1. 完成平面図における地物作成仕様

1) 距離標

1. 地物定義 道路管理者が道路の管理を行うにあたり、道路の付属物として路面上に一定間隔(1km または 0.1km 毎)で設置し、 起点からの距離を把握するために用いる標識。
2. レイヤ名 C-BMK-BMKZ-KMPOST
3. 形状 点(マーカコードは 5:square)
4. 色 緑
5. 作成方法 設置中心位置を点データとして作成する。

《接頭文字について》

属性項目のうち「接頭文字」とは、「地点標設置指針・同解説(案)の送付について」(平成 5 年 7 月 5 日国道第一課交通安全事業係長事務連絡)によって規定された、距離程を識別するために付す文字を指す。バイパス等の整備により延長が長くなって補番が必要となる場合や、現道に対しバイパスの距離標を区分する場合などに距離標に記されるもので、前者の場合は「B」、後者の場合は「BP」と記す。

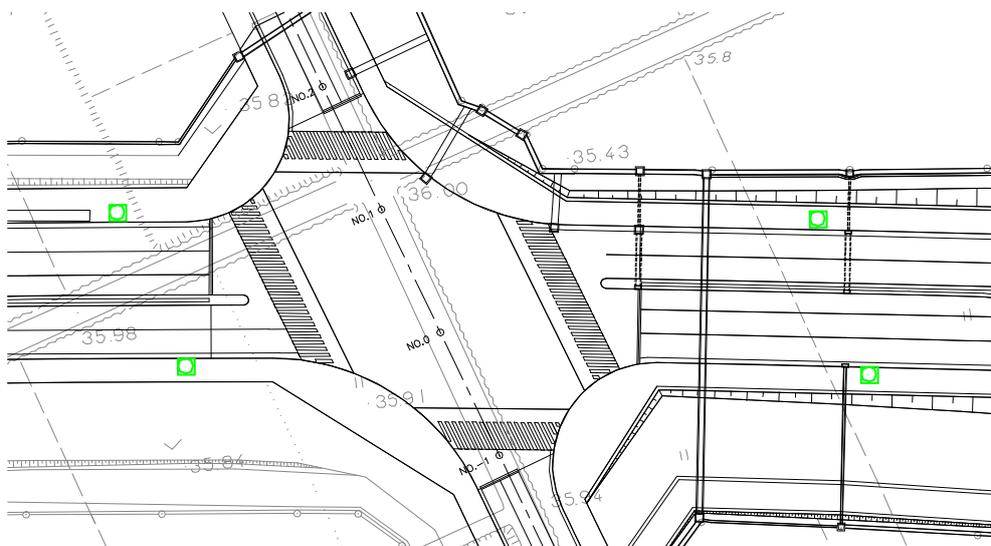
属性入力にあたっては、取得対象となる距離標に B または BP の記載がない場合は"1"、B と記載されている場合は"2"、BP と記載されている場合は"3"として入力する。

《測点で代用する場合の属性入力について》

距離標を測点で代用する際には、下記の通りに属性入力を行う。

- ・「接頭文字」は、"1"を入力。(「なし」を選択)
- ・「距離程」は、測点に読み替えて追加距離を入力。(この場合、桁数は小数点以下2桁、単位 [km])
- ・「種別」は、"3"を入力。
- ・「経度」「緯度」は設計時に用いた座標値を変換した値を入力。
- ・「高さ」は設計時に用いた計画路面高を入力。

《作図例》



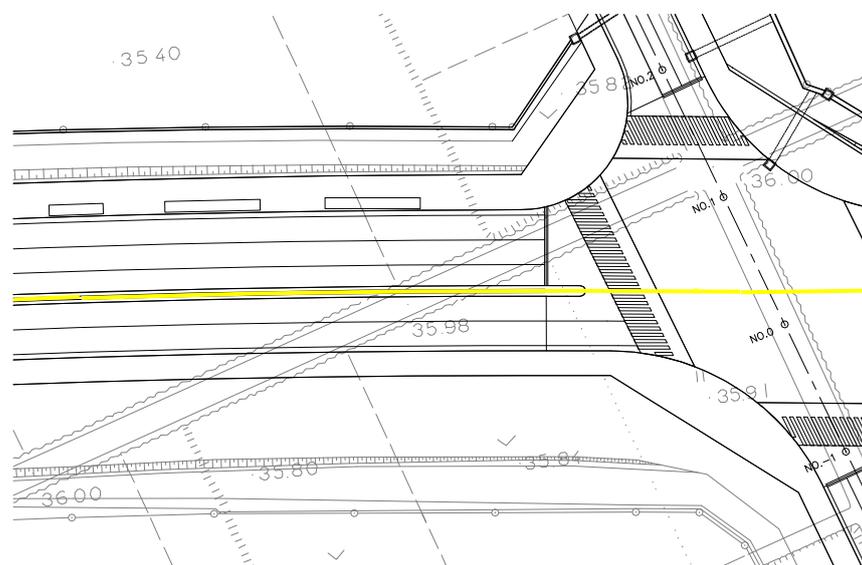
6. 属性項目

【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31
路線番号	距離標が設置されている路線の番号を記入する。	246
現旧区分	距離標が設置されている路線の現道, 旧道, 新道の区分を定義域より選択する。 【定義域】1=現道, 2=旧道, 3=新道	1
上下区分	距離標の用途の区分を定義域より選択する。 【定義域】0=上下線共通, 1=上り線, 2=下り線,	2
接頭文字	新道設置において用いる、距離標を識別するための接頭文字を定義域より選択する。 【定義域】1=なし, 2=B, 3=BP 《測点で代用する場合》 “1”と入力する。	3
距離程	起点からの距離程数値を実数値で記入する。 (小数点以下 1 桁、単位「km」) 《測点で代用する場合》 追加距離を記入する。(小数点以下 2 桁、単位[km])	195.3
種別	距離標の種別を定義域より選択する。 【定義域】1=0.1kp, 2=1kp, 3=測点	1
経度	距離標の設置中心位置の経度を記入する。 小数点形式(DDD° . MM' SS" SSSS)とし、秒以下 4 桁までとする。 《測点で代用する場合》 設計時に用いた座標値を変換した値を記入する。	140.09147463
緯度	距離標の設置中心位置の緯度を記入する。 小数点形式(DD° . MM' SS" SSSS)とし、秒以下 4 桁までとする。 《測点で代用する場合》 設計時に用いた座標値を変換した値を記入する。	36.02416679
高さ	距離標の路面上の設置中心位置の高さ(T.P)を記入する。 現地計測しない(緯度・経度のみを持ち、高さのわからない)距離標の場合、“0.000”として記入する。 (小数点以下 3 桁、単位「m」) 《測点で代用する場合》 設計時に用いた計画路面高を記入する。	37.150

2) 道路中心線

1. 地物定義 道路の設計段階等で用いられる中心線。
2. レイヤ名 C-BMK
3. 形状 線
4. 色 黄
5. 作図方法 道路の設計段階等で用いられる中心線の位置を線で取得する。既に管理段階におかれ、設計段階の中心線位置が不明である場合は、現存する道路の中央帯の中心、一方向道路または往復分離されていない道路においては車道部の中心を表す線を線データとして作成する。前後区間の道路代表線と連続性を確保するよう留意する。

《作図例》

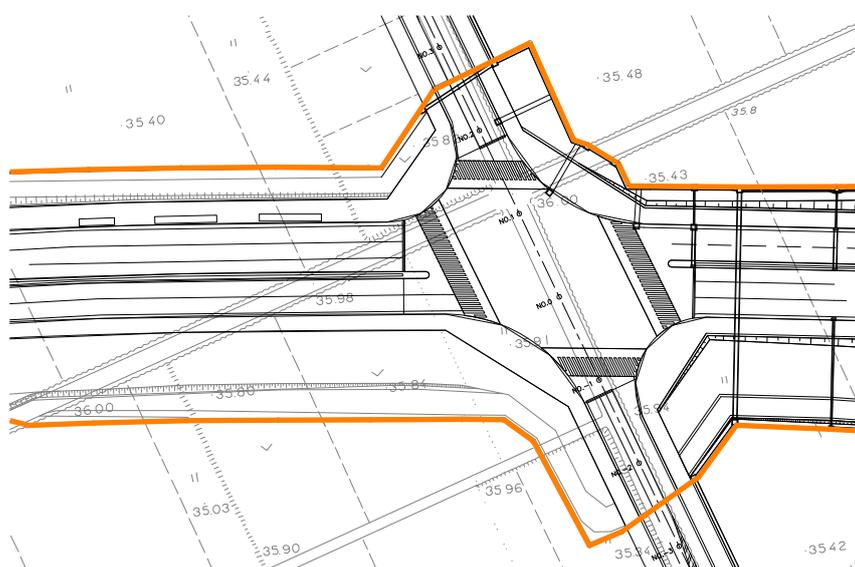


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

3) 管理区域界

1. 地物定義 行政上の管理域の境界であり、他の土地または他管理者が管理する道路との境界。
2. レイヤ名 C-BMK-BMKZ-BOUNDARY
3. 形状 線
4. 色 橙
5. 作図方法 道路管理者が管理対象とする範囲の境界である「管理境界」を線データとして作成する。管理境界標の位置が明確である場合、それらをつなぐ線として線データを作成する。

《作図例》



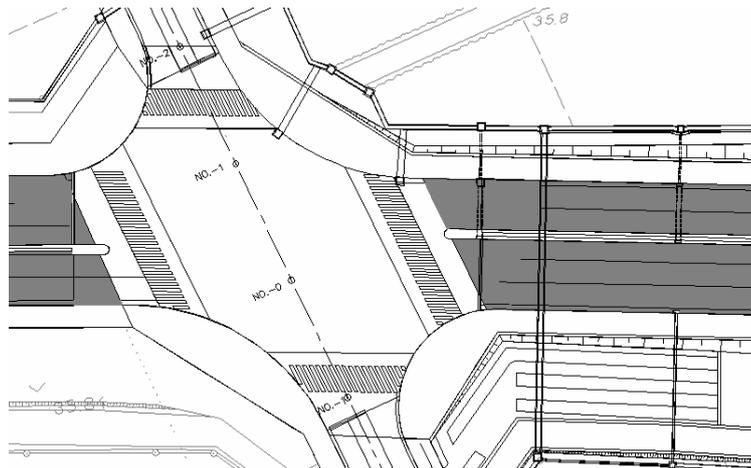
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

4) 車道部

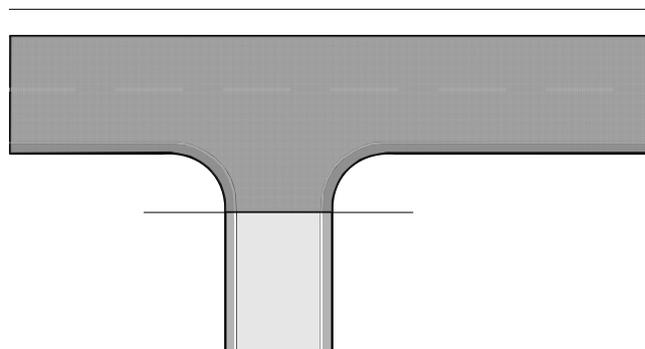
1. 地物定義 主として自動車を利用する道路の部分で、車線、すりつけ区間、分離帯が切断された車道の部分、側帯、路肩、停車帯、待避所、乗合自動車停車所、非常駐車帯、副道を含む。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-ROADWAY
3. 形状 面
4. 色 暗灰
5. 作図方法 路肩端、分離帯端、すみ切りの頂点を結ぶ線分によって囲まれる範囲を面データとして作成する。ただし、車道交差部、踏切道、軌道敷の部分を除く。

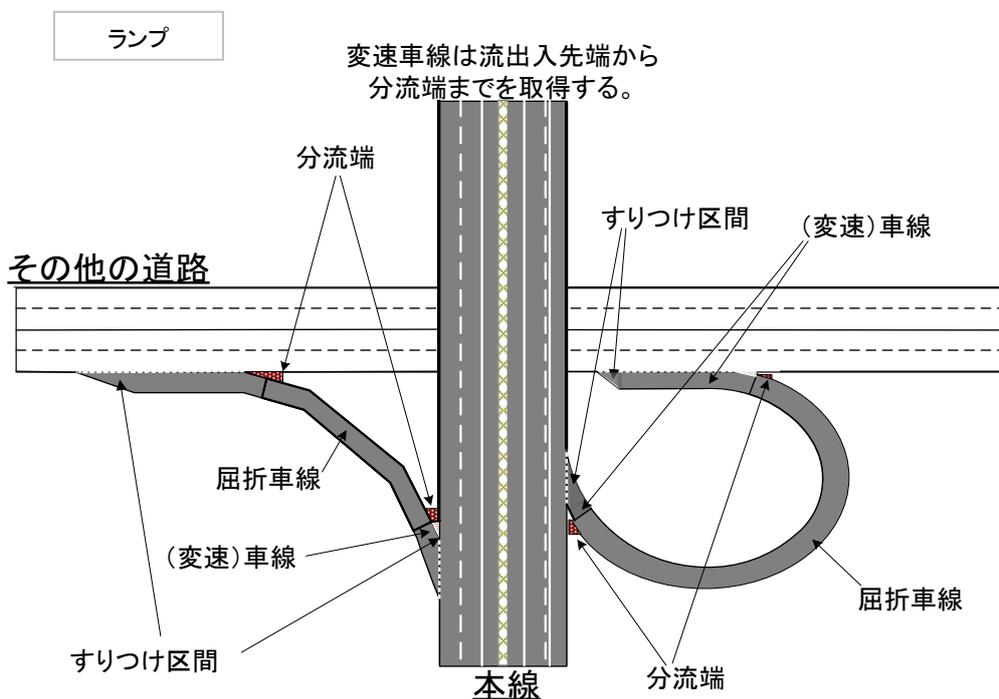
《作図例》

交差点



T字路





6. 属性項目

【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

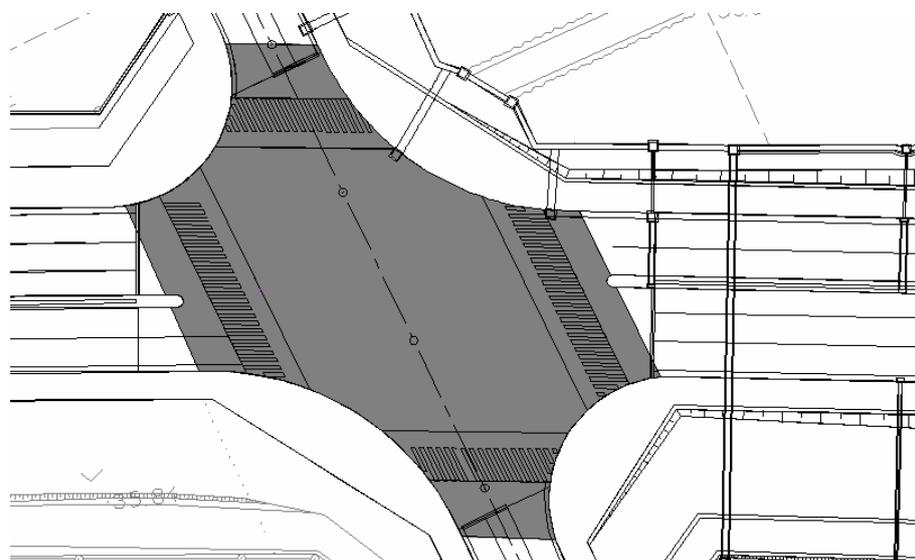
7. 道路施設基本データ

【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
C050 舗装	○		
C110 環境施設帯	○		

5) 車道交差部

1. 地物定義 十字路、丁字路その他 2 つ以上の車道が交わる部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-CROSSING
3. 形状 面
4. 色 暗灰
5. 作図方法 すみ切りの頂点を結ぶ線分、路肩端、分離帯端を境界線として取得し、それによって囲まれた範囲のうち、他の道路と交差する範囲を面データとして作成する。

《作図例》

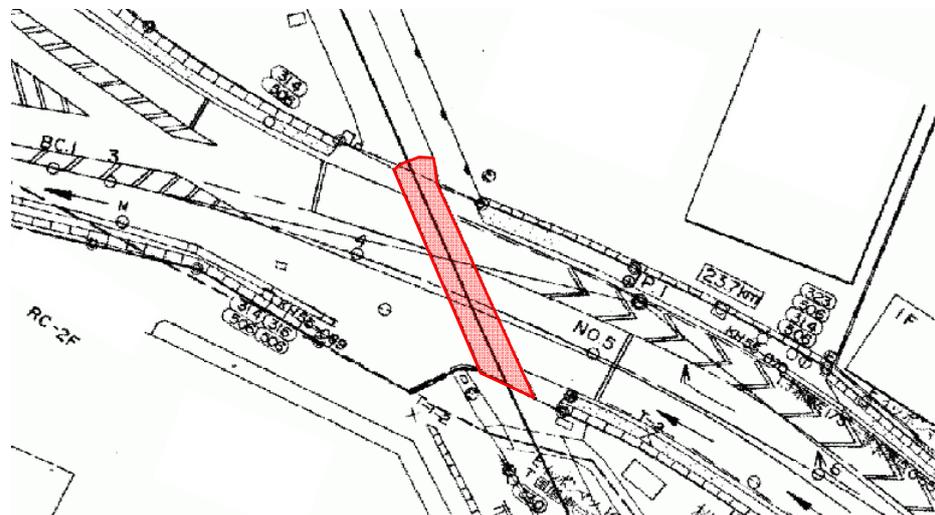


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】		
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31		
7. 道路施設 基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真	
	C060	道路交差点	○	○	○

6) 踏切道

1. 地物定義 鉄道と交差する道路の部分で、道路と鉄道敷地の境界線によって構成される部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-RAILROADCROSS
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 道路と鉄道敷地の境界線を取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》



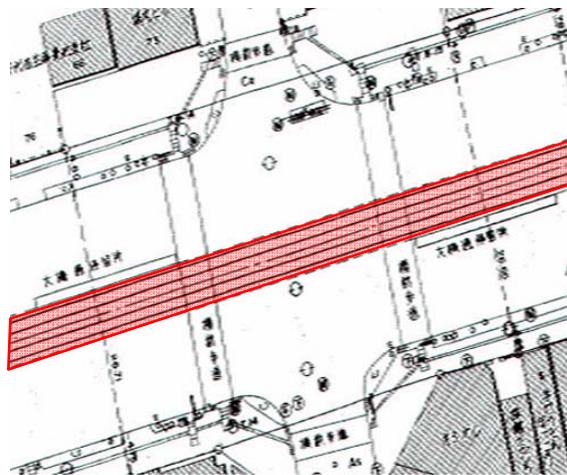
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
C070	鉄道交差点	○		○

7) 軌道敷

1. 地物定義 路面電車が走行する道路の部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-TRAMAREA
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 軌道敷の境界線を取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》

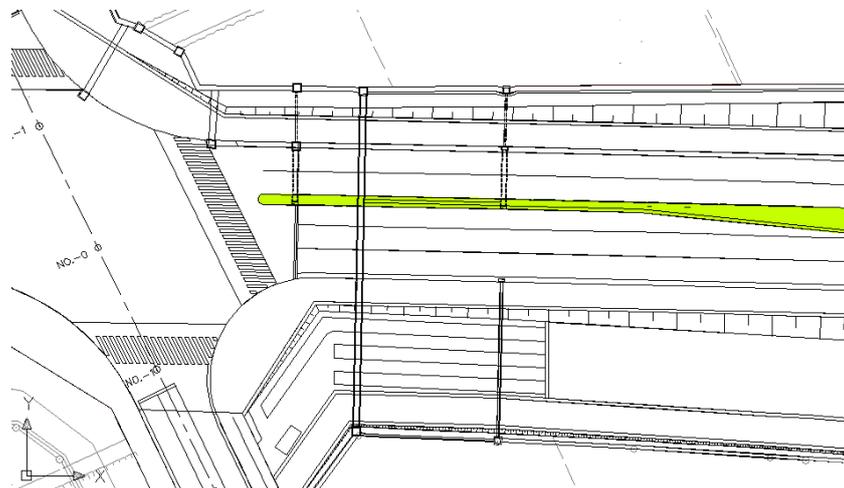


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

8) 島

1. 地物定義 車両の走行を制御し、安全な交通を確保するために設置される分離帯及び交通島の部分。
ただし、路面電車停留所の部分は除く。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-ISLAND
3. 形状 面
4. 色 黄緑
5. 作図方法 道路の中で、工作物(マウントアップ、縁石等)で明確に分離されている部分のうち、歩道部、植栽、路面電車停留所以外の部分の外周を境界線として取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》



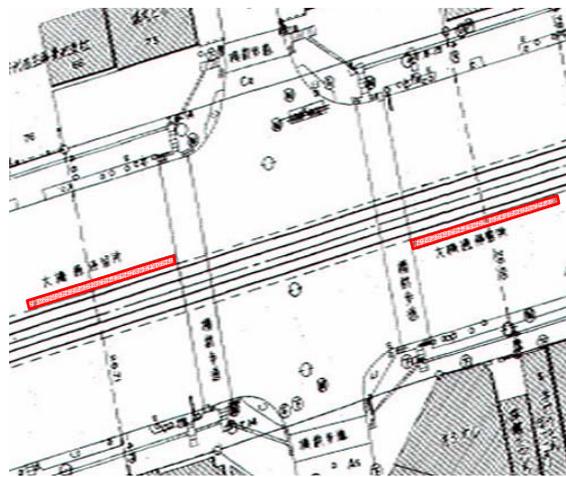
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設 基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
	C100 中央帯	○		
	C110 環境施設帯	○		

9) 路面電車停留所

1. 地物定義 路面電車の乗降、待合のための停留場として利用される島状の道路の部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-TRAMSTOP
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 安全島のうち、路面電車停留所として利用されているものの外周を境界線として取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》

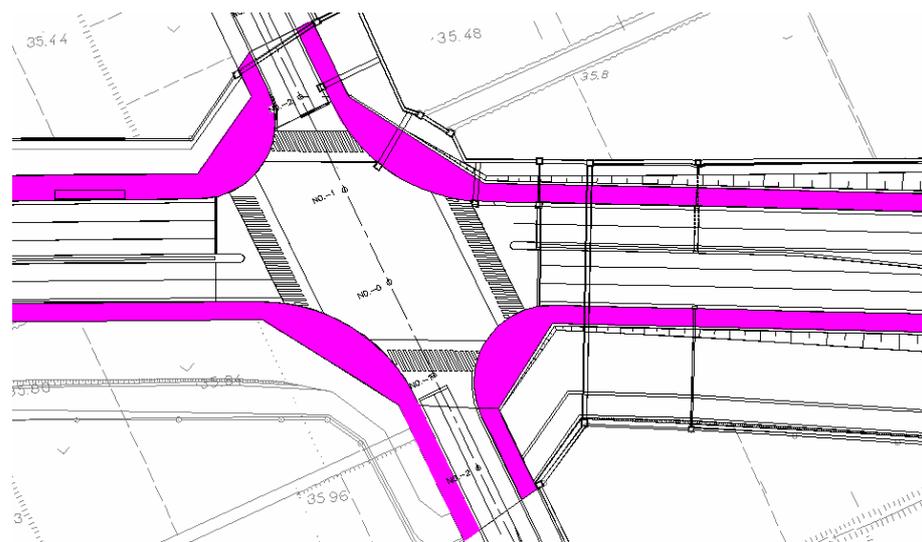


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

10) 歩道部

1. 地物定義 専ら歩行者と自転車の通行に供するため、工作物によって車道部と区画して設けられる道路の部分で、自転車道、自転車歩行者道、歩道を含む。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-SIDEWALK
3. 形状 面
4. 色 桃
5. 作図方法 以下に示す範囲を面データとして作成する。
 - ① 縁石の車道側の境界線と歩道部端によって構成される範囲(歩道部が車道面よりも高いマウントアップ型)
 - ② 縁石や柵・壁の歩道部側の境界線(ただし下端線)と歩道部端によって構成される範囲(歩道部面と車道面を同一の高さとしたフラット型)
 - ③ 構造上、歩行者と自転車の通行に供する部分

《作図例》



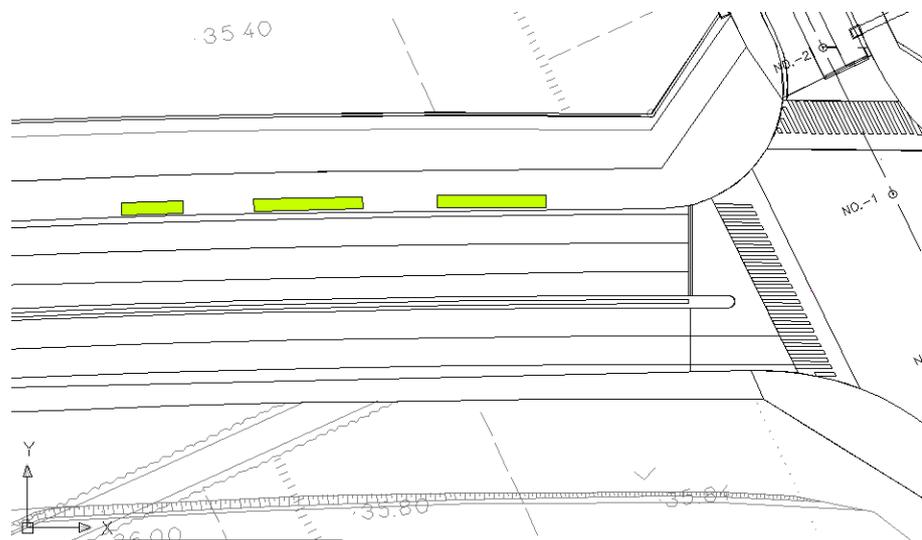
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
	C050 舗装	○		
	C080 歩道及び自転車歩行者道	○		
	C090 独立専用自歩道	○		
	C110 環境施設帯	○		

11) 植栽

1. 地物定義 樹木を植栽するために工作物によって区画して設けられる道路の部分のうち、歩道部内に設置される植樹帯、及び歩道内に街路樹(並木)を植栽するための樹の部分(島に設置される植樹は含まない)。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-PLANT
3. 形状 面
4. 色 黄緑
5. 作図方法 植栽の外周となる境界線を取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》



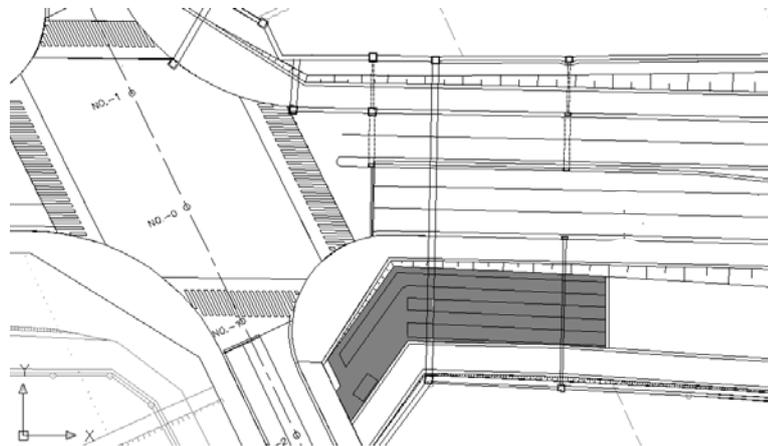
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦)、月、日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
E230	植栽	○	○	○
C110	環境施設帯	○		

12) 自転車駐車場

1. 地物定義 道路に接する自転車駐車場で、道路管理者が設置し管理するもの。
自転車駐車場の駐車区画・通路の部分により構成される。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-BICYCLEPARK
3. 形状 面
4. 色 暗灰
5. 作図方法 自転車駐車場を構成する駐車区画・通路の外周と、出入口を境界線として取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》

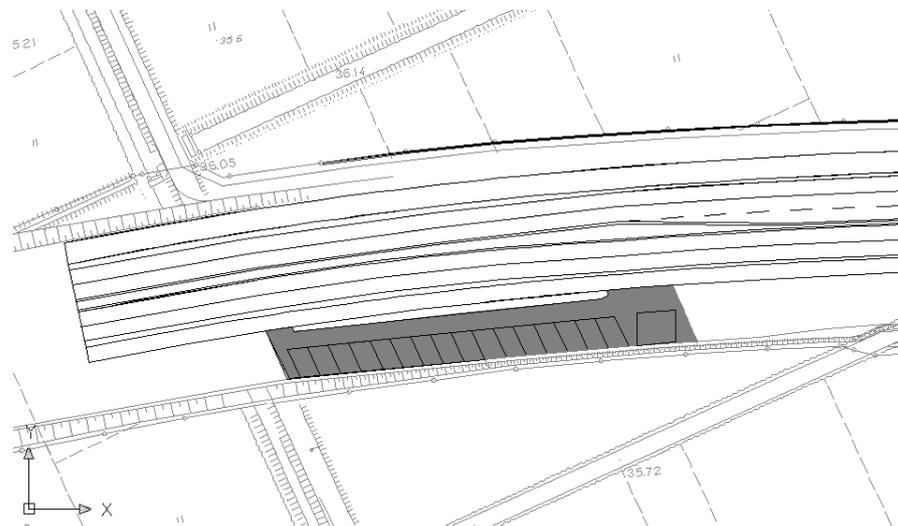


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】	
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31	
7. 道路施設 基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
	E140	自転車駐車場	○	○

13) 自動車駐車場

1. 地物定義 自動車駐車場で、道路に接して道路管理者が設置し管理するもの。
自動車駐車場の駐車区画・車路の部分を含む。(進入接続路は含まない。)
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-CARPARK
3. 形状 面
4. 色 暗灰
5. 作図方法 自動車駐車場を構成する駐車区画・車路の外周と、駐車場への進入接続路との境界線(出入口)を境界線として取得し、それによって構成される範囲を面データとして作成する。

《作図例》

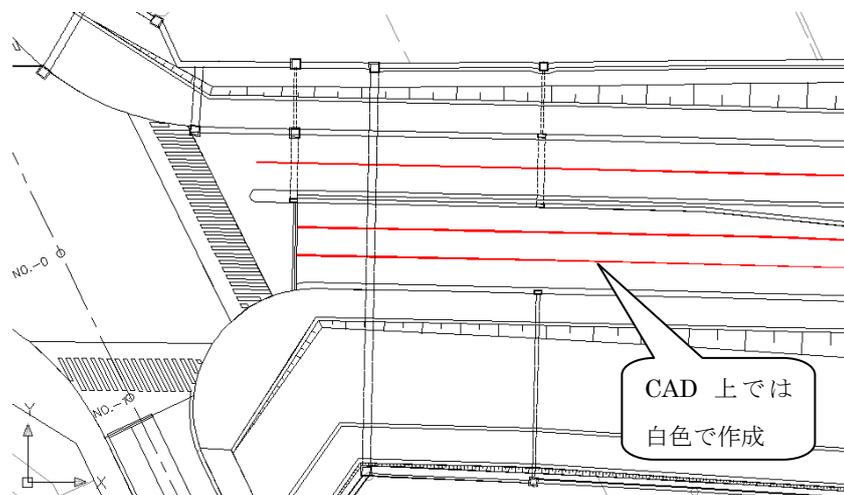


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】	
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31	
7. 道路施設 基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
	E130	自動車駐車場	○	○

14) 区画線

1. 地物定義 車線(すりつけ部を含む)の境界を明示するための路面標示。
路面標示のうち、道路中央線、車線境界線、車道外側線によって構成される。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-LINE
3. 形状 線
4. 色 白
5. 作図方法 道路中央線、車線境界線、車道外側線のマーキングの中心を線データとして作成する。

《作図例》



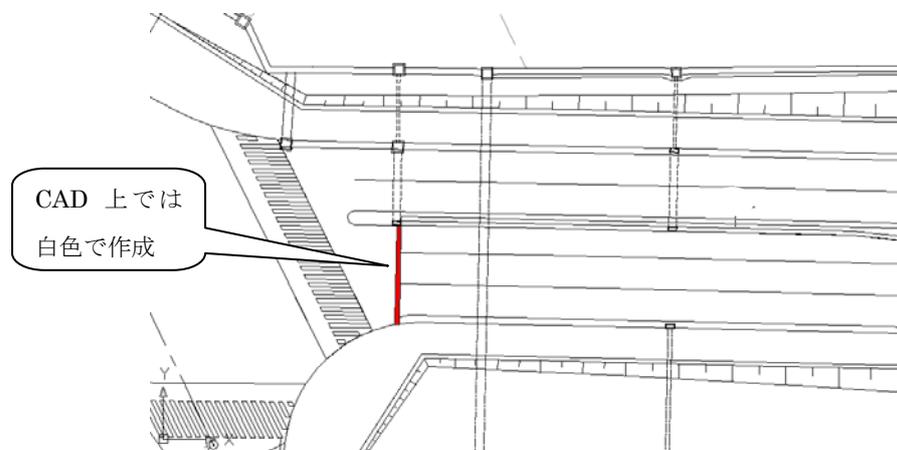
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設 基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
	C050 舗装	○		

15) 停止線

- 1. 地物定義 停止線を明示する路面標示。
- 2. レイヤ名 C-STR-STRZ-STOPLINE
- 3. 形状 線
- 4. 色 白
- 5. 作図方法 停止線(二段停止線を含む)のマーキングの中心を線データとして作成する。

《作図例》

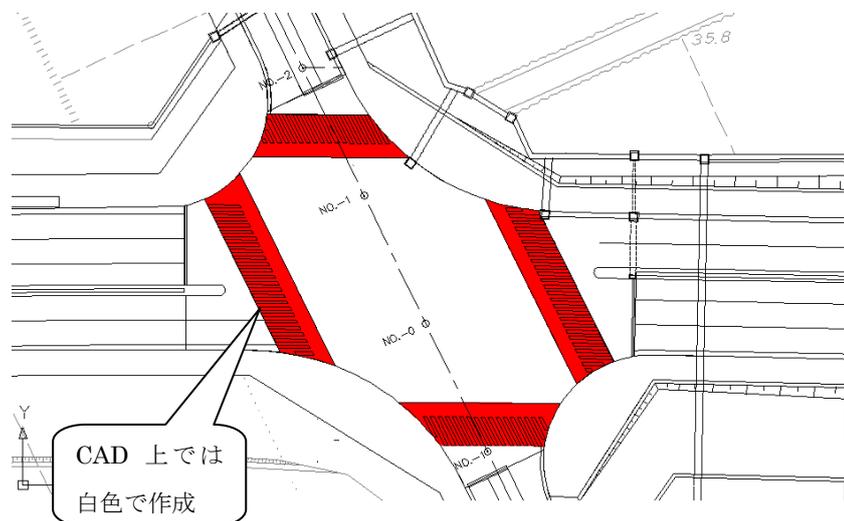


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31
7. 道路施設 基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図
	C050	舗装	○

16) 横断歩道

1. 地物定義 車道部のうち、主に交差点付近で歩行者が横断するために路面標示で区分された部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-CROSSWALK
3. 形状 面
4. 色 白
5. 作図方法 横断歩道を表す路面標示の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。
自転車横断帯が隣接している場合は、それも含めた範囲として作成する。
斜め横断可(スクランブル横断歩道)の場合も同様に作成するが、時間を限定して行われる交差点で交差点中央部に路面標示が無い場合は、路面標示がある範囲のみを面データとして作成する。

《作図例》



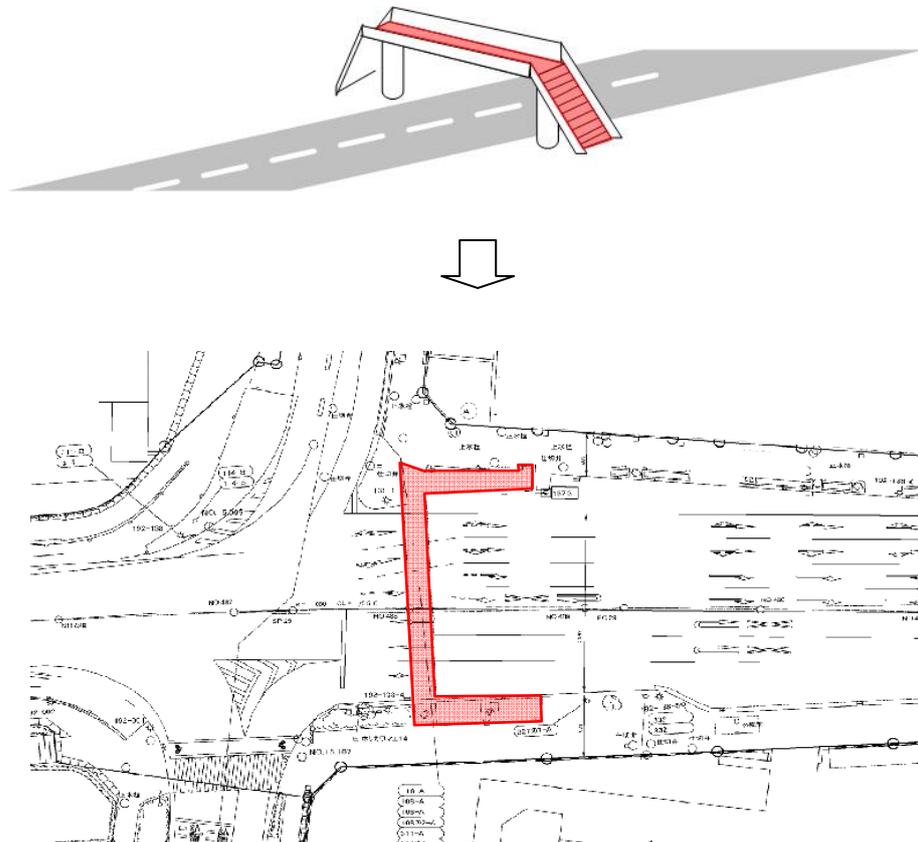
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
C050	舗装	○		

17) 横断歩道橋

1. 地物定義 車道を横断する歩行者を車道から分離するための橋梁状の施設。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-PEDESTRIANBRIDGE
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 歩行者の通行に供される部分(階段、斜路、エレベータ、エスカレータ、踊り場を含む)を平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。ループ式の階段等が設置されている場合は、その部分を平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を含める。

《作図例》



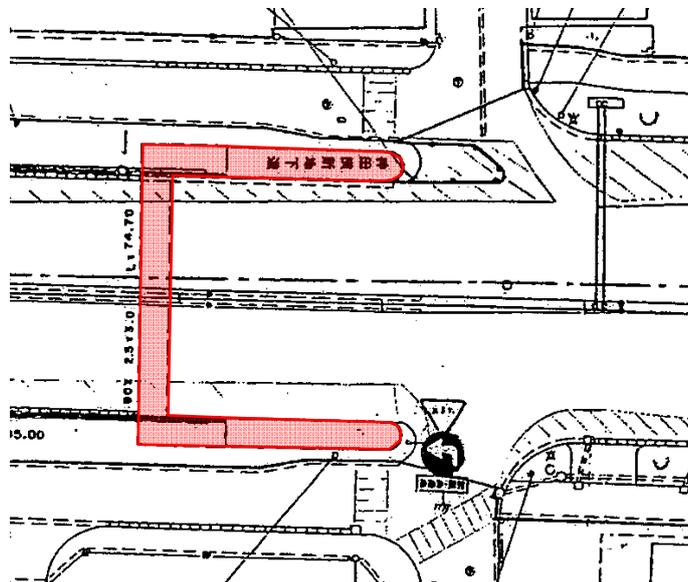
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
D030	横断歩道橋	○	○	○

18) 地下横断歩道

1. 地物定義 車道を横断する歩行者を車道から分離するための道路横断施設。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-UNDERPASSWALK
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 歩行者の通行に供される部分(階段、斜路、踊り場を含む)を平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



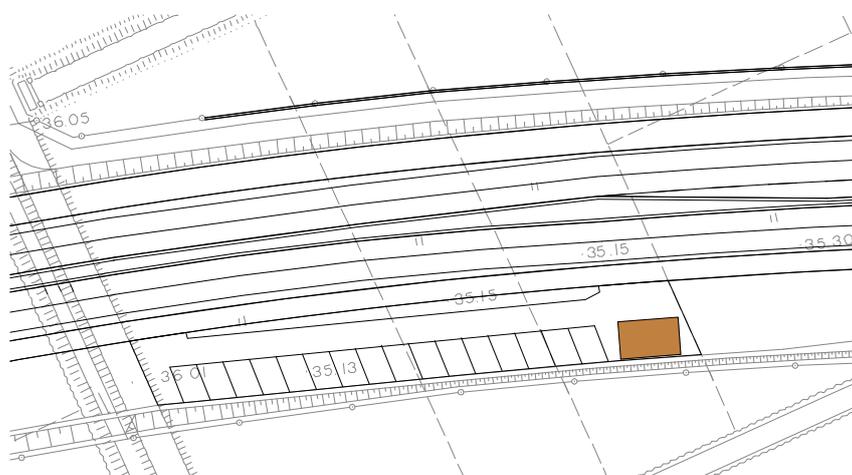
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
D070	地下横断歩道	○	○	○

19) 建築物

1. 地物定義 道路管理者が設け管理している建築物及び地下鉄等の入口のための出入口、庁舎・観測施設・通信施設などの建築物。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-BUILDING
3. 形状 面
4. 色 茶
5. 作図方法 建築物の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



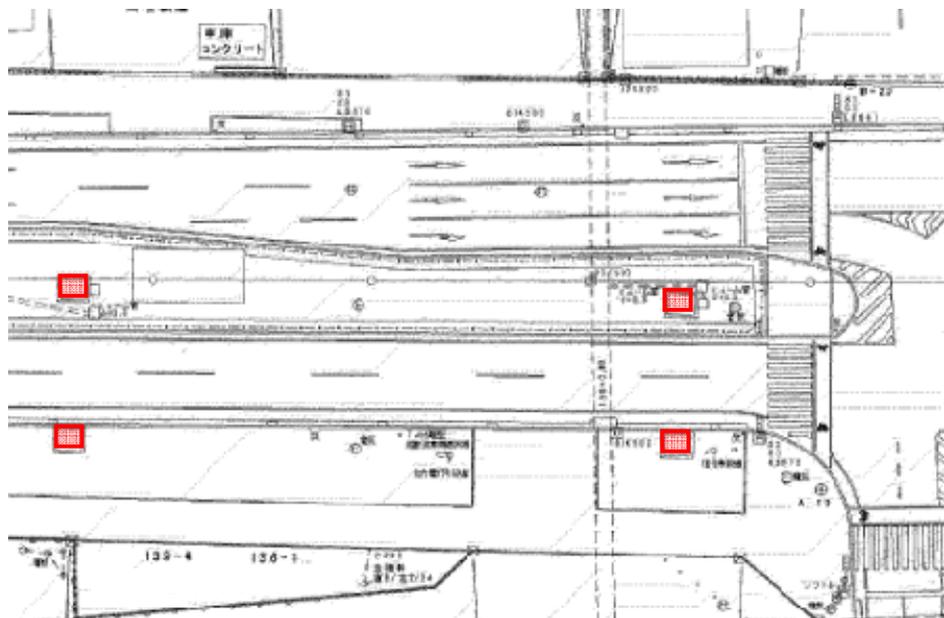
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
E190	除雪ステーション	○		○

20) 橋脚

1. 地物定義 道路上の空間を占有している当該道路以外の構造物を支える橋脚。
道路が立体構造となっている場合に当該道路に接続するランプの橋脚がある場合には、それも含むが橋台は含まない。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-PIER
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 橋脚の接地部分の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



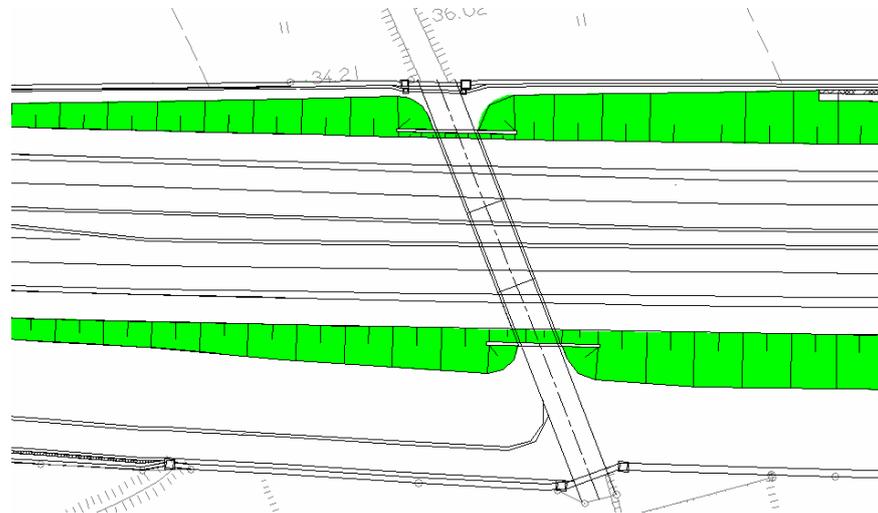
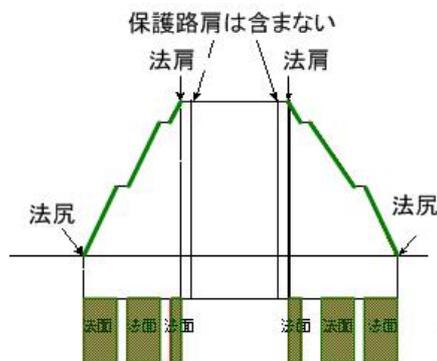
6. 属性項目

【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

21) 盛土法面

1. 地物定義 盛土でできた人工的な斜面のうち、保護路肩や小段を除いた部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-BANK
3. 形状 面
4. 色 緑
5. 作図方法 法肩線及び法尻線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



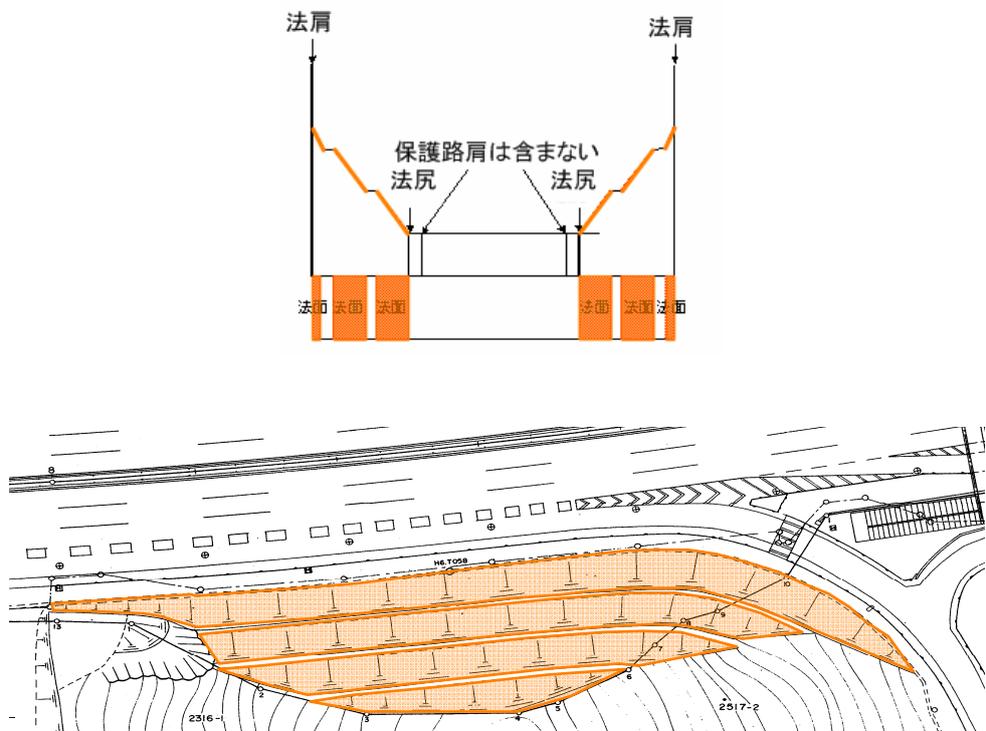
6. 属性項目

【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

22) 切土法面

1. 地物定義 切り取りでできた人工的な斜面のうち、保護路肩や小段を除いた部分。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-CUT
3. 形状 面
4. 色 橙
5. 作図方法 法肩線及び法尻線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



6. 属性項目

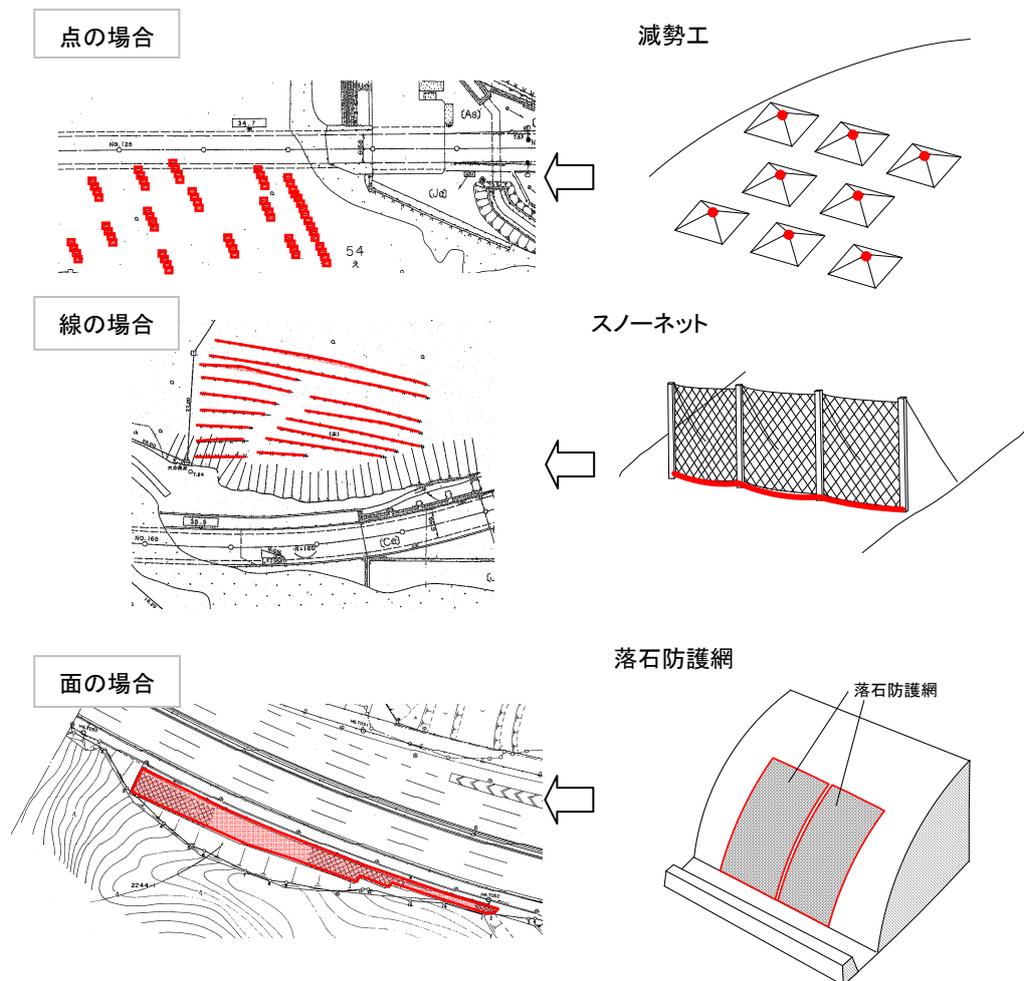
【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

23) 斜面对策工

1. 地物定義 自然斜面や法面の崩壊を防ぐために設置される施設
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-SLOPE
3. 形状 点(マーカコードは 5:square)
線
面
4. 色 赤
5. 作図方法 予防杭、吊柱、減勢工、ロックボルト工、ロックアンカー工は中心位置を点データとして作成する。スノーネットは中心線を線データとして作成する。誘導工、根固め工、落石防護網は構造物の外周を面データとして作成する。

《作図例》

《主な工種》



6. 属性項目

【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

24) 擁壁

1. 地物定義 土砂の崩壊を防ぐための壁体構造物。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-WALL
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 擁壁を平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》

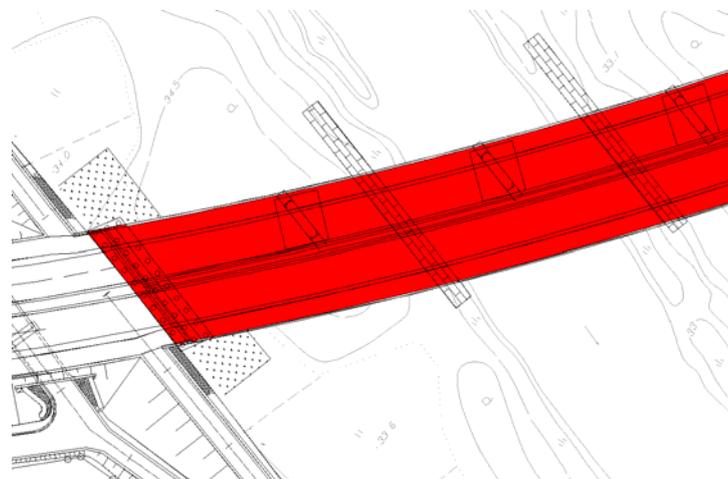


6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】	
	設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31	
7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
	D120	擁壁	○	○

25) 橋梁

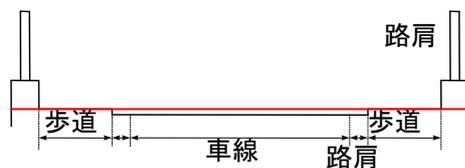
1. 地物定義 道路において、交通の障害となる河川、渓谷、湖沼、海峡、鉄道、水路、他の道路などの上方にこれを横断するために建設される構造物の総称。市街地において効率的な土地利用の観点から、道路上あるいは河川上の空間に連続して建設される高架橋も橋梁の一形態である。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-BRIDGE
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 橋梁の上部工を平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



取得する範囲…

断面図



側面図



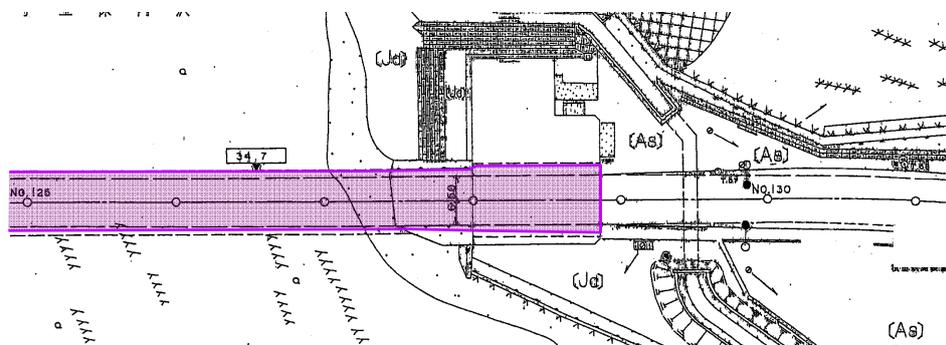
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
D010	橋梁	○	○	○
D020	橋側歩道橋	○	○	○

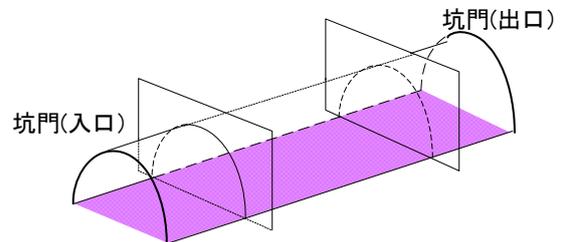
26) トンネル

1. 地物定義 上部を含め周辺が地山や他の構造物で覆われており、交通、輸送等の用に供する構造物。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-TUNNEL
3. 形状 面
4. 色 紫
5. 作図方法 坑口から坑口までのトンネルを平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



取得する範囲



上面図

坑門

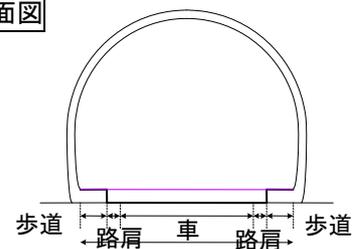
坑門

断面図

<竹割型>



<逆竹割型>



内空が地表面と接している幅を取得する

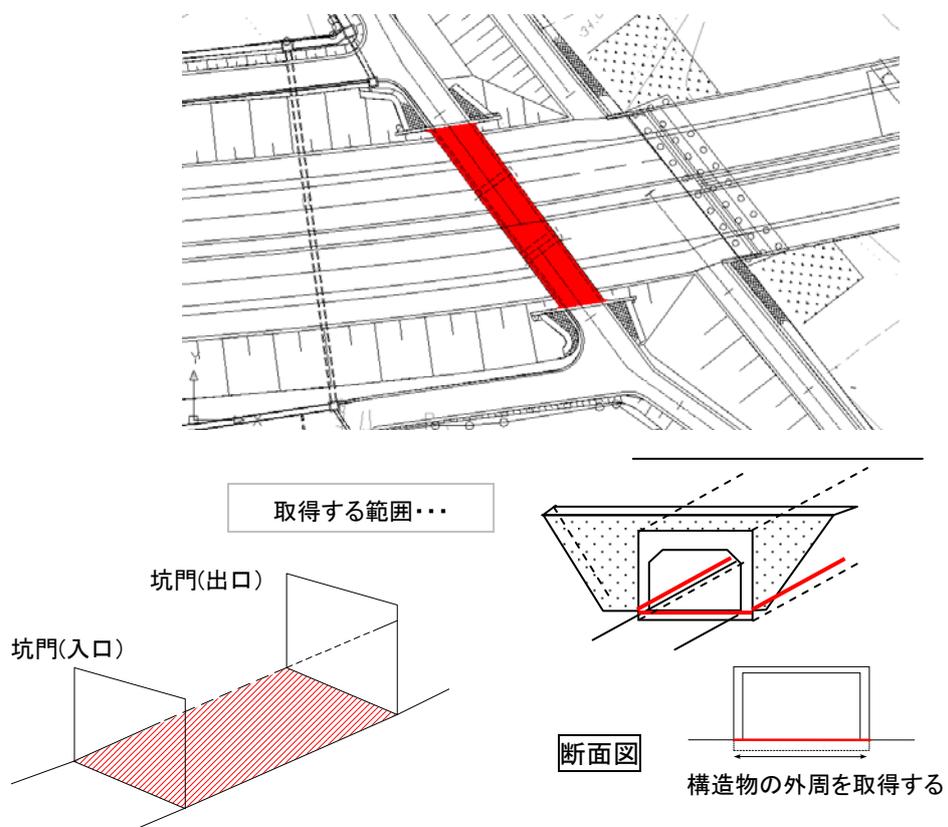
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
D040	トンネル	○	○	○

27) ボックスカルバート

1. 地物定義 他の道路等の下方を横断する際、その盛土の中を横断する形で設置される箱状の構造物。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-BOX
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 カルバートを平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



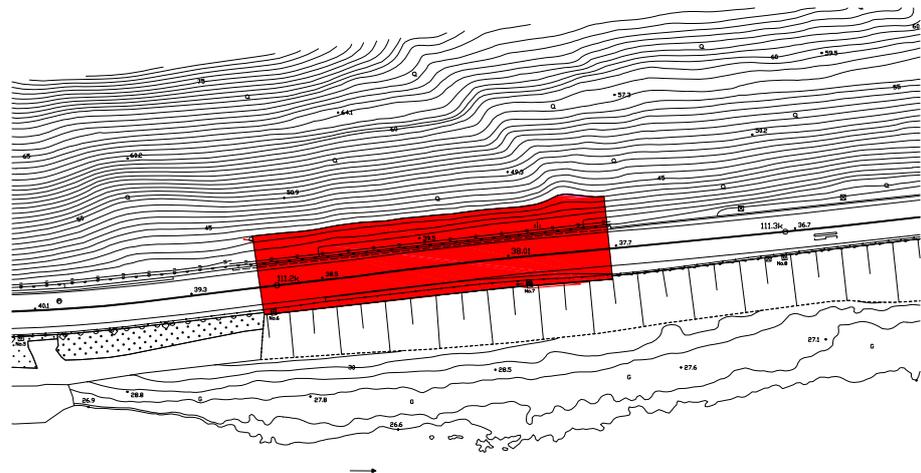
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
D090	横断 BOX	○	○	○

28) シェッド

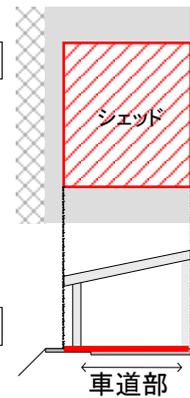
1. 地物定義 落石および雪崩を路面に直接落下させず、道路を越えて転進させるために、鋼材やコンクリート材などで道路を覆う構造物。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-SHED
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 シェッドを平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



取得する範囲...

平面図



断面図

車道部

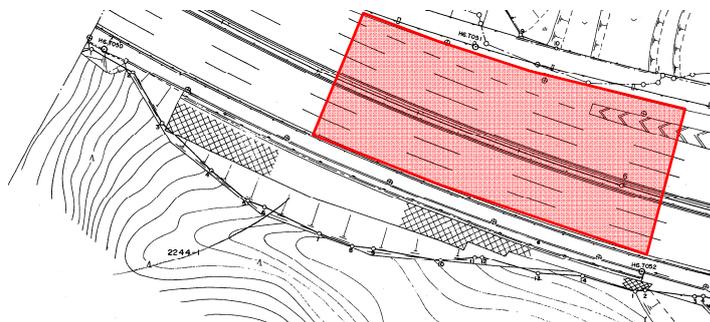
6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

7. 道路施設基本データ	【項目名】	詳細情報	一般図	現況写真
D050	洞門	○	○	○
D060	スノーシェッド	○	○	○

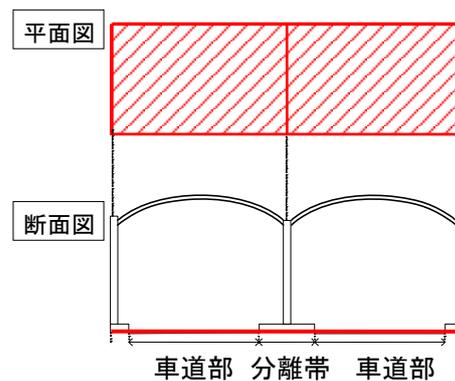
29) シェルター

1. 地物定義 アーチ型または門型の道路を完全に覆ったトンネルのような構造物。
2. レイヤ名 C-STR-STRZ-SHELTER
3. 形状 面
4. 色 赤
5. 作図方法 シェルターを平面投影した形状の外形線によって囲まれる範囲を面データとして作成する。

《作図例》



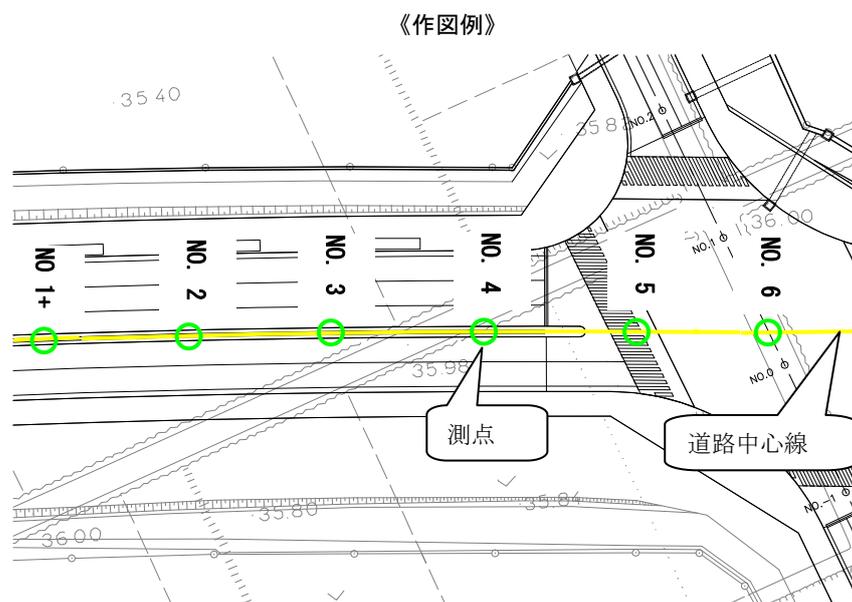
取得する範囲…



6. 属性項目	【属性】	【定義】	【記述例】
設置日		工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31

30) 測点

- 1. 地物定義 道路の設計段階等で用いられる道路中心線上の点。
- 2. レイヤ名 C-BMK-BMKZ-STATION
- 3. 形状 点（マーカコードは 2:circle）
- 4. 色 緑
- 5. 作成方法 道路中心線上に点データとして作成する。



6. 属性項目

【属性】	【定義】	【記述例】
設置日	工事完了日(日本時間の年(西暦), 月, 日の半角スペース区切り)。設置日が不明な場合は「不明」と入力する。	2005 3 31
測点番号	測点毎に付与される番号。完成平面図、完成縦断図に記載された測点番号の値を入力する。	2+0.000
追加距離	工事起点からの水平距離。完成縦断図に記載された追加距離を入力する。(小数点以下 3 桁、単位「m」)	56.200
高さ	計画高位置における路面高さ(T.P.)。完成縦断図に記載された計画高(設計値)を入力する。設計値が取得できない場合は出来形測量結果を入力する。(小数点以下 3 桁、単位「m」)	45.406
横断勾配(左)	工事起点から終点方向に向かって左側車線の横断勾配値。完成縦断図に記載された横断勾配(設計値)を入力する。設計値が取得できない場合は出来形測量結果を入力する。(小数点以下 2 桁、単位「%」)	2.07
横断勾配(右)	工事起点から終点方向に向かって右側車線の横断勾配値。完成縦断図に記載された横断勾配(設計値)を入力する。設計値が取得できない場合は出来形測量結果を入力する。(小数点以下 2 桁、単位「%」)	-1.75

2. SXF Ver. 2.0 による完成平面図の作成方法

1. SXF Ver. 3.x との相違点

SXF Ver.2.0 による完成平面図の作成方法には、SXF Ver.3.x と比べて以下の相違点がある。
 なお、本巻末資料では、SXF Ver.3.xとSXF Ver.2.0 の相違点を[青字](#)で記す。

- ・ 距離標および測点以外の地物は、属性入力を行わない。
- ・ 距離標および測点の属性データを別途 CSV 形式*で作成するとともに、CAD 上の距離標および測点の点データおよび属性データと対応付けるため、点データに地物コードを配置する（図 1 参照）。
- ・ ラスタ形式の地形図を利用する際、ラスタ形式の地形図の図枠の作成およびファイル名コードの配置を行う。

* : CSV 形式は、データをカンマ(",")で区切って並べたテキストファイルであり、表計算ソフト等で保存する際、ファイル形式に「CSV (カンマ区切り) (*.CSV)」を選択することで作成される。通常、CSV ファイルを表計算ソフトで開くと、カンマ区切り位置でセルに分割されて表示され、テキストエディタで開くと、カンマが表示される。

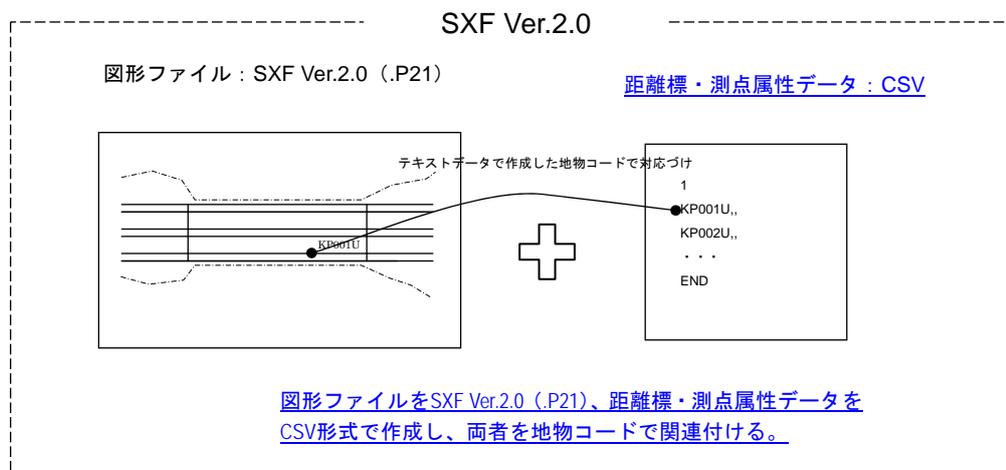


図 1 SXF Ver.2.0 のファイル構成 (イメージ)

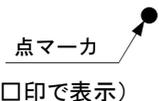
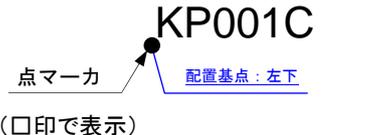
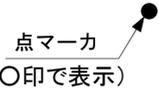
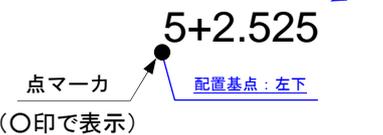
2. 作成方法

2-1. 図形データの作成

SXF Ver.2.0 で完成平面図を作成する場合、属性データを入力するのは距離標および測点とし、距離標および測点の点データ上に地物コードを配置して CSV ファイルで作成した属性データと関連付ける。

なお、地物コードの配置にあたっては、配置基点を基に対応する距離標および測点の点データを抽出するため、配置基点と点データの位置（座標）とを一致させる必要がある。

表 1 距離標および測点のデータ作成方法の違い

	SXF Ver.3.0	SXF Ver.2.0
距離標データ	<p>点データに属性データが組み込まれる</p>  <p>点マーカ (□印で表示)</p>	<p>地物コードで CSV ファイルの属性データと関連付ける</p>  <p>点マーカ (□印で表示)</p> <p>配置基点：左下</p> <p>KP001C</p> <p>点データと同一座標に、地物を識別する地物コードを作成。 配置基点を点データの位置と一致させる。</p>
測点データ	<p>点データに属性データが組み込まれる</p>  <p>点マーカ (○印で表示)</p>	<p>地物コード（測点番号）で CSV ファイルの属性データと関連付ける</p>  <p>点マーカ (○印で表示)</p> <p>配置基点：左下</p> <p>5+2.525</p> <p>点データと同一座標に、地物を識別する地物コード（測点番号）を作成。 配置基点を点データの位置と一致させる。 地物コード（測点番号）は、図面上に重複する番号が存在することなく一意に定義する。</p>

距離標および測点の地物コードの作成ルールを以下に示す。

- 距離標の地物コードは、「“KP” “3 桁の通し番号 (001～)” “上下区分 (上下線共通：C, 上り線：U, 下り線：D)”」を半角で記述する。なお、測点情報を用いて距離標地物を作成する場合、“KP” に換えて “NO” を表示する。
- 道路中心線上の測点の地物コードは、完成縦断図に記載された測点番号を基に、「“測点番号” + “追加距離”」を半角で記述する。記述する測点番号（“測点番号” + “追加距離”）は、CSV ファイルで作成した属性データと関連付けるため、重複することなく一意に定義する。なお、インターチェンジのランプ等において、測点番号が重複する場合、測点番号の前にランプ名称を付記する等の措置により、測点番号を差別化する。例えば、ランプ名称が“A”、測点番号が“2”、追加距離が“5.252”の場合は、“NO A2+5.252”と入力する。
- 地物コードの配置基点は、縦方向は底辺、横方向は左に合わせる（左下：通常 SXF (. P21)

でデフォルトに設定される位置)。

- ・ 地物コードを配置する際には、テキストのマージンの設定を“0”とする。
- ・ 地物コードは、1/1000 等で印刷する際の見かけ高さが 3mm 程度になるよう設定する。
- ・ 縦書き文字の使用，文字の回転等は行わない。

また、SXF 形式で保存した際に地物コードの文字と図形が重なり、見づらくなることもある。この場合においても、距離標および測点の属性データが配置基点と関連付けられているため、配置基点を自動調整しないように CAD ソフトの設定を“補正しない”および“調整しない”等とし、誤って配置基点を移動させてはならない。

2-2. レイヤ分類

本要領に従い作成した地物データは、表 2 の太枠で囲んだレイヤに格納する。特に 9 種類の道路面地物データにおいては、本編「7) 図形データ作成」に従い、隣接する面データの境界一致が必要である。

また、その他のデータについては「CAD 製図基準 (案)」に従いその他のレイヤに格納する。

なお、SXF Ver.2.0 により完成平面図を作成する場合、「距離標」を格納するレイヤには、属性情報を図形情報と対応付けるための「地物コード」を追加し、「ラスタ化された地図」を格納するレイヤには、地形図を配置するための図枠および「ファイル名コード」を追加する。

表 2 SXF Ver.2.0 のレイヤ分類一覧表

分類	図形名称	レイヤ名	図形要素				着色	備考	
			面	線	点	その他 (文字列、ラスタ)			
本 要 領 で 規 定 し た 地 物 を 格 納 す る レ イ ヤ	道路中心線	C-BMK		●			黄		
	距離標	C-BMK-BMKZ-KMPOST			●	●	緑	距離標の地物コードを追加	
	管理区域界	C-BMK-BMKZ-BOUNDARY		●			橙		
	測点	C-BMK-BMKZ-STATION			●	●	緑	距離標の地物コード(測点番号)を追加	
	道 路 面 地 物	車道部	C-STR-STRZ-ROADWAY	●				暗灰	道路面を構成する地物 (隣接する面データの境界形 状一致が必要)
		車道交差部	C-STR-STRZ-CROSSING	●				暗灰	
		踏切道	C-STR-STRZ-RAILROADCROSS	●				赤	
		軌道敷	C-STR-STRZ-TRAMAREA	●				赤	
		島	C-STR-STRZ-ISLAND	●				黄緑	
		路面電車停留所	C-STR-STRZ-TRAMSTOP	●				赤	
		歩道部	C-STR-STRZ-SIDEWALK	●				桃	
		自転車駐車場	C-STR-STRZ-BICYCLEPARK	●				暗灰	
		自動車駐車場	C-STR-STRZ-CARPARK	●				暗灰	
		植栽	C-STR-STRZ-PLANT	●				黄緑	
	区画線	C-STR-STRZ-LINE		●			白		
	停止線	C-STR-STRZ-STOPLINE		●			白		
	横断歩道	C-STR-STRZ-CROSSWALK	●				白		
	横断歩道橋	C-STR-STRZ-PEDESTRIANBRIDGE	●				赤		
	地下横断歩道	C-STR-STRZ-UNDERPASSWALK	●				赤		
	建築物	C-STR-STRZ-BUILDING	●				茶		
	橋脚	C-STR-STRZ-PIER	●				赤		
	盛土法面	C-STR-STRZ-BANK	●				緑		
	切土法面	C-STR-STRZ-CUT	●				橙		
	斜面对策工	C-STR-STRZ-SLOPE	●	●	●		赤		
	擁壁	C-STR-STRZ-WALL	●				赤		
	ボックスパート	C-STR-STRZ-BOX	●				赤		
	シェッド	C-STR-STRZ-SHED	●				赤		
	シェルター	C-STR-STRZ-SHELTER	●				赤		
	橋梁	C-STR-STRZ-BRIDGE	●				赤		
	トンネル	C-STR-STRZ-TUNNEL	●				紫		

分類	図形名称	レイヤ名	図形要素				着色	備考
			面	線	点	その他 (文字列、ラスタ)		
その他のレイヤ	外枠	C-TTL				●		図面表記用 (図枠、表題欄、地形図) ●：ラスタ形式の地形図を利用する場合、図枠とファイル名コードを追加
	タイトル枠	C-TTL-FRAM				●		
	区切り線、書線	C-TTL-LINE				●		
	文字列	C-TTL-TXT				●		
	現況地物	C-BGD				●		
	等高線の計曲線	C-BGD-HICN				●		
	等高線の主曲線	C-BGD-LWCN				●		
	主な横断構造物	C-BGD-CRST				●		
	ラスタ化された地図	C-BGD-RSTR		●		●		
	特に明示すべき現況地物	C-BGD-EXST				●		
	旗上げ	C-BGD-HTXT				●		
	基準となる点(測量ポイント)	C-BMK-SRVR				●		
	用地境界(幅杭)	C-BMK-ROW				●		
	旗上げ	C-BMK-HTXT				●		
	主構造物外形線(道路幅員)	C-STR				●		
	構造物1(橋梁)	C-STR-STR1				●		
	構造物2(トンネル)	C-STR-STR2				●		
	：	：	：	：	：	：	：	
旗上げ	C-STR-HTXT				●			
ハッチ、シンボル、塗りつぶし、記号等	C-DCR				●			

凡例：●：SXF Ver. 3.xで規定、●：SXF Ver. 2.0用に新たに追加

2-3. 属性データの作成

SXF Ver.2.0 で完成平面図を作成する場合、距離標および測点の属性を別途 CSV 形式で作成するものとし、距離標および測点以外の地物項目については属性を入力しなくてよい。なお、CSV ファイルの作成には、道路工事完成図等作成支援サイト (<http://www.nilim-cdrw.jp/>) より提供される「距離標・測点属性入力支援ツール」(Excel ファイル) を利用すること。

属性項目の入力内容は、SXF Ver.3.x と同様とする。また、図 2 に示すように SXF Ver.2.0 の属性データの作成では、一つの距離標または測点に対して 1 行で属性を入力するものとする。

地物コード	KP001C, 2005 3 31, 246, 1, 3, 1, 195. 3, 1, 140. 09147463, 36. 02416679, 37. 150	距離標の属性値
	KP002C 2005 3 31, 246, 1, 3, 1, 195. 4, 1, 140. 06391474, 36. 07924166, 37. 130	
	⋮	
地物コード(測点番号)	1+5. 25Z 2005 3 31, 1. 00, 16. 20, 10. 255, 1. 75, 2. 07	測点の属性値
	2+2. 100, 2005 3 31, 2. 00, 36. 20, 10. 155, 2. 09, 2. 57	
	⋮	

1 地物に対し、1 行で属性を入力し、地物コード、属性項目毎に、“,” で区切って記述する。

図 2 CSV データ(イメージ)

なお、道路中心線上の測点の属性として、設置日、測点番号、追加距離、高さ、横断勾配 (左)、横断勾配 (右) を入力する。

2-4. 地形図

SXF Ver.2.0 でラスタ形式の地形図を利用する場合には、位置座標を管理するために、図枠の作成およびファイル名コードの配置が必要である。

図枠を自動生成しない CAD ソフトを用いている場合には、図 3 に示すようにラスタ形式の地形図の図枠を C-BGD-RSTR レイヤ上に作成し、そのラスタ地形図のファイル名コードを図枠内に配置する。なお、図枠は連続した線分で作成するものとし、線分の起点および終点をラスタ形式の地形図の左下点と一致させるものとする。

図枠の自動生成機能については、各 CAD ソフトのマニュアル等を参照されたい。

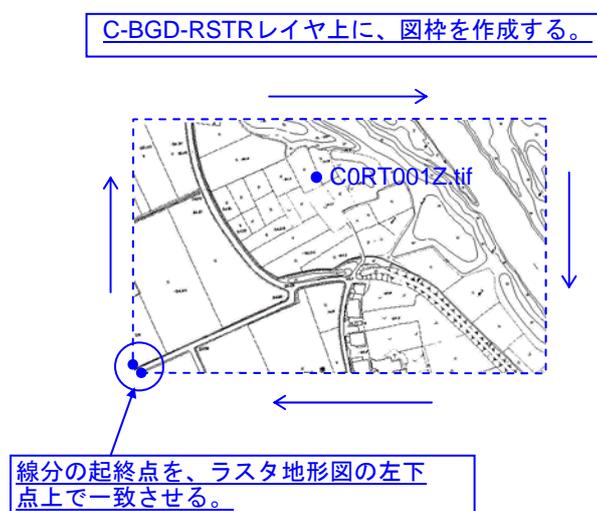


図 3 図枠作成およびファイル名コードの配置

また、発注図の平面図（ラスタ形式の地形図）が複数に分割されている場合は、CAD ソフトの機能によらず、図面毎に図枠を作成してファイル名コードを配置する（図 4 参照）。ただし、複数のラスタ形式の地形図を編集・合成して一つのデータに統合した場合には、統合したファイルの図枠、ファイル名コードのみを配置する（図 5 参照）。

なお、ラスタ形式の地形図をベクタ形式にあえて変換して利用する必要はなく、作業上の都合により変換して利用する場合においては、線分を極力結合させ、ショートベクタの発生によるファイル容量の増大化を防ぐものとする。

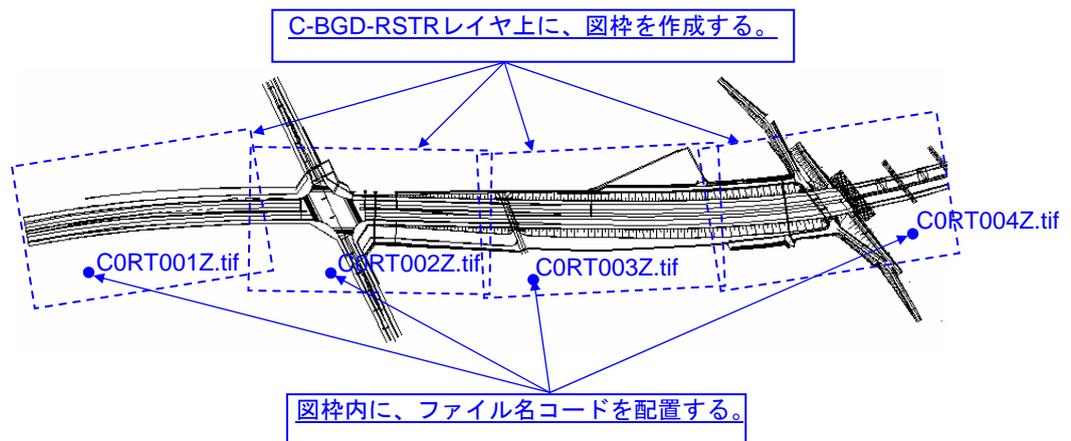


図 4 図枠作成およびファイル名コードの配置（地形図が複数に分割されている場合）

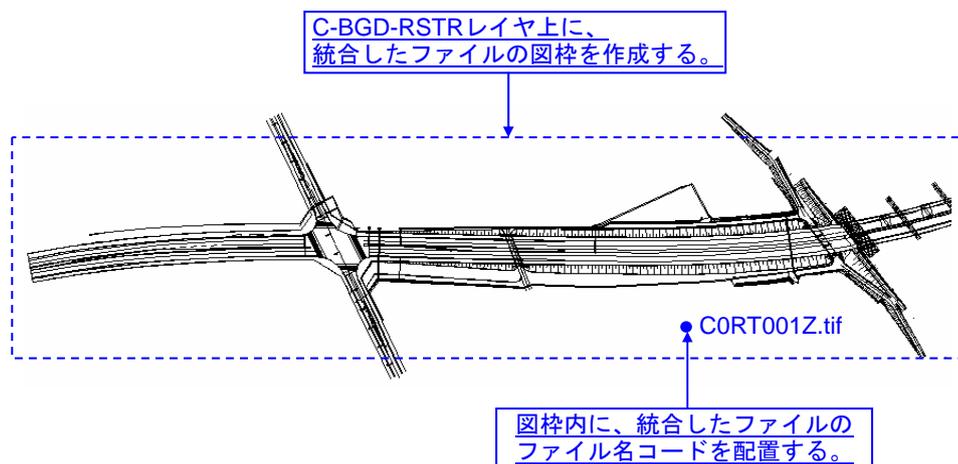


図 5 図枠作成およびファイル名コードの配置（複数の地形図を 1 データに統合した場合）

3. ファイル命名規則

SXF Ver.2.0 により作成する完成平面図のファイル名は、以下の規則に従うものとする。

- ・ [距離標・測点属性データ\(拡張子 .csv\)](#)は、1つの図形SXFデータ(拡張子 .p21)につき1ファイルのみ使用できる。
- ・ 距離標・測点属性データのファイル名は、「[\(図形ファイル名\).csv](#)」とし、図形ファイルと同一とする（拡張子のみ異なる）(表3参照)。
- ・ ラスタ地形図のファイル名は、「[\(図形ファイル名\).tif](#)」とする。ただし、1つの図形ファイルに対して、複数のラスタ形式の地形図が存在する場合には、図面番号が図形ファイルと異なってもよい(表3参照)。

表 3 SXF Ver.2.0 のファイル命名規則

ファイル名					備考	
C	0	PL	001	Z	.p21	
				拡張子： 図形 SXF データ : .p21 距離標・測点属性データ : .csv ラスタ地形図 TIFF データ : .tif	. 拡張子	
				改定履歴： ※完成平面図は最終形を表す“Z”とする。	0~9, A~Z	
				図面番号： ※図形SXFデータ（拡張子 .p21）と対応する 距離標・測点属性データ(拡張子 .csv) は、同一の図面番号を用いるものとする。 ラスタ地形図についてはこの限りではない。	001~999	
				図面種類： 図形 SXF データ : PL 距離標・測点属性データ : PL ラスタ地形図 TIFF データ : RT		
				整理番号 : 0~9 ※CAD 製図基準に従い、必要に応じ利用する。	0~9	
				ライフサイクル : どの段階で作成したデータかを表す。 ここでは施工段階である“C”を採用。	S : 測量, D : 設計 C : 施工, M : 維持管理	

4. 格納フォルダ

完成平面図データ（図形SXFデータ（拡張子 .p21）、[距離標・測点属性データ（拡張子 .csv）](#)）の2種類およびラスタ地形図TIFFデータ（拡張子 .tif）は「工事完成図書電子納品要領（案）」に従いDRAWINGF（完成図フォルダ）に格納する。

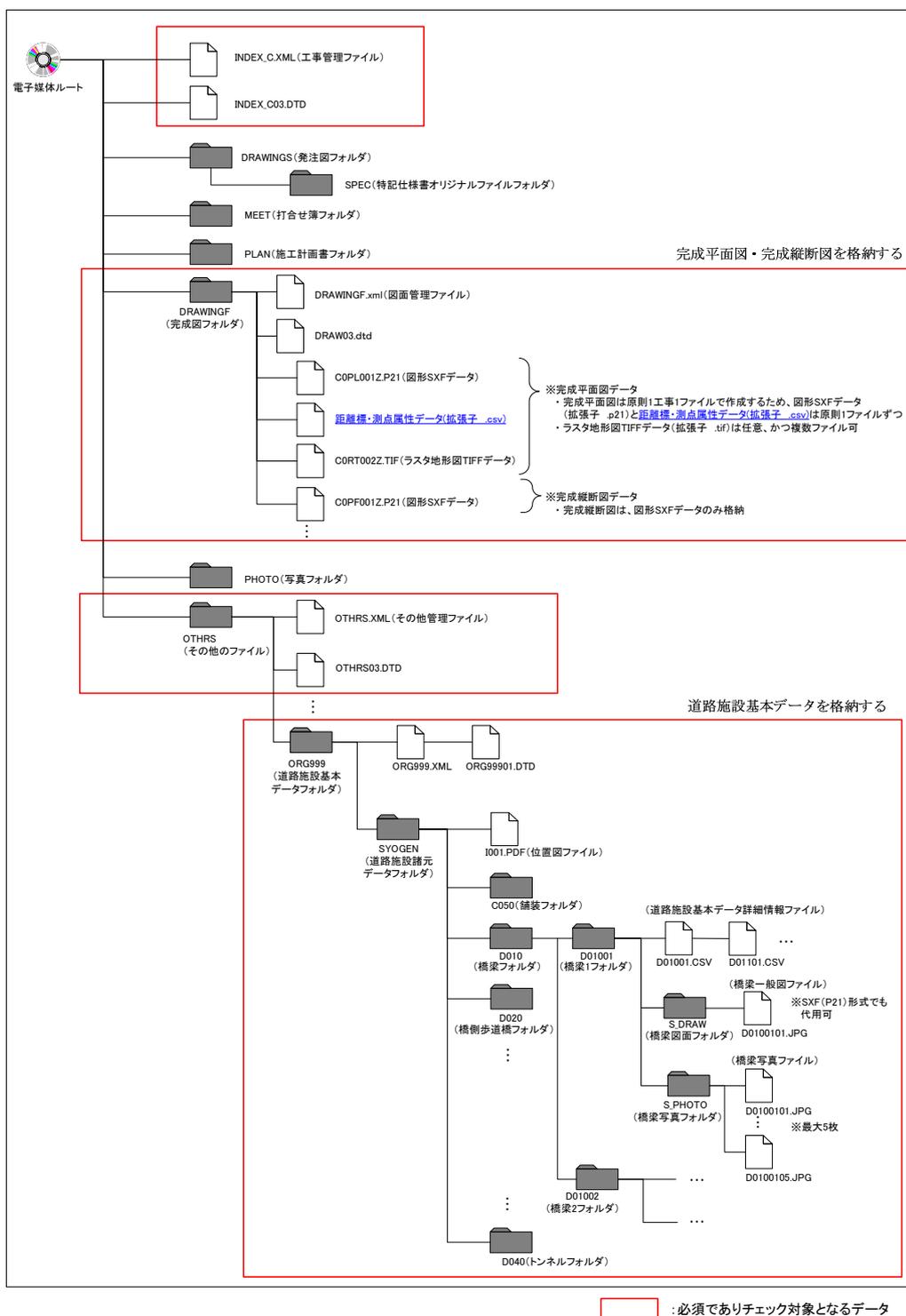


図 6 SXF Ver.2.0 のファイル構成（イメージ）

3. 道路施設基本データ詳細情報・管理ファイル作成方法

1. データ作成における共通記入事項

道路施設基本データ詳細情報の作成に際して、入力内容が共通な項目について以下に示す。

(1) 整理番号 1, 2, 3 及び補助番号

「整理番号 1」「整理番号 2」「整理番号 3」「補助番号」の 4 項目については、施設の新設、改良または撤去により次のとおり作成する。

なお、「E020 道路照明」「E170 消雪パイプ」「E180 ロードヒーティング」内の項目「関連施設整理番号」についても同様に作成する。

施設の新設の場合

この場合は、「整理番号 1」「整理番号 2」「整理番号 3」「補助番号」の 4 項目はブランクとする。

施設の改良または撤去の場合

この場合は、「整理番号 1」「整理番号 2」「整理番号 3」「補助番号」の 4 項目は、借用した既存データのままとする。

ただし、詳細情報名のデータを新規に作成する場合、例えば、橋梁の補修工事により

「D01D 橋梁点検補修」の情報を新規に作成する場合には、「整理番号 1」～「補助番号」は、ブランクとする。

(2) 名称

施設により、以下のとおり記入する。

- 固有名詞を持つ施設（橋梁、トンネル等）の場合、その名称を入力する。
- 固有名詞を持たない施設（縦断勾配、平面線形、擁壁、防護柵等）の場合、地先名を入力する。（地先名：所在地、市区町村名等）
- 固有名詞を持たない施設、地先名を持たない施設の場合は、ブランクとする。

(3) 所在地

該当する区間の所在地（字番地まで）を入力する。

(4) 路線

路線には、一般国道の路線コードとして、路線名の数字部分の左側に「0」を充填した 4 桁のコードを入力する。（「国道 4 1 号」の場合 「0041」と記入する）

(5) 現旧区分

現旧区分は、表 1 に示す区分より、該当するコードを入力する。

表 1 現況区分コード

区 分	コード
現 道	1
旧 道	2
新 道	3

なお、現道、旧道、新道の区分については以下の考え方にもとづいて作成する。（図 1 参照）

- 旧道
旧道とは、バイパス等の建設に伴い建設前の道路が、他の道路として編成（編入）されずに存在する場合の元の道路をいう。
- 新道
新道とは、バイパス部分が現道に連結されないで部分的に供用されている区間をいう。
- 現道
現道とは、旧道及び新道以外の道路をいう。

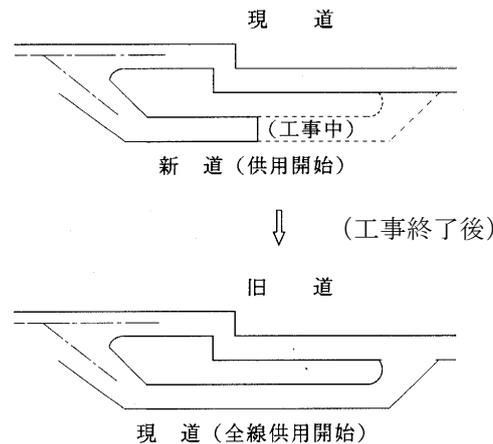


図 1 現道、旧道の考え方

(6) 距離標

1) 距離標の種類

施設の位置を示す距離標の入力方法には、次の 2 つの方法がある。

- 延長方向に長さを持たない施設の場合（道路標識、道路照明等）
このような施設に対する距離標の入力は 1 つであり、その設置場所の距離標を入力する。
- 延長方向に長さを持つ施設の場合
このような施設に対する距離標は、起点側「距離標（自）」と終点側「距離標（至）」について入力する。ただし、横断歩道橋や地下横断歩道等のように管理道路を斜めに横断している場合には、「距離標（自）」と「距離標（至）」に道路中心線上の距離を同値として入力する。

距離標（自）：起点側の距離標を入力する。

距離標（至）：終点側の距離標を入力する。

(注) 実際の距離標が不明な場合は、工事担当課と協議の上、代替となる数値（測点等）を入力する。

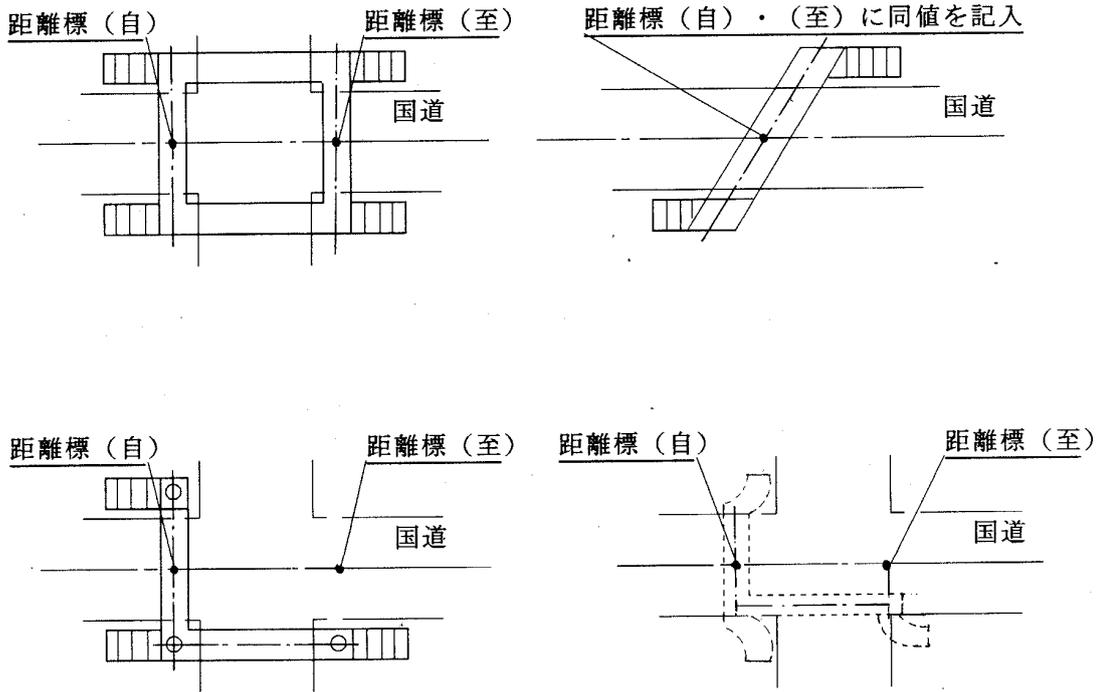


図 2 横断歩道橋、地下横断歩道等の距離標（例）

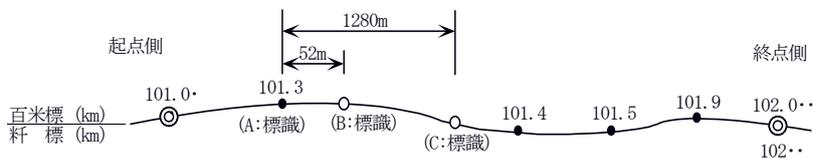
2) 距離標の入力方法

距離標は以下のように入力する。（入力例参照）

- ・ 距離標（百米標） : 整数 3 桁、少数点以下 1 桁
- ・ 距離標（距離） : 整数 4 桁（単位はm）

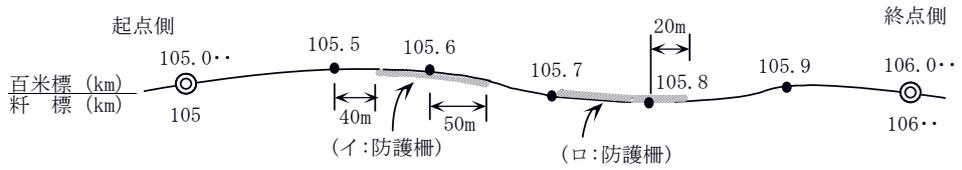
（入力例）

（例 1）延長方向に長さを持たない施設（道路標識等）の場合



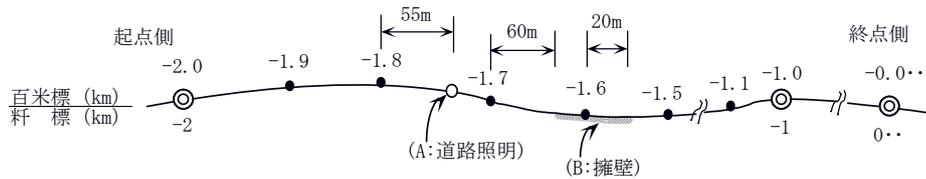
	百米標	+	百米標からの距離		百米標	距離
A : 標識	101.3	+	0(m)	の場合 →	101.3	0
B : 標識	101.3	+	52(m)	の場合 →	101.3	52
C : 標識	101.3	+	1280(m)	の場合 →	101.3	1280

(例 2) 延長方向に長さを持つ施設（防護柵、擁壁等）の場合



イ：防護柵	105.5 + 40(m) ~ 105.6 + 50(m)	→	百米標 (自)	距離 (自)	百米標 (至)	距離 (至)
			105.5	40	105.6	50
ロ：防護柵	105.7 + 0(m) ~ 105.8 + 20(m)	→	105.7	0	105.8	20

(例 3) マイナス (-) の距離標間に施設がある場合



A：道路照明	-1.8 + 55(m)	→	百米標	距離
			-1.8	55

B：擁壁	-1.7 + 60(m) ~ -1.6 + 20(m)	→	百米標 (自)	距離 (自)	百米標 (至)	距離 (至)
			-1.7	60	-1.6	20

区分	施設番号	施設名	詳細情報番号	詳細情報名	分類		
					親	子	孫
構造物	D010	橋梁	D010	橋梁基本	○		
			D011	橋梁幅員構成		○	
			D012	橋梁高欄防護柵		○	
			D013	橋梁交差状況		○	
			D014	橋梁添架物		○	
			D015	橋梁上部工		○	
			D016	橋梁下部工		○	
			D017	橋梁径間			○
			D019	橋梁塗装歴		○	
			D01A	橋梁補修歴		○	
			D01D	橋梁点検補修		○	
	D020	橋側歩道橋	D020	橋側歩道橋基本	○		
			D021	橋側歩道橋幅員構成		○	
			D022	橋側歩道橋高欄防護柵		○	
			D024	橋側歩道橋添架物		○	
			D025	橋側歩道橋上部工		○	
			D026	橋側歩道橋下部工		○	
			D027	橋側歩道橋径間			○
			D029	橋側歩道橋塗装歴		○	
			D02A	橋側歩道橋補修歴		○	
	D030	横断歩道橋	D030	横断歩道橋基本	○		
			D032	横断歩道橋塗装歴		○	
	D040	トンネル	D040	トンネル基本	○		
	D050	洞門	D050	洞門基本	○		
	D060	スノーシェッド	D060	スノーシェッド基本	○		
	D070	地下横断歩道	D070	地下横断歩道基本	○		
	D080	道路BOX	D080	道路BOX基本	○		
	D090	横断BOX	D090	横断BOX基本	○		
	D100	パイプカルバート	D100	パイプカルバート基本	○		
	D120	擁壁	D120	擁壁基本	○		
付属物 及び 付帯施設	E010	防護柵	E010	防護柵基本	○		
	E020	道路照明	E020	照明基本	○		
	E030	反射式視線誘導標	E030	反射式視線誘導	○		
	E040	自光式視線誘導標	E040	自光式視線誘導基本	○		

区分	施設番号	施設名	詳細情報番号	詳細情報名	分類		
					親	子	孫
付属物 及び 付帯施設	E050	道路標識	E050	標識基本	○		
			E051	標識各板諸元		○	
	E060	道路情報板	E060	情報板基本	○		
	E070	交通遮断機	E070	交通遮断機基本	○		
	E080	I T V	E080	I T V 基本	○		
	E090	車両感知器	E090	車両感知器基本	○		
	E100	車両諸元計測施設	E100	車両計測基本	○		
	E110	気象観測施設	E110	気象観測基本	○		
	E120	災害予知装置	E120	災害予知装置基本	○		
	E130	自動車駐車場	E130	自動車駐車場基本	○		
	E140	自転車駐車場	E140	自転車駐車場基本	○		
	E150	雪崩防止施設	E150	雪崩防止基本	○		
	E160	落石防止施設	E160	落石防止基本	○		
	E170	消雪パイプ	E170	消雪パイプ基本	○		
	E180	ロードヒーティング	E180	ロードヒーティング基本	○		
	E190	除雪ステーション	E190	除雪 S T 基本	○		
	E210	共同溝	E210	共同溝基本	○		
			E211	共同溝占用物		○	
	E220	C A B 電線共同溝	E220	C A B 電線共同溝基本	○		
			E221	C A B 電線共同溝占用物		○	
	E230	植栽	E230	植栽基本	○		
			E231	植栽樹木種別		○	
	E240	遮音施設	E240	遮音施設基本	○		
	E250	遮光フェンス	E250	遮光フェンス基本	○		
	E270	流雪溝	E270	流雪溝	○		
	E330	光ケーブル	E330	光ケーブル基本	○		
			E334	光ケーブル端局	○		
	E350	ビーコン	E350	ビーコン基本	○		

3 . 詳細情報の作成に際しての留意事項

道路施設基本データ詳細情報の作成に際しては、データの作成単位及び以下に示す留意事項を確認の上、作成する。

3-1 工事区分によるデータ作成内容

道路施設基本データの作成では、工事の内容により工事区分を、「新設」「改良」「撤去」に分類しており、各工事区分により、次のとおりデータを作成する。

(1) 新設の場合

道路施設を新規に設置した場合である。この場合、工事で構築した全ての施設の詳細情報名のデータを作成する。

道路標識を 1 基新設した場合

「E050 標識基本」を 1 データ作成 (1 ファイル)

「E051 標識各板諸元」を標識板の枚数分のデータを作成 (1 ファイルに板の枚数分)

道路照明を 3 基新設した場合

「E020 照明基本」を 3 データ作成 (3 ファイル)

(2) 改良の場合

既存の道路施設に対して修繕工事等を行った場合である。この場合、当該道路施設の既存データの内、工事により変更された詳細情報名のデータのみを変更する。また、補修歴情報等も作成対象となっている場合は、これらも併せて作成する。

なお、既存データは発注者から借用するものとし、データの納品にあたっては、変更の有無に係わらず借用した全ての詳細情報名のデータを納品する。

舗装をアスファルト舗装から排水性舗装に打ち換えを行った場合

「C050 舗装」の既存データに対して、舗装種別Cを「1：アスファルト舗装」から「6：排水性舗装」へ変更する。その他のデータも内容を確認の上、必要に応じて変更する。

なお、既存舗装の 1 部分のみを打ち換えた場合には、既存の舗装部分と打ち換えた舗装の 2 データを作成することになる。(2 ファイル)

橋梁の補修を行った場合

橋梁については、「D019 橋梁塗装歴」「D01A 橋梁補修歴」「D01D 橋梁点検補修」「D029 橋側歩道橋塗装歴」「D02A 橋側歩道橋補修歴」「D02D 橋側歩道橋点検補修」の詳細情報名が作成対象であるため、該当する詳細情報名のデータも作成する。

(3) 撤去の場合

既存の道路施設を工事により撤去した場合である。この場合、当該施設の既存データを借用し、何も変更せずに借用した全ての詳細情報名のデータを納品する。

3-2 各項目の文字数に関する事項

各項目の文字数欄には、当該項目のデータの文字数制限（半角）を表示している。基本的に、入力文字は半角英数字とする。ただし、定義欄に「日本語」の記述がある項目について

は全ての文字を全角で入力することとする。例えば、橋梁の名称は、「10 文字以内の日本語」となっており、10 文字以内の全角文字（英数字も含め）で入力する。なお、文字数欄の「全体」、「小数」は次のとおりである。

全体

当該項目のデータ全体の半角文字数を示す。なお、当該項目が小数を含む場合は、小数点を除いた文字数を表示している。

例) 全体が 3、小数が 1 の場合は、「nn.n」を示す。(n は、任意の数字)

ただし、百米標の場合は全体が 4、小数が 1 としているが、マイナス（-）の場合は、「-nnn.n」とする。

小数

当該項目が小数を持つ数値の場合の、小数点以下の桁数を表示している。

4 . 詳細情報のフォーマット

4-1 道路構造

(1) C020 縦断勾配

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する縦断勾配を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
区間長	該当する線形の区間延長を、小数点以下3位まで記入。	数値	7	3	m
符号C	縦断勾配について、該当するコードを記入。	文字	1		コード
勾配	該当する区間の縦断勾配を、小数点以下1位まで記入。	数値	3	1	%
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
市区町村至C	該当する区間の終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(2) C030 平面線形

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する平面線形を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
線形区分C	線形区分について、該当するコードを記入。	文字	1		コード
区間長	該当する線形の区間延長を、小数点以下3位まで記入。	数値	7	3	m
始点側クロソイド	該当する区間にクロソイド曲線が含まれる場合、始点側のクロソイド曲線のパラメータを小数点以下1位まで記入。	数値	6	1	m
曲線半径	該当する区間に単曲線が含まれる場合、曲線半径（R）を小数点以下1位まで記入。	数値	6	1	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
終点側クロソイド	該当する区間にクロソイド曲線が含まれる場合、終点側のクロソイド曲線のパラメータを小数点以下1位まで記入。	数値	6	1	m
曲り区分C	起点側から終点側に向かって見た場合の曲り方向について該当するコードを記入。	文字	1		コード
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
市区町村至C	該当する区間の終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(3) C050 舗装

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する舗装を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
舗装区分C	舗装施工区分を表す。	文字	2		コード
舗装種別C	舗装種別を表す。	文字	1		コード
延長	該当区間（データの作成範囲）の舗装延長（該当する舗装区分の中心線上ののべ延長）（小数点以下1位）	文字	7	1	m
車道延長	車道部分の舗装延長（小数点以下1位）	文字	6	1	m
車道面積	車道部分の舗装面積	文字	5	0	m ²
歩道延長	歩道部分の舗装延長（小数点以下1位）	文字	6	1	m
歩道面積	歩道部分の舗装面積	文字	5	0	m ²
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(4) C060 道路交差点

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する道路交差点を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
交差方式C	交差方式を表す。	文字	1		コード
交差区分C	交差区分を表す。	文字	2		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(5) C070 鉄道交差点

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する鉄道交差点を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
名称	該当する鉄道交差点の名称（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
所在地	該当する区間の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
交差方式C	鉄道交差点の交差方式を表す。	文字	1		コード
単複線区分C	鉄道交差点と交差している鉄道線の単複線区分を表す。	文字	1		コード
延長	鉄道交差点の起点から終点までの実延長（小数点以下1位） 踏切遮断機等の踏切施設がある場合、当該施設の外側0.5mの線間をいう。踏切施設がない場合、最外側軌条の内側より2.5m外側の線間をいう。	文字	3	1	m
幅員	踏切における道路幅員（小数点以下1位）	文字	3	1	m
歩道等施設有無C	歩道等施設の有無を表す。	文字	1		コード
歩道等施設区分C	歩道等施設の区分を表す。	文字	1		コード
起点側対道路幅員 差符号C	踏切から見て取付道路（道路部）に対する起点側の幅員差の符号区分を表す。	文字	1		コード
起点側対道路幅員 差	踏切から見て取付道路（道路部）に対する起点側の道路幅員差（小数点以下1位）	文字	3	1	m
終点側対道路幅員 差符号C	踏切から見て取付道路（道路部）に対する終点側の幅員差の符号区分を表す。	文字	1		コード
終点側対道路幅員 差	踏切から見て取付道路（道路部）に対する終点側の道路幅員差（小数点以下1位）	文字	3	1	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
交差角度	鉄道交差点の中心線と最縁端軌道の中心線の交点（A）から外方道路の中心線上 30m の地点と（A）点を結ぶ線と最縁端軌道の中心線との交角（直角に交差する場合は「90」を記入し、それ以外の場合には最鋭角を記入する。また、交差角度が起点側、終点側で異なる場合は狭い方の角度を記入する。なお、路線の起終点が袋小路により 30m 未満の場合は、路線の起終点からの交差角度を記入する。）	文字	2	0	度
起点側道路勾配符号C	起点側の道路勾配の符号を表す。（鉄道交差点に向かって上り勾配を+（プラス）、下り勾配を-（マイナス）とする。）	文字	1		コード
起点側道路勾配	鉄道交差点端から道路の中心線上 30m の地点で計った起点側の道路勾配（%単位）	文字	2	0	%
終点側道路勾配符号C	終点側の道路勾配の符号を表す。（鉄道交差点に向かって上り勾配を+（プラス）、下り勾配を-（マイナス）とする。）	文字	1		コード
終点側道路勾配	鉄道交差点端から道路の中心線上 30m の地点で計った終点側の道路勾配（%単位）	文字	2	0	%
路面区分C	鉄道交差点内の路面状況を表す。	文字	1		
起点左側見通し距離C	踏切からの列車の見通し距離（起点側及び左側） 注）見通し距離とは、鉄道交差点における最縁端軌道の中心線と道路の中心線との交点から軌道の外方道路の中心線上 5m の地点における 1.2メートルの高さにおいて、見通すことができる軌道の中心線上当該交点までの長さ。	文字	1		コード
起点右側見通し距離C	踏切からの列車の見通し距離（起点側及び右側） 注）見通し距離とは、鉄道交差点における最縁端軌道の中心線と道路の中心線との交点から軌道の外方道路の中心線上 5m の地点における 1.2メートルの高さにおいて、見通すことができる軌道の中心線上当該交点までの長さ。	文字	1		コード
終点左側見通し距離C	踏切からの列車の見通し距離（終点側及び左側） 注）見通し距離とは、鉄道交差点における最縁端軌道の中心線と道路の中心線との交点から軌道の外方道路の中心線上 5m の地点における 1.2メートルの高さにおいて、見通すことができる軌道の中心線上当該交点までの長さ。	文字	1		コード
終点右側見通し距離C	踏切からの列車の見通し距離（終点側及び右側） 注）見通し距離とは、鉄道交差点における最縁端軌道の中心線と道路の中心線との交点から軌道の外方道路の中心線上 5m の地点における 1.2メートルの高さにおいて、見通すことができる軌道の中心線上当該交点までの長さ。	文字	1		コード
起点側道路交差点距離	鉄道交差点の起終点から 50メートル以内にある道路交差点(立体交差を除く)を対象として、鉄道交差点の起点から道路交差点の中心までの距離	文字	2	0	m
終点側道路交差点距離	鉄道交差点の起終点から 50メートル以内にある道路交差点(立体交差を除く)を対象として、鉄道交差点の終点から道路交差点の中心までの距離	文字	2	0	m
踏切道種別C	踏切道区分を表す。（第一種踏切道とは、踏切警手を常時配置するかまた自動踏切遮断機を設置しているものをいい、第二	文字	1		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
	種踏切道とは、一定時間を限り踏切警手を設置しているものをいう。また、第三種踏切道とは、踏切警報機を設置しているものをいい、第四種踏切道とは、第一種から第三種に該当しないものをいう。				
遮断時間	列車の通行により、道路交通が遮断される 1 日に生ずる延べ時間	文字	4	0	分
最小桁下高	立体交差の最小桁下高(小数点以下 2 位)	文字	4	2	m
鉄道上下別 C	立体交差している鉄道が道路に対し、上・下どちらに位置するかを表す。	文字	1		コード
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(6) C071 鉄道交差点鉄道事業者

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する道路交差点を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
鉄道事業者名 C	該当する鉄道事業者名をコードで記入	文字	3		コード
鉄道線名 C	該当する鉄道線名をコードで記入	文字	6		コード

(7) C080 歩道及び自転車歩行車道

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分 C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号 1	該当する歩道及び自転車歩行車道を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
市区町村 C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
検査数字	該当する区間の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
沿道状況区分 C	沿道状況について、該当するコードを記入	文字	1		コード
歩道等種別 C	歩道等種別について、該当するコードを記入	文字	1		コード
形式 C	歩道の形式について、該当するコードを記入	文字	2		コード
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
設置区分C	設置区分について、該当するコードを記入	文字	2		コード
歩道等延長	路線の実延長区間における歩道等設置区間について、歩道等部分の中心線上の延長を、左右合計したのべ延長で記入	文字	7	0	m
雪寒地域歩道延長	該当する区間が雪寒地域内の場合、その歩道延長（のべ延長）を記入	文字	7	0	m
積雪地域歩道延長	該当する区間が積雪地域内の場合、その歩道延長（のべ延長）を記入	文字	7	0	m
総幅員	該当する区間の植樹帯等を含んだ総幅員（平均値）を、小数点以下2位まで記入	文字	4	2	m
有効幅員	該当する区間の平均有効幅員を、小数点以下2位まで記入	文字	4	2	m
幅員4M以上延長	有効幅員が4m以上の実延長	文字	5	0	m
幅員3M以上延長	有効幅員が3m以上4m未満の実延長	文字	5	0	m
幅員2M以上延長	有効幅員が2m以上3m未満の実延長	文字	5	0	m
幅員1M50以上延長	有効幅員が1.5m以上2m未満の実延長		5	0	m
幅員1M以上延長	有効幅員が1m以上2m未満の実延長	文字	5	0	m
幅員1M未満延長	有効幅員が1m未満の実延長	文字	5	0	m
列状	該当する区間における実延長区間内の植樹施設設置区間の列状について、歩道等部分の中心線上の延長（のべ延長）を記入	文字	5	0	m
帯状	該当する区間における実延長区間内の植樹施設設置区間の帯状について、歩道等部分の中心線上の延長（のべ延長）を記入	文字	5	0	m
交差点部切下げ箇所数	該当する区間における交差点部分の歩道等切り下げ箇所数（のべ箇所数）を記入	文字	3	0	
その他切下げ箇所数	上記以外の切り下げ箇所数（のべ箇所数）を記入	文字	3	0	
点字ブロック枚数	該当する区間における点字ブロックの設置枚数（のべ枚数）を記入	文字	5	0	
点字ブロック箇所数	該当する区間における点字ブロックの設置箇所数（のべ箇所数）を記入	文字	3	0	
点字ブロックのべ延長	該当する区間における点字ブロックの設置延長（のべ延長）を記入	文字	6	0	m
屋根箇所数	該当する区間における屋根の設置箇所数（のべ箇所数）を記入	文字	3	0	
屋根延長	該当する区間における屋根が設置されている延長（のべ延長）を記入	文字	5	0	m
屋根占用別C	屋根の占用別について、該当するコードを記入	文字	1		コード
舗装済延長	歩道及び自転車歩行者道の舗装されている区間の延長	文字	5	0	m
未舗装延長	歩道及び自転車歩行者道の舗装がされていない区間の延長	文字	5	0	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
カラー舗装有無C	該当する区間のカラー舗装の有無について、該当するコードを記入	文字	1		コード

(8) C090 独立専用自歩道

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する立専用自歩道を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
検査数字	該当する区間の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
自歩道専用区分C	自歩道専用区分を表す。	文字	1		コード
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
道路種別C	道路種別区分を表す。	文字	1		コード
総延長	該当する区間の起点から終点までの道路中心線上を測定した延長（重用延長、未供用延長および実延長を加えた延長）	文字	5	0	m
重用延長	道路法第11条第1項から第3項までの規定による、上級の路線に重複している区間の延長。同一の道路種別の重用延長については、同条を準用し、路線コードの若い番号の路線に重用している区間の延長。また、道路交差点内においても、同様の扱い。	文字	5	0	m
未供用延長	路線の指定および認定の告示がされているが、未だ供用開始の告示がされていない区間の延長	文字	5	0	m
実延長	道路法の規定に基づき供用開始の告示がなされている区間のうち、重用区間を除いた区間の延長	文字	5	0	m
重用自歩道設置延長	重用区間において、部分歩道として供用開始されている区間の延長	文字	5	0	m
幅員4M以上延長	有効幅員が4m以上の実延長	文字	5	0	m
幅員3M以上延長	有効幅員が3m以上4m未満の実延長	文字	5	0	m
幅員2M以上延長	有効幅員が2m以上3m未満の実延長	文字	5	0	m
幅員1M以上延長	有効幅員が1m以上2m未満の実延長	文字	5	0	m
幅員1M未満延長	有効幅員が1m未満の実延長	文字	5	0	m
未舗装道延長	路面が未舗装道の実延長	文字	5	0	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
コンクリート道延長	路面がコンクリート道の実延長	文字	5	0	m
アスファルト道延長	路面がアスファルト道の実延長	文字	5	0	m
平板ブロック道延長	路面が平板ブロック道の実延長	文字	5	0	m
その他舗装道延長	路面がその他舗装道の実延長	文字	5	0	m
道路部延長	該当する区間が道路部分の実延長	文字	5	0	m
橋梁部延長	該当する区間が橋梁部分の実延長	文字	5	0	m
トンネル部延長	該当する区間がトンネル部分の実延長	文字	5	0	m
道路敷部面積	該当する区間が道路敷部の実延長区間における道路面積	文字	6	0	m ²
有効幅員部面積	該当する区間が有効幅員部の実延長区間における道路面積	文字	6	0	m ²
国有地面積	該当する区間が国有地の実延長区間における道路面積	文字	6	0	m ²
地方公共団体部面積	該当する区間が地方公共団体部の実延長区間における道路面積	文字	6	0	m ²
立体交差箇所 J R	該当する区間の実延長区間における J R との立体交差箇所数	文字	1	0	
立体交差箇所民鉄	該当する区間の実延長区間における民鉄との立体交差箇所数	文字	1	0	
立体交差箇所専用鉄道	該当する区間の実延長区間における専用鉄道との立体交差箇所数	文字	1	0	
平面交差箇所 J R	該当する区間の実延長区間における J R との平面交差箇所数	文字	1	0	
平面交差箇所民鉄	該当する区間の実延長区間における民鉄との平面交差箇所数	文字	1	0	
平面交差箇所専用鉄道	該当する区間の実延長区間における専用鉄道との平面交差箇所数	文字	1	0	
自地域内橋梁箇所数	該当する区間が自地域内の実延長区間における橋梁箇所数	文字	1	0	
市区町村界橋梁箇所数	該当する区間が市区町村界の実延長区間における橋梁箇所数	文字	1	0	
都道府県界橋梁箇所数	該当する区間が都道府県界の実延長区間における橋梁箇所数	文字	1	0	
自地域内トンネル箇所数	該当する区間が自地域内の実延長区間におけるトンネル箇所数	文字	1	0	
市区町村界トンネル箇所数	該当する区間が市区町村界の実延長区間におけるトンネル箇所数	文字	1	0	
都道府県界トンネル箇所数	該当する区間が都道府県界の実延長区間におけるトンネル箇所数	文字	1	0	

(9) C100 中央帯

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する中央帯を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
型式C	中央帯の型式を表す。	文字	2		コード
中央帯延長	中央帯の延長（少数点以下1位）	文字	7	1	m
Aタイプ植栽組合せ延長	中央分離帯に植栽が設置されている場合の組合せについて、Aタイプ（街路樹+灌木+張芝）植栽に最も近い各植栽帯ののべ延長	文字	6	0	m
Bタイプ植栽組合せ延長	中央分離帯に植栽が設置されている場合の組合せについて、Bタイプ（灌木+張芝）植栽に最も近い各植栽帯ののべ延長	文字	6	0	m
Cタイプ植栽組合せ延長	中央分離帯に植栽が設置されている場合の組合せについて、Cタイプ（張芝のみ）植栽に最も近い各植栽帯ののべ延長	文字	6	0	m
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(10) C110 環境施設帯

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する環境施設帯を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
環境施設帯延長	該当する区間の環境施設帯延長（のべ延長）（少数点以下1位）	文字	7	1	m
設置道路延長	該当する区間において環境施設帯が設置されている道路延長（少数点以下1位）	文字	7	1	m
施設帯面積	該当する区間の環境施設帯の面積（のべ面積）	文字	8	0	m ²

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

4-2 構造物

(1) D010 橋梁基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
橋梁コード	該当する区間の橋梁コード。整理番号1で記入した頭4桁の橋梁コードを記入。	文字	4		
分割区分C	該当する橋梁の分割区分を表す。	文字	1		コード
施設改修年度	施設を改修した年度。(年は西暦)	文字	4	0	
名称	橋梁名称を表す。(10文字以内の日本語(漢字、ひらがな、カタカナ、英数字))	文字	20		
橋梁種別C	橋梁種別を表す。	文字	1		コード
橋梁区分C	橋梁区分を表す。	文字	1		コード
架設竣工年	架設竣工年。(年は西暦)	文字	4	0	
等級C	橋梁の等級を表す。	文字	1		コード
適用示方書C	設計または施工に用いた代表的な適用示方書を表す。 *旧橋を撤去せず部分的に架替等を行った場合の記入は、当初架設時のものを記入する。	文字	3		コード
総径間数	対象となる橋梁を構成している径間数。	文字	3	0	
事業区分C	事業区分を表す。	文字	1		コード
百米標自	該当する区間の距離標(百米標)を表す。	数値	4		1 km
距離自	該当する区間の距離標(百米標)からの距離を表す。	数値	4		0 m
百米標至	該当する区間の距離標(百米標)を表す。	数値	4		1 km
距離至	該当する区間の距離標(百米標)からの距離を表す。	数値	4		0 m
橋長	橋台間のパラペット前面の距離(小数点以下2位)高架橋については、市区町村界を考慮。	文字	6		2 m
橋面積	橋面積(地覆の内側間(道路部)×橋長)(小数点以下1位)	文字	6		1 m ²
平面形状C	1橋全体としての平面形状を表す。	文字	1		コード
落下物防止柵高さ	落下物防止柵の高さの最大値(小数点以下2位)	文字	3		2 m
落下物防止柵延長	落下物防止柵の延長(小数点以下2位)	文字	5		2 m
遮音壁有無C	遮音壁の有無を表す。	文字	1		コード
遮光壁有無C	遮光壁の有無を表す。	文字	1		コード
踏掛版有無C	踏掛版の設置の有無を表す。	文字	1		コード
点検施設C	橋梁の点検施設を表す。	文字	1		コード
排水施設C	代表的な排水施設の型式を表す。	文字	1		コード
設計活荷重C	設計活荷重を表す。	文字	2		コード
通行制限C	通行制限を表す。	文字	1		コード
上部工分離橋脚一体別C	上部工分離の場合の橋脚一体の別を表す。	文字	1		コード
起点側市区町村C	該当する橋梁区間の起点側の市区町村名。使用するコ	文字	5		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
	ードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」				
起点側検査数字	該当する橋梁区間の起点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
起点側所在地	該当する橋梁区間の起点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
終点側市区町村C	該当する橋梁区間の終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
終点側検査数字	該当する橋梁区間の終点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
終点側所在地	該当する橋梁区間の終点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
他域橋長	他域延長（小数点以下2位）（該当する橋梁が市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様に取扱う）に架設されている場合に限る。）	文字	6	2	m
起終点区分C	他域橋長において他域とされた地域が起点側市区町村C、終点側市区町村Cにおける所在地のどちらに位置しているか、他域橋長の存する地域について、該当するコードを記入する。	文字	1		コード
橋梁接続起点側市区町村C	（2以上の市区町村にわたって設けられている高架橋の場合に限る。）該当する高架橋以外の高架部分の起点側の市区町村名。使用するコードは、「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
橋梁接続起点側検査数字	該当する高架橋以外の高架部分の起点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
橋梁接続起点側橋梁種別C	橋梁接続の起点側の橋梁種別を表す。	文字	1		コード
橋梁接続起点側橋梁コード	橋梁接続の起点側の橋梁を表す。該当する橋梁の橋梁コード（整理番号1の頭4行）を記入する。	文字	4		
橋梁接続起点側分割番号	橋梁接続の起点側の橋梁分割番号を表す。	文字	1		
橋梁接続終点側市区町村C	（2以上の市区町村にわたって設けられている高架橋の場合に限る。）該当する高架橋以外の高架部分の終点側の市区町村名。使用するコードは、「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
橋梁接続終点側検査数字	該当する高架橋以外の高架部分の終点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
橋梁接続終点側橋梁種別C	橋梁接続の終点側の橋梁種別を表す。	文字	1		コード
橋梁接続終点側橋梁コード	橋梁接続の終点側の橋梁を表す。該当する橋梁の橋梁コード（整理番号1の頭4行）を記入する。	文字	4		
橋梁接続終点側分割番号	橋梁接続の終点側の橋梁分割番号を表す。	文字	1		

(2) D011 橋梁幅員構成

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
全幅員	全幅員を表す。（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
有効幅員	有効幅員を表す。（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
左側車線地覆幅	起点から見て左側車線の地覆幅（小数点以下 2 位）	文字	3	2	m
左側車線歩道幅	起点から見て左側車線の歩道幅（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
左側車線路肩幅	起点から見て左側車線の路肩幅（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
左側車線車道幅	起点から見て左側車線の車道幅（小数点以下 2 位）	文字	5	2	m
中央帯	中央帯の幅員（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
中央分離帯	中央分離帯の幅員（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
右側車線車道幅	起点から見て右側車線の車道幅（小数点以下 2 位）	文字	5	2	m
右側車線路肩幅	起点から見て右側車線の路肩幅（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
右側車線歩道幅	起点から見て右側車線の歩道幅（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
右側車線地覆幅	起点から見て右側車線の地覆幅（小数点以下 2 位）	文字	3	2	m

(3) D012 橋梁高欄防護柵

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
高欄防護柵設置場所 C	高欄、防護柵の設置場所	文字	1		コード
高欄防護柵材質材料 C	高欄の材質（材料）	文字	1		コード
防護柵設計種別 C	車両用防護柵の設計種別	文字	2		コード

(4) D013 橋梁交差状況

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
架橋状況 C	該当する橋梁の架橋状況	文字	1		コード
交差物名称	交差物件名称（10 文字以内）	文字	20		

(5) D014 橋梁添架物

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
添架物区分 C	添架物区分を表す。	文字	1		コード
添架物種別 C	添架物種別を表す。	文字	2		コード
添架物寸法	電力及び電話について、設置する条数と段数を表す。	文字	4		
添架物重量	添架物の単位長さ当たりの重量	文字	3		k g f / m
添架物管理者名	添架物の管理者名（10文字以内）	文字	20		
占用物件本数	添架物種別毎の物件数	文字	3		

(6) D015 橋梁上部工

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
構造体番号	上部工の構造体毎の番号	文字	3		
起点側伸縮装置形式 C	該当する構造体における起点側の伸縮装置の構造形式	文字	2		コード
終点側伸縮装置形式 C	該当する構造体における終点側の伸縮装置の構造形式	文字	2		コード
材料区分 C	主構造の材料	文字	1		コード
桁形式区分 C	主桁構造の桁形式	文字	1		コード
構造形式 C	構造体の形式（材料区分コード+構造形式コードの3桁）	文字	3		コード
路面位置 C	路面位置を表す。	文字	1		コード
主桁主構本数	主桁本数を表す。	文字	3	0	
主桁主構高さ	主桁または主構高さの最大値（小数点以下2位）	文字	4	2	m
主桁主構間隔	主桁または主構間隔の最大値（小数点以下2位）	文字	4	2	m
床版材料 C	床版材料を表す。	文字	1		コード
床版厚さ	床版の最小の厚さ（小数点以下1位）	文字	3	1	c m
架設年月日	上部工の架設年月日（年は西暦）	文字	8	0	
鋼上部工表面処理 C	鋼上部工の耐候性鋼材の表面処理	文字	1		コード
塗装年月日	該当する構造体の新設時の塗装年月日（年は西暦）	文字	8	0	
プライマー下塗塗料 C	構造体の新設時でのプライマー及び下塗り塗料	文字	2		コード
中塗塗料 C	構造体の新設時での中塗り塗料	文字	2		コード
上塗塗料 C	構造体の新設時での上塗り塗料	文字	2		コード
塗装方法 C	塗装方法を表す。	文字	1		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
工場塗装面積	該当する構造体の工場塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
本体塗装面積	該当する構造体の本体塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
高欄塗装面積	該当する構造体の高欄塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		
塗装会社	塗装会社名（10文字以内）	文字	20		
主桁コンクリート強度	主桁のコンクリート強度（σck）	文字	3	0	kgf/cm ²
床版コンクリート強度	床版のコンクリート強度	文字	3	0	kgf/cm ²

(7) D016 橋梁下部工

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
躯体番号	下部工の躯体毎の番号	文字	3		
橋台橋脚構造形式C	該当する下部工橋脚の構造形式	文字	2		コード
橋台橋脚高さ	橋台の場合、フーチング下面からパラペット天端までの高さ（小数点以下2位）（基礎がケーソンの場合はケーソン天端から） 橋脚の場合、フーチング下面から沓座面までの高さ（小数点以下2位）（基礎がケーソンの場合はケーソン天端から）	文字	5	2	m
基礎形式C	基礎形式を表す。	文字	1		コード
塗装年月日	該当する下部工躯体の新設時の塗装年月日（年は西暦）	文字	8	0	
プライマー下塗塗料C	下部工躯体の新設時のプライマー及び下塗り塗料	文字	2		
中塗塗料C	下部工躯体の新設時の中塗り塗料	文字	2		コード
上塗塗料C	下部工躯体の新設時の上塗り塗料	文字	2		コード
塗装方法C	下部工躯体の新設時の塗装方法	文字	1		コード
工場塗装面積	下部工躯体の工場塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
本体塗装面積	下部工躯体の本体塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		
塗装会社	塗装会社名（10文字以内）	文字	20		
躯体コンクリート強度	下部工躯体のコンクリート強度（σck）	文字	3	0	kgf/cm ²

(8) D017 橋梁径間

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
構造体番号	該当する支間に対する上部工の構造体番号	文字	3		
径間番号	起点側から付した通し番号	文字	2		
径間分割番号	径間分割番号を表す。	文字	1		
支間番号	径間内で付した通し番号のうち該当する支間番号	文字	1		
支間長	上部工の支間長（径間長）（小数点以下 3 位）	文字	6	3	m
起点側支承種類 C	該当する支間の起点側支承構造（支承及び落橋防止構造の種類）	文字	2		コード
起点側落橋防止 1 C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
起点側落橋防止 2 C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
起点側落橋防止 3 C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
終点側支承種類 C	該当する支間の終点側支承構造（支承及び落橋防止構造の種類）	文字	2		コード
終点側落橋防止 1 C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
終点側落橋防止 2 C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
終点側落橋防止 3 C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
起点側躯体番号 1	該当する径間に対する下部工の起点側躯体番号	文字	3		
起点側躯体番号 2	該当する径間に対する下部工の起点側躯体番号	文字	3		
終点側躯体番号 1	該当する径間に対する下部工の終点側躯体番号	文字	3		
終点側躯体番号 2	該当する径間に対する下部工の終点側躯体番号	文字	3		

(9) D019 橋梁塗装歴

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
径間又は躯体番	上部工の場合、橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号。	文字	3		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
号	下部工の場合、躯体番号。				
上下部工区分C	上・下部工に関するデータの作成区分	文字	1		コード
塗装年月日	再塗装を行った年月日（年は西暦）	文字	8	0	
プライマー下塗塗料C	プライマー及び下塗り塗料を表す。	文字	2		コード
中塗塗料C	中塗り塗料を表す。	文字	2		コード
上塗塗料C	上塗り塗料を表す。	文字	2		コード
本体塗装面積	本体に対する再塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
高欄塗装面積	高欄に対する再塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		

(10) D01A 橋梁補修歴

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
径間又は躯体番号	上部工の場合、橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号。（伸縮装置等については、隣接する上部工の中で一番若い径間番号（起点側上部工）。落橋防止等については、上部工の径間番号。） 下部工の場合、躯体番号。	文字	4		
補修改良年月日	補修または改良を行った年月日（年は西暦）	文字	8	0	
補修改良区分C	補修または改良に関するデータの作成区分	文字	1		コード
主な補修改良内容C	補修の場合、代表的な補修内容。 改良の場合、代表的な改良内容。	文字	4		コード
前回補修年月日	前回補修を行った年月日（再補修の場合のみ）（年は西暦）	文字	8	0	

(11) D01D 橋梁点検補修

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋梁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
径間番号	起点側から付した通し番号	文字	2		
径間分割番号	径間分割番号を表す。	文字	1		
部材区分C	部材区分コード	文字	2		コード
部材番号	橋梁点検要領（案）に基づく部材番号※ ※定期点検調書の部材番号図（発注者から貸与）参照	文字	4		
補修年月日	補修または改良を行った年月日（年は西暦）	文字	8	0	

補修補強内容C	補修補強工法	文字	3	コード
---------	--------	----	---	-----

(12) D020 橋側歩道橋基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
橋梁コード	該当する区間の橋梁コード。整理番号1で記入した頭4桁の橋梁コードを記入。	文字	4		
分割区分C	該当する橋側歩道橋の分割区分を表す。	文字	1		コード
施設改修年度	施設を改修した年度。(年は西暦)	文字	4	0	
名称	橋側歩道橋名称を表す。(10文字以内の日本語(漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字))	文字	20		
橋梁種別C	橋梁種別を表す。	文字	1		コード
架設竣工年	架設竣工年。(年は西暦)	文字	4	0	
適用示方書C	設計または施工に用いた代表的な適用示方書を表す。 *旧橋を撤去せず部分的に架替等を行った場合の記入は、当初架設時のものを記入する。	文字	3		コード
総径間数	対象となる橋側歩道橋を構成している径間数。	文字	3	0	
事業区分C	事業区分を表す。	文字	1		コード
百米標自	該当する区間の距離標(百米標)を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標(百米標)からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標(百米標)を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標(百米標)からの距離を表す。	数値	4	0	m
橋長	橋台間のパラペット前面の距離(小数点以下2位)高架橋については、市区町村界を考慮。	文字	6		2 m
橋面積	橋側歩道橋の面積(地覆の内側間(歩道部)×橋長)(小数点以下1位)	文字	6		1 m ²
平面形状C	1橋全体としての平面形状を表す。	文字	1		コード
落下物防止柵高さ	落下物防止柵の高さの最大値(小数点以下2位)	文字	3		2 m
落下物防止柵延長	落下物防止柵の延長(小数点以下2位)	文字	5		2 m
点検施設C	橋側歩道橋の点検施設を表す。	文字	1		コード
排水施設C	代表的な排水施設の型式を表す。	文字	1		コード
起点側市区町村C	該当する橋側歩道橋区間の起点側の市区町村名。使用するコードは、「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
起点側検査数字	該当する橋側歩道橋区間の起点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
起点側所在地	該当する橋側歩道橋区間の起点側の所在地(字番地まで)(30文字以内)	文字	60		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
終点側市区町村C	該当する橋側歩道橋区間の終点側の市区町村名。使用するコードは、「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
終点側検査数字	該当する橋側歩道橋区間の終点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
終点側所在地	橋側歩道橋終点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
他域橋長	他域延長（小数点以下2位）（該当橋側歩道橋が市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様に取扱う）に架設されている場合に限る。）	文字	6	2	m
起終点区分C	地域橋長において他域とされた地域が起点側市区町村C、終点側市区町村Cにおける所在地のどちらに位置しているか、他域橋長の存する地域について、該当するコードを記入する。	文字	1		コード
橋梁接続起点側市区町村C	該当する高架橋以外の高架部分の起点側の市区町村名。（2以上の市区町村にわたって設けられている高架橋の場合に限る。）使用するコードは、「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
橋梁接続起点側検査数字	該当する高架橋以外の高架部分の起点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
橋梁接続起点側橋梁種別C	橋梁接続の起点側の橋梁種別を表す。	文字	1		コード
橋梁接続起点側橋梁コード	橋梁接続の起点側の橋梁を表す。	文字	4		
橋梁接続起点側分割番号	橋梁接続の起点側の橋梁分割番号を表す。	文字	1		
橋梁接続終点側市区町村C	該当する高架橋以外の高架部分の終点側の市区町村名。（2以上の市区町村にわたって設けられている高架橋の場合に限る。）使用するコードは、「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
橋梁接続終点側検査数字	該当する高架橋以外の高架部分の終点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
橋梁接続終点側橋梁種別C	橋梁接続の終点側の橋梁種別を表す。	文字	1		コード
橋梁接続終点側橋梁コード	橋梁接続の終点側の橋梁を表す。	文字	4		
橋梁接続終点側分割番号	橋梁接続の終点側の橋梁分割番号を表す。	文字	1		

(13) D021 橋側歩道橋幅員構成

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
全幅員	全幅員を表す。（小数点以下2位）	文字	4	2	m
有効幅員	有効幅員を表す。（小数点以下2位）	文字	4	2	m
左側車線歩道幅	起点から見て歩道中心より、左側の歩道幅（小数点以下2位）	文字	4	2	m

右側車線歩道幅	起点から見て歩道中心より、右側の歩道幅（小数点以下2位）	文字	4	2	m
---------	------------------------------	----	---	---	---

(14) D022 橋側歩道橋高欄防護柵

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
高欄防護柵材質 材料C	高欄の材質（材料）	文字	1		コード
高欄防護柵高さ	高欄の橋面からの高さ（小数点以下2位）	文字	3	2	m

(15) D024 橋側歩道橋添架物

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
添架物区分C	添架物区分を表す。	文字	1		コード
添架物種別C	添架物種別を表す。	文字	2		コード
添架物寸法	電力及び電話について、設置する条数と段数を表す。	文字	4		
添架物重量	添架物の単位長さ当たりの重量	文字	3	0	kg f / m
添架物管理者名	添架物の管理者名（10文字以内）	文字	20		
占用物件本数	添架物種別毎の物件数	文字	3	0	

(16) D025 橋側歩道橋上部工

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
構造体番号	上部工の構造体毎の番号	文字	3		
起点側伸縮装置 形式C	該当する構造体における起点側の伸縮装置の構造形式	文字	2		コード
終点側伸縮装置 形式C	該当する構造体における終点側の伸縮装置の構造形式	文字	2		コード
材料区分C	主構造の材料	文字	1		コード
桁形式区分C	主桁構造の桁形式	文字	1		コード
構造形式C	構造体の形式（材料区分コード+構造形式コードの3桁）	文字	3		コード
路面位置C	路面位置を表す。	文字	1		コード
主桁主構本数	主桁本数を表す。	文字	3	0	

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
主桁主構高さ	主桁または主構高さの最大値（小数点以下2位）	文字	4	2	m
主桁主構間隔	主桁または主構間隔の最大値（小数点以下2位）	文字	4	2	m
床版材料C	床版材料を表す。	文字	1		コード
架設年月日	上部工の架設年月日（年は西暦）	文字	8	0	
鋼上部工表面処理C	鋼上部工の耐候性鋼材の表面処理	文字	1		コード
塗装年月日	該当する構造体の新設時の塗装年月日（年は西暦）	文字	8	0	
プライマー下塗塗料C	構造体の新設時でのプライマー及び下塗り塗料	文字	2		コード
中塗塗料C	構造体の新設時での中塗り塗料	文字	2		コード
上塗塗料C	構造体の新設時での上塗り塗料	文字	2		コード
塗装方法C	塗装方法を表す。	文字	1		コード
工場塗装面積	該当する構造体の工場塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
本体塗装面積	該当する構造体の本体塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
高欄塗装面積	該当する構造体の高欄塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		
塗装会社	塗装会社名（10文字以内）	文字	20		

(17) D026 橋側歩道橋下部工

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
躯体番号	下部工の躯体毎の番号	文字	3		
橋台橋脚構造形式C	該当する下部工の構造形式	文字	2		コード
橋台橋脚高さ	橋台の場合、フーチング下面からパラペット天端までの高さ（小数点以下2位）（基礎がケーソンの場合はケーソン天端から） 橋脚の場合、フーチング下面から沓座面までの高さ（小数点以下2位）（基礎がケーソンの場合はケーソン天端から）	文字	5	2	m
基礎形式C	基礎形式を表す。	文字	1		コード
塗装年月日	該当する下部工躯体の新設時の塗装年月日（年は西暦）	文字	8	0	
プライマー下塗塗料C	下部工躯体の新設時のプライマー及び下塗り塗料	文字	2		コード
中塗塗料C	下部工躯体の新設時の中塗り塗料	文字	2		コード
上塗塗料C	下部工躯体の新設時の上塗り塗料	文字	2		コード
塗装方法C	下部工躯体の新設時の塗装方法	文字	1		コード
工場塗装面積	下部工躯体の工場塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
本体塗装面積	下部工躯体の本体塗装面積（小数点以下1位）	文字	6	1	m ²
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		
塗装会社	塗装会社名（10文字以内）	文字	20		
躯体コンクリート強度	下部工躯体のコンクリート強度（σ _{ck} ）	文字	3		kgf/cm ²

(18) D027 橋側歩道橋径間

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
構造体番号	該当する支間に対する上部工の構造体番号	文字	3		
径間番号	起点側から付した通し番号	文字	2		
径間分割番号	径間分割番号を表す。	文字	1		
支間番号	径間内で付した通し番号のうち該当する支間番号	文字	1		
支間長	上部工の支間長（径間長）（小数点以下3位）	文字	6	3	m
起点側支承種類C	該当する支間の起点側支承構造（支承及び落橋防止構造の種類）	文字	2		コード
起点側落橋防止1C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
起点側落橋防止2C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
起点側落橋防止3C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
終点側支承種類C	該当する支間の終点側支承構造（支承及び落橋防止構造の種類）	文字	2		コード
終点側落橋防止1C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
終点側落橋防止2C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
終点側落橋防止3C	落橋防止構造の種類	文字	1		コード
起点側躯体番号1	該当する径間に対する下部工の起点側躯体番号	文字	3		
起点側躯体番号2	該当する径間に対する下部工の起点側躯体番号	文字	3		
終点側躯体番号1	該当する径間に対する下部工の終点側躯体番号	文字	3		
終点側躯体番号2	該当する径間に対する下部工の終点側躯体番号	文字	3		

(19) D029 橋側歩道橋塗装歴

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
径間又は躯体番号	上部工の場合、橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号。 下部工の場合、躯体番号。	文字	3		
上下部工区分 C	上・下部工に関するデータの作成区分	文字	1		コード
塗装年月日	再塗装を行った年月日（年は西暦）	文字	8	0	
プライマー下塗 塗料 C	プライマー及び下塗り塗料を表す。	文字	2		
中塗塗料 C	中塗り塗料を表す。	文字	2		コード
上塗塗料 C	上塗り塗料を表す。	文字	2		コード
本体塗装面積	本体に対する再塗装面積（小数点以下 1 位）	文字	6	1	m ²
高欄塗装面積	高欄に対する再塗装面積（小数点以下 1 位）	文字	6	1	m ²
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		

(20) D02A 橋側歩道橋補修歴

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する橋側歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
径間又は躯体番号	上部工の場合、橋梁分割毎の径間番号と径間分割番号。（伸縮装置等については、隣接する上部工の中で一番若い径間番号（起点側上部工）。落橋防止等については、上部工の径間番号。） 下部工の場合、躯体番号。	文字	4		
補修改良年月日	補修または改良を行った年月日（年は西暦）	文字	8	0	
補修改良区分 C	補修または改良に関するデータの作成区分	文字	1		コード
主な補修改良内容 C	補修の場合、代表的な補修内容。 改良の場合、代表的な改良内容。	文字	4		コード
前回補修年月日	前回補修を行った年月日（再補修の場合のみ）（年は西暦）	文字	8	0	

(21) D02D 橋側歩道橋点検補修

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当するを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
補助番号	同上	文字	—		
径間番号	起点側から付した通し番号	文字	2		
径間分割番号	径間分割番号を表す。	文字	1		
部材区分C	部材区分コード	文字	2		コード
部材番号	橋梁点検要領（案）に基づく部材番号※ ※定期点検調書の部材番号図（発注者から貸与）参照	文字	4		
補修年月日	補修または改良を行った年月日（年は西暦）	文字	8	0	
補修補強内容C	補修補強工法	文字	3		コード

(22) D030 横断歩道橋基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する横断歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
名称	該当する横断歩道橋（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 km
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 km
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m
所在地	該当する区間の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
昇降形式C	代表的な昇降形式区分を表す。	文字	1		コード
上部工構造形式C	代表的な上部工構造形式を表す。	文字	2		コード
上部工材料C	上部工（床版を除く）の使用材料を表す。	文字	1		コード
床版材料C	上部工のうち代表的な床版の使用材料を表す。	文字	1		コード
下部工形式C	代表的な下部工（躯体）形式を表す。	文字	2		コード
基礎形式C	代表的な基礎形式を表す。	文字	2		コード
完成年次	完成年次を表す。（年は西暦）	文字	4	0	
橋長	桁端間の距離（小数点以下1位）	文字	4		1 m
桁下高	歩道橋の桁下から路面までの高さの最小高（小数点以下1位）	文字	3		1 m
幅員	昇降部分を省く橋面部の幅員（小数点以下1位）地覆がある場合には地覆内面間の距離、地覆がない場合には高欄内面間の距離。	文字	3		1 m
適用示方書C	設計で主に用いた代表的な示方書類。	文字	2		コード
本体塗装面積	横断歩道橋の本体塗装面積（小数点以下1位）	文字	6		1 m ²
高欄塗装面積	横断歩道橋の高欄塗装面積（小数点以下1位）	文字	6		1 m ²
現場塗装面積	横断歩道橋の現場塗装面積（小数点以下1位）	文字	6		1 m ²

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
塗装色	代表的な塗装色を表す。使用するコードは、日本塗装工業会の定めるコード。	文字	9		
上屋有無C	横断歩道橋の上屋の有無を表す。	文字	1		コード
エスカレータ有無C	エスカレータの有無を表す。	文字	1		コード
エスカレータ基数	エスカレータがある場合の、エスカレータの基数を表す。	文字	2	0	
エスカレータ占用別C	エスカレータがある場合の、エスカレータの占用別を表す。	文字	1		コード
エレベータ有無C	エレベータの有無を表す。	文字	1		コード
エレベータ基数	エレベータがある場合の、エレベータの基数を表す。	文字	2	0	
エレベータ占用別C	エレベータがある場合の、エレベータの占用別を表す。	文字	1		コード
上屋占用物件別C	上屋の施設がある場合の、上屋の占用別。	文字	1		コード
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」。	文字	5		コード
市区町村至C	該当する区間の終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」。	文字	5		コード

(23) D032 横断歩道橋塗装歴

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する横断歩道橋を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
塗装年月	再塗装を行った年月（年は西暦）	文字	6	0	
本体塗装面積	本体に対する再塗装面積	文字	5	0	m ²
高欄塗装面積	高欄、防護柵に対する再塗装面積	文字	5	0	m ²

(24) D040 トンネル基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当するトンネルを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
トンネルコード	該当する区間のトンネルコード整理番号1で記入した頭4桁のトンネルコードを記入。	文字	4		
分割区分C	該当するトンネルの分割区分。	文字	1		コード
名称	該当する区間のトンネル（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
一般有料区分C	一般・有料の別を表す。	文字	1		コード
トンネル分類C	トンネルの分類を表す。	文字	1		コード
完成年次	完成年次を表す。	文字	3	0	
トンネル延長	坑門（入口）から坑門（出口）までのトンネル延長（小数点以下1位）	文字	6	1	m
建築限界高	トンネルの内空断面の建築限界高（小数点以下2位）	文字	4	2	m
中央高	トンネルの内空断面の中央高（小数点以下2位）	文字	4	2	m
有効高	トンネルの内空断面の有効高（車道端からの鉛直線が壁面または天井板と交わるまでの高さ）（小数点以下2位）	文字	4	2	m
トンネル等級C	トンネル等級区分を表す。	文字	1		コード
交通量	トンネルの現況の交通量	文字	5	0	台/日
壁面種類C	壁面種類を表す。	文字	1		コード
側壁巻厚	側壁部の設計最小覆工巻厚を表す。	文字	3	0	c m
アーチ半径	アーチ部の半径を表す。	文字	5	0	c m
換気種別C	トンネル内の換気種別を表す。	文字	1		コード
換気方式C	強制（機械）換気の場合の換気方式区分を表す。	文字	1		コード
換気台数	強制（機械）換気の場合の換気機械の所要台数	文字	2	0	
排水種別C	トンネル内の排水種別を表す。	文字	2		コード
電話個数	電話施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
押ボタン個数	押ボタン施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
火災検知個数	火災検知施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
警報表示個数	警報表示施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
点滅灯個数	点滅灯施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
音信号個数	音信号施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
誘導表示個数	誘導表示施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
排煙個数	排煙施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
避難通路個数	避難通路施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
消火栓個数	消火栓施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
消火器個数	消火器施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
給水栓個数	給水栓施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
無線通信個数	無線通信施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
再放送個数	再放送施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
拡声放送個数	拡声放送施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
水噴霧個数	水噴霧施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
I T V個数	I T V施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
非常用電源設備個数	非常用電源設備施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
非常駐車帯個数	非常駐車帯施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
方向転換個数	方向転換施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
自動通報装置個数	自動通報装置施設が設置されている場合のその個数（箇所数）	文字	3	0	
市区町村自C	トンネルの起点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
検査数字自	トンネルの起点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
所在地自	該当する区間の起点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
市区町村至C	トンネルの終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」をの「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
検査数字至	トンネルの終点側の市区町村名。コード末尾の□内の数字	文字	1		
所在地至	該当する区間の終点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
他城市区町村C	トンネルが市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様）に設けられている場合の、他城市区町村。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」 3市区町村以上にわたって存在する場合の中間市区町村に係る分の取扱いは起終点両側の市区町村において折半するもの。	文字	5		コード
他域検査数字	トンネルが市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様）に設けられている場合の、他城市区町村。コード末尾の□内の数字。	文字	1		
他域延長	トンネルが市区町村界（都道府県界と重複している場合も同様）に設けられている場合の、他の市区町村域に関しての延長。	文字	5	0 m	
現況区分C	トンネルの現況区分を表す。	文字	1		コード
道路幅	道路部幅員（車道、路肩及び歩道等を加えた幅員）（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
車道幅	左側車道幅、右側車道幅をプラスした車道部幅員（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
歩道等幅	左側歩道幅、右側歩道幅をプラスした歩道等幅員（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
左側歩道幅	トンネル内の起点から見て左側の歩道等幅員（車道部と併設してある歩道、歩道+自転車道および自転車歩行者道の幅員）（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
左側路肩幅	トンネル内の起点から見て左側の路肩幅（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
左側車道幅	トンネル内の起点から見て左側の車道幅員（小数点以下2位）車道幅員が明確でない場合は、車道と同一平面の路肩部分として片側25cmを車道幅員より差し引いたもの。	文字	4	2 m	
中央帯	トンネル内の中央帯の幅員（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
中央分離帯	トンネル内の中央分離帯の幅員（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
右側車道幅	トンネル内の起点から見て右側の車道幅員（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
右側路肩幅	トンネル内の起点から見て右側の路肩幅（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
右側歩道幅	トンネル内の起点から見て右側の歩道幅員（車道部と併設してある歩道、歩道+自転車道および自転車歩行者道の幅員）（小数点以下2位）	文字	4	2 m	
舗装種別C	トンネル内の舗装種別を表す。歩道と車道を併設されている場合は車道部。	文字	1		コード
照明有無C	トンネル内の照明の有無を表す。	文字	1		コード

(25) D050 洞門基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する洞門を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
補助番号	同上	文字	—		
名称	該当する洞門（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
完成年月	洞門が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
延長	洞門の延長（道路中心線上の延長）（小数点以下1位）	文字	5	1	m
建築限界高	洞門の内空建築限界高（小数点以下2位）	文字	4	2	m
有効高	洞門の内空有効高（車道端から鉛直線が壁面または天井板と交わるまでの高さ）（小数点以下2位）	文字	3	2	m
道路幅	洞門内の道路部幅員（車道、路肩及び歩道等を加えた幅員）（小数点以下2位）	文字	4	2	m
車道幅	左側車道幅、右側車道幅をプラスした車道部幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
歩道幅	左側歩道幅、右側歩道幅をプラスした歩道等幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
左側歩道幅	洞門内の起点側から見て左側の歩道幅員（車道部と併設してある歩道、歩道＋自転車道および自転車歩行者道の幅員）（小数点以下2位）	文字	4	2	m
左側路肩幅	洞門内の起点側から見て左側の路肩幅（小数点以下2位）	文字	4	2	m
左側車道幅	洞門内の起点側から見て左側の車道幅員（小数点以下2位）車道幅員が明確でない場合、車道と同一平面の路肩部分として片側2.5cmを車道幅員より差し引いたもの	文字	4	2	m
中央帯	洞門内の中央帯の幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
中央分離帯	洞門内の中央分離帯の幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
右側車道幅	洞門内の起点側から見て右側の車道幅員（小数点以下2位）車道幅員が明確でない場合、車道と同一平面の路肩部分として片側2.5cmを車道幅員より差し引いたもの	文字	4	2	m
右側路肩幅	洞門内の起点側から見て右側の路肩幅（小数点以下2位）	文字	4	2	m
右側歩道幅	洞門内の起点側から見て右側の歩道幅員（車道部と併設してある歩道、歩道＋自転車道および自転車歩行者道の幅員）（小数点以下2位）	文字	4	2	m
スノーシェッド併用C	洞門のスノーシェッドとの併用・単独の別を表す。	文字	1		コード
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市区町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(26) D060 スノーシェッド基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当するスノーシェッドを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
延長	スノーシェッドの延長（道路中心線上の延長）（小数点以下 1 位）	文字	5		1m
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(27) D070 地下横断歩道基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分 C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号 1	該当する地下横断歩道を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
名称	該当する地下横断歩道の（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
所在地	該当する区間の地下横断歩道の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
昇降形式 C	代表的な昇降形式区分を表す。	文字	1		コード
完成年次	完成年次を表す。（年は西暦）	文字	4	0	
延長	地下歩道の出入口から出入口までの平面上の水平距離（小数点以下 1 位）	文字	4	1	m
内空幅	内空寸法の幅（小数点以下 2 位）	文字	4	2	m
内空高	内空寸法の高さ（路面より天井まで）（小数点以下 1 位）	文字	2	1	m
基礎種類 C	代表的な地下横断歩道の基礎種類	文字	2		コード
エスカレータ有無 C	地下横断歩道内のエスカレータの有無を表す。	文字	1		コード
エスカレータ基数	エスカレータがある場合のエスカレータの基数を表す。	文字	1	0	
エスカレータ占用別 C	エスカレータがある場合のエスカレータの占用別を表す。	文字	1		コード
エレベータ有無 C	地下横断歩道内のエレベータの有無を表す。	文字	1		コード
エレベータ基数	エレベータがある場合のエレベータの基数を表す。	文字	1	0	
エレベータ占用別 C	エレベータがある場合のエレベータの占用別を表す。	文字	1		コード
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(28) D080 道路 BOX 基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する道路BOXを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
名称	該当する道路BOX等の名称（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	道路BOXが完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
構造形式種別C	構造形式種別を表す。	文字	1		コード
延長	道路BOXの延長（構造物の道路中心の縦方向の延長）（小数点以下1位）	文字	6	1	m
道路部	道路BOXの道路部幅員（車道、路肩及び歩道を加えた延長）（小数点以下2位）	文字	7	2	m
内空車道幅	左側車道幅、右側車道幅をプラスした車道部幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
左側歩道幅	道路BOXの起点から見て左側の内空歩道幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
左側路肩幅	道路BOXの起点から見て左側の内空路肩幅（小数点以下2位）	文字	4	2	m
中央帯	道路BOXの中央帯の幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
中央分離帯	道路BOXの中央帯分離帯の幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
右側路肩幅	道路BOXの起点から見て右側の内空路肩幅（小数点以下2位）	文字	4	2	m
右側歩道幅	道路BOXの起点から見て右側の内空歩道幅員（小数点以下2位）	文字	4	2	m
中央高	内空断面の中央高（小数点以下2位）2断面以上の内空断面を有する場合、代表的な断面。	文字	3	2	m
建築限界高	内空断面の建築限界高（小数点以下2位）2断面以上の内空断面を有する場合、代表的な断面。	文字	4	2	m
有効高	内空断面の有効高（車道端からの鉛直線が壁面または天井と交わる高さ）（小数点以下2位）2断面以上の内空断面を有する場合、代表的な断面。	文字	4	2	m
基礎種類C	代表的な基礎種類を表す。	文字	2		コード
換気種別C	道路BOX内の自然換気・強制換気の別を表す。	文字	1		コード
換気方式C	強制（機械）換気の場合の換気方式を表す。	文字	1		コード
換気台数	強制（機械）換気の場合の換気機械の所要台数。	文字	2	0	台
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(29) D090 横断 BOX 基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する横断BOXを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	横断BOX等が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
設置区分C	設置区分を表す。	文字	1		コード
構造形式種別C	構造形式種別を表す。	文字	1		コード
延長	横断BOX等の延長（構造物延長）（小数点以下1位）	文字	5	1	m
内空幅	横断BOX等の内空寸法の幅（小数点以下2位）二連ボックス等のように2断面以上の内空断面を有する横断BOX等の場合、代表的な断面。	文字	4	2	m
内空高	横断BOX等の内空寸法の高さ（路面より天井まで）（小数点以下2位）二連ボックス等のように2断面以上の内空断面を有する横断BOX等の場合、代表的な断面。	文字	3	2	m
最小土被り	最小土被りを表す。（小数点以下1位）	文字	3	1	m
基礎種類C	代表的な横断BOX等の基礎の種類を表す。	文字	2		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(30) D100 パイプカルバート基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当するパイプカルバートを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
設置区分C	設置区分を表す。	文字	1		コード
形式種別C	形式種別を表す。	文字	2		コード
管径	パイプカルバートの管径（公称径）	文字	4	0	m m
延長	パイプカルバートの延長（のべ延長）	文字	4	0	m

(31) D120 擁壁基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する擁壁を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
設置区分C	擁壁の設置区分を表す。	文字	1		コード
構造形式C	構造形式を表す。	文字	2		コード
基礎形式C	代表的な基礎形式を表す。	文字	2		コード
擁壁延長	該当区間に設けられている擁壁の基礎天端でとられたのべ延長（小数点以下1位）	文字	8	1	m
最大高	擁壁の高さの最大値（小数点以下1位）高さが一定の場合、最大、最小欄に同値	文字	3	1	m
最小高	擁壁の高さの最小値（小数点以下1位）高さが一定の場合、最大、最小欄に同値	文字	3	1	m

4-3 付属物および付帯施設

(1) E010 防護柵基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する防護柵を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」 行政境界線が管理者境界にあたる場合、該当道路の管理者側の地名。 行政境界線が同一管理区域内の境界にあたる場合、起点から終点に向かって左側の地名。	文字	5		コード
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
設置箇所C	防護柵の設置箇所を表す。	文字	1		コード
防護柵種別C	防護柵種別を表す。	文字	3		コード
設置区分C	防護柵の設置区分を表す。	文字	1		コード
設置延長	該当する設置区間内のビームの端部を含むのべ延長（小数点以下1位）	文字	5	1	m

(2) E020 道路照明基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する照明を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	完成年月を表す。（年は西暦）	文字	6	0	
連続局部別C	連続・局部照明の別を表す。連続照明とは、ほぼ等間隔に設置されている照明で500m以上連続しているもの。	文字	1		コード
設置区分C	設置区分を表す。	文字	2		コード
設置箇所C	照明の設置箇所を表す。	文字	1		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
灯具型式C	灯具型式表す。	文字	2		コード
照明ポール型式C	照明ポール型式表す。	文字	2		コード
基礎形式C	基礎形式表す。	文字	1		コード
光源種別1C	光源種別表す。	文字	1		コード
光源型式1	光源型式表す。(10文字以内の英数字)	文字	10		
灯数1	照明の灯数表す。	文字	4	0	
光源種別2C	道路照明の光源が複数の場合、2種類目の光源種別表す。	文字	1		コード
光源型式2	道路照明の光源が複数の場合、2種類目の光源型式表す。(10文字以内の英数字)	文字	10		
灯数2	道路照明の光源が複数の場合、2種類目の照明の灯数表す。	文字	4	0	
光源種別3C	道路照明の光源が複数の場合、3種類目の光源種別表す。	文字	1		コード
光源型式3	道路照明の光源が複数の場合、3種類目の光源型式表す。(10文字以内の英数字)	文字	10		
灯数3	道路照明の光源が複数の場合、3種類目の照明の灯数表す。	文字	4	0	
占用物件別C	該当する道路照明の占用物件の別を表す。	文字	1		コード
関連施設整理番号	設置区分Cで指定した工種の親表の整理番号	文字	—		
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(3) E030 視線誘導標（反射式）

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する視線誘導標（反射式）を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」 行政境界線が管理者境界にあたる場合、該当道路の管理者側の地名 行政境界線が同一管理区域内の境界にあたる場合、起点から終点に向かって左側の地名	文字	5		コード
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
誘導標種類C	誘導標の種類を表す。	文字	2		コード
個数	該当する区間の誘導標の個数（のべ個数）	文字	4	0	

(4) E040 視線誘導標基本（自光式）

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する視線誘導標基本（自光式）を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
設置箇所C	誘導標が設置されている箇所を表す。	文字	2		コード
誘導標種類C	誘導標の種類を表す。	文字	1		コード
電源種別C	電源の種別を表す。	文字	1		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(5) E050 道路標識基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する道路標識を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	標識の設置区分を表す。	文字	1		コード
設置箇所C	標識柱の設置箇所を表す。	文字	1		コード
設置方式C	標識の設置方式を表す。	文字	2		コード
支柱形式C	支柱形式を表す。	文字	2		コード
基礎形式C	基礎形式を表す。	文字	1		コード
クリアランス	設置方式が片持式、門型式等で標識板が車道に設置されている場合の車道路面から標識板下端までのクリアランス（小数点以下2位）	文字	3	2	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	標識を設置した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(6) E051 標識各板諸元

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する道路標識を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
標識種類番号	道路標識（案内、警戒、規制、指示、補助標識等）の種類番号（都道府県公安委員会で設置した標識は省く）	文字	14		
板寸法縦	標識板の縦の寸法	文字	3	0	c m
板寸法横	標識板の横の寸法	文字	3	0	c m

(7) E060 情報板基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する情報板を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	情報板を設置した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
情報板種別C	情報板種別を表す。	文字	1		コード
表示方法C	表示方法を表す。	文字	1		コード
制御方法C	制御方法を表す。	文字	1		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(8) E070 交通遮断機基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する交通遮断機を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
操作区分C	操作区分を表す。	文字	1		コード
制御場所C	交通遮断機の制御場所を表す。	文字	1		コード
制御場所名称	制御場所が遠隔制御の場合の制御場所名（10文字以内）	文字	20		
道路情報板併設有無C	該当する交通遮断機が道路情報板と併設かの有無を表す。	文字	1		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(9) E080ITV 基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当するITVを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設完成年度	施設が完成した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
カメラ完成年月	該当するカメラが完成（設置）された年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
カメラ台数	設置されているカメラ台数	文字	2	0	
モニター台数	モニター台数を表す。	文字	2	0	
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(10) E090 車両感知器

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する車両感知器を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度を記入。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	車両感知器を設置した年月を記入	文字	6	0	
上り下り区分C	上り・下り区分について、該当するコードを記入	文字	1		コード
設置箇所C	センサーの設置箇所について、該当するコードを記入	文字	2		コード
形式C	車両感知器の形式について、該当するコードを記入	文字	2		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名のコードを記入	文字	5		コード

(11) E100 車両緒元計測施設基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する車両緒元計測施設を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	該当する車両緒元計測施設が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(12) E110 象観測施設基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する象観測施を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
装置種別C	装置種別を表す。	文字	2		コード
凍結予知表示板有無C	凍結予知表示板の有無を表す。	文字	1		コード
通信回線区分C	通信回線区分を表す。	文字	1		コード
自管理他省庁区分C	気象観測施設の管理を表す。	文字	1		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(13) E120 災害予知装置基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する災害予知装置を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
装置種別C	装置種別を表す。	文字	2		コード
設置のべ数	災害予知装置の設置のべ数を表す。	文字	2		
通信回線区分C	通信回線区分を表す。	文字	1		コード
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(14) E130 自動車駐車場基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する自動車駐車場を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
チェーン着脱場C	チェーン着脱場が併設されているかの有無を表す。	文字	1		コード
敷地面積	該当する駐車場の敷地面積	文字	6	0	m ²
駐車台数	自動車の駐車台数。	文字	3	0	
大型車駐車台数	大型車の駐車台数を記入する。駐車台数が不明な場合は、駐車台数の内、大型車1台当たりの駐車所要面積93.8㎡とし、大型車の駐車台数を記入する。(直轄指定区間現況調査)	文字	3	0	
分離構造C	駐車場が本線と分離構造となっているか否かの別を表す。	文字	1		コード
舗装種別C	代表的な舗装種別を表す。	文字	1		コード
舗装面積	舗装面積を表す。	文字	6	0	m ²
標識	標識の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
便所	便所の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
公衆電話	公衆電話の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
照明灯	照明灯の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
ゴミ箱	ゴミ箱の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
給油所	給油所の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
食堂	食堂の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
売店	売店の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
無料休憩所	無料休憩所の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
宿泊所	宿泊所の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
案内所	案内所の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
情報ターミナル有無C	情報ターミナルが併設されているかの有無を表す。	文字	1		コード
道路情報板有無C	道路情報板が併設されているかの有無を表す。	文字	1		コード
管理外公衆電話	管理区域外にある公衆電話の個数（箇所数）を表す。	文字	2	0	
管理外給油所	管理区域外にある給油所の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
管理外食堂	管理区域外にある食堂の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
管理外売店	管理区域外にある売店の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
管理外無料休憩所	管理区域外にある無料休憩所の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
管理外宿泊所	管理区域外にある宿泊所の個数（箇所数）を表す。	文字	1	0	
チェーン着脱場看板C	道路管理者以外のチェーン着脱場看板が併設されているかの有無を表す。	文字	1		コード
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(15) E140 自転車駐車場基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する自転車駐車場を識別するためのデータである。	文字	-		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	該当する自転車駐車が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
上り下り区分 C	上下区分を表す。	文字	1		コード
所在地	該当する自転車駐車の設置位置の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
設置区分 C	設置区分を表す。	文字	1		コード
管理区分 C	管理区分を表す。	文字	1		コード
敷地区分 C	敷地区分を表す。	文字	1		コード
施設区分 C	施設区分を表す。	文字	1		コード
駐車台数	自転車の収容可能台数	文字	4	0	
上屋有無 C	上屋の有無を表す。	文字	1		コード
駐車方法 C	自転車の駐車方法を表す。	文字	1		コード
駐車場面積	駐車場の面積を表す。	文字	4	0	m ²
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市区町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(16) E150 雪崩防止施設基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分 C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号 1	該当する雪崩防止施設を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設種別 C	施設種別区分を表す。	文字	2		コード
延長	該当する施設の延長（小数点以下1位）施設が面的に設置されているものは道路と平行方向の幅が延長。	文字	5	1	m
設置道路延長	雪崩防止施設が設置されている道路の延長（小数点以下1位）	文字	5	1	m
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市区町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(17) E160 落石防止施設基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する落石防止施設を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	該当する落石防止施設が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
施設種別C	施設種別区分を表す。	文字	2		コード
延長	該当する区間の施設延長（小数点以下1位）	文字	5	1	m
高さ	該当する区間の施設の代表的な高さ（小数点以下1位）	文字	3	1	m
面積	該当する区間の施設的面積〔ここでは網型式（金網、エキスパンドメタル等）、吹付工等を対象とする〕	文字	4	0	m ²
落石探知器有無C	施設に落石探知器が設置されているか否かを表す。	文字	1		コード
規制区間内外別C	規制区間内、外の別を表す。	文字	1		コード
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(18) E170 消雪パイプ基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する消雪パイプを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
設置区分C	設置区分を表す。	文字	2		コード
設置道路延長	消雪パイプが設置されている道路の延長	文字	4	0	m
施設区分C	施設の区分を表す。	文字	1		コード
無散水設置延長	該当する区間における無散水式の設置延長（小数点以下1位）	文字	3	1	m
占用物件別C	該当する区間の消雪パイプの占用別を表す。	文字	1		コード

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
噴水管散水管延長	該当する区間における噴水管（散水管）の延長（のべ延長）（小数点以下1位）	文字	5		1 m
関連施設整理番号	設置区分Cで指定した工種の親表の整理番号	文字	—		
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(19) E180 ロードヒーティング基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当するロードヒーティングを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
設置区分C	設置区分を表す。	文字	2		コード
延長	該当する区間の施設の設置延長（のべ延長）（小数点以下1位）	文字	5		1 m
設置道路延長	ロードヒーティングが設置されている道路延長（のべ延長）	文字	4		0 m
施工面積	該当する区間の施設が電熱線の場合、その施工面積（のべ面積） 赤外線の場合、その融雪、凍結防止を行う対象面積（のべ面積）	文字	4		0 m ²
占用物件別C	該当する区間のロードヒーティングの占用別を表す。	文字	1		コード
関連施設整理番号	設置区分Cで指定した工種の親表の整理番号	文字	—		
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(20) E190 除雪ステーション基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する除雪ステーションを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
敷地面積	除雪ステーションの敷地面積	文字	4		0 m ²

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(21) E210 共同溝基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する共同溝を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
名称	該当する共同溝の名称（10文字以内の日本語（漢字、ひらがな、カタカナ、及び英数字））	文字	20		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	km
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
所在地自	該当する区間の始点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
所在地至	該当する区間の終点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
完成年月	該当する共同溝が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
共同溝区分C	共同溝の区分を表す。	文字	1		コード
指定告示延長	共同溝の指定告示延長を表す。（小数点以下1位）	文字	6	1	m
建設告示延長	共同溝の建設告示延長を表す。（小数点以下1位）	文字	6	1	m
事業化延長	共同溝の事業化延長を表す。（小数点以下1位）	文字	6	1	m
換算完成延長	共同溝の換算完成延長を表す。（小数点以下1位）	文字	6	1	m
本体完成延長	共同溝の本体完成延長を表す。（小数点以下1位）	文字	6	1	m
供用延長	共同溝の供用延長を表す。（小数点以下1位）	文字	6	1	m
幹線共同溝ラップ延長	幹線共同溝と供給管共同溝がラップしている区間延長	文字	5	0	m
道路事業費	道路事業費全体を表す。	文字	5	0	百万円
附帯事業費	附帯事業費全体を表す。	文字	5	0	百万円
関連事業	関連事業を表す。（30文字以内）	文字	60		
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(22) E211 共同溝占用物

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号1	該当する共同溝を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
占用物件種別 C	占用物について、該当するコードを記入	文字	1		コード
占用物件数	占用物件数を記入	文字	2	0	
負担金	企業の負担金について記入	文字	5	0	百万円
参加延長	占用物件の参加延長を、小数点以下 1 位まで記入	文字	6	1	m
占用延長	共同溝内の占用延長（のべ延長）を、小数点以下 1 位まで記入	文字	6	1	m

(23) E220 C A B 電線共同溝基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分 C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号 1	該当する C A B 電線共同溝を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
施設改修年度	施設を改修した年度。（年は西暦）	文字	4	0	
完成年月	該当する C A B 及び電線共同溝、情報 B O X が完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
上り下り区分 C	上下区分を表す。	文字	1		コード
構造形式 C	代表的な構造形式を表す。	文字	1		コード
設置箇所 C	設置箇所を表す。	文字	1		コード
幅	C A B 及び電線共同溝、情報 B O X の全体幅（小数点以下 1 位） 管路形式（円形断面）の場合、外径。	文字	2	1	m
高さ	C A B 及び電線共同溝、情報 B O X の高さ（小数点以下 1 位） 管路形式（円形断面）の場合、外径。	文字	2	1	m
事業化延長	C A B 及び電線共同溝、情報 B O X における事業化延長（小数点以下 1 位）	文字	6	1	m
本体完成延長	C A B 及び電線共同溝、情報 B O X における本体完成延長（小数点以下 1 位）	文字	6	1	m
設置道路延長	C A B 及び電線共同溝、情報 B O X が設置されている道路延長	文字	5	0	m
設置区分 C	設置区分を表す。	文字	1		コード
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
市区町村至 C	該当する区間の終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(24) E221 C A B 電線共同溝占用物

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する C A B 電線共同溝を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
占用物件種別 C	占用物件を表す。	文字	1		コード
物件数	占用物件数を表す。	文字	2	0	
占用延長	C A B 及び電線共同溝、情報 B O X 内の占用延長（のべ延長） （小数点以下 1 位）	文字	6	1	m
占用許可年月日	占用許可年月日（年は西暦）	文字	8	0	

(25) E230 植栽基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分 C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号 1	該当する植栽を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分 C	上下区分を表す。	文字	1		コード
設置箇所 C	設置箇所区分を表す。	文字	1		コード
高木組合せ C	該当する区間に対し、高木の街路樹等の有無を表す。	文字	1		コード
中木組合せ C	該当する区間に対し、中木の街路樹等の有無を表す。	文字	1		コード
低木組合せ C	該当する区間に対し、低木の灌木の有無を表す。	文字	1		コード
張芝組合せ C	該当する区間に対し、張芝の有無を表す。	文字	1		コード
延長	植栽帯の延べ延長	文字	4	0	m
面積	植栽帯の延べ面積	文字	4	0	m ²
市区町村自 C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(26) E231 植栽樹木種別

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
整理番号 1	該当する植栽を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号 2	同上	文字	—		
整理番号 3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
樹木種別C	該当する区間の樹木種別	文字	3		コード
本数	該当する区間で同種の樹木の本数（のべ本数）	文字	4	0	本
高木中木低木芝別C	樹木区分を表す。	文字	1		コード

(27) E240 遮音施設基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する遮音施設を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
施設種類C	施設種類を表す。	文字	1		コード
設置箇所C	設置箇所を表す。	文字	2		コード
延長	該当する区間の遮音施設の延長（のべ延長）（小数点以下1位）	文字	6	1	m
設置道路延長	遮音施設が設置されている道路延長（小数点以下1位）	文字	6	1	m
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(28) E250 遮光フェンス基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する遮光フェンスを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4	1	k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4	0	m
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
設置箇所C	施設種類を表す。	文字	2		コード
延長	該当する区間の遮光フェンスの延長（のべ延長）（小数点以下1	文字	6	1	m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
	位)				
設置道路延長	遮光フェンスが設置されている道路延長（小数点以下1位）	文字	6		1 m
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(29) E270 流雪溝

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する流雪溝を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m
延長	該当する区間における流雪溝の延長（のべ延長）	文字	6		0 m
設置道路延長	流雪溝が設置されている道路の延長	文字	6		0 m
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(30) E330 光ケーブル施設基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する光ケーブル施設を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標自	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 k m
距離自	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m
百米標至	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 k m
距離至	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m
所在地自	該当する区間の始点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
所在地至	該当する区間の終点側の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
支持方法C	光ケーブルの支持方法を表す。	文字	2		コード
管路深さ又は配線高さ	管路布設の深さ又は架空ケーブル等の配線の高さ（小数点	文字	3		1 m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
	以下1位)				
管路設置道路延長	管路が設置されている道路延長（小数点以下1位）	文字	7		1 m
ケーブル敷設延長	光ケーブルの敷設延長（小数点以下1位）	文字	7		1 m
ケーブル敷設年月	光ケーブルの敷設年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
ケーブル種類C	光ケーブルの種類を表す。	文字	2		コード
ケーブル型式C	光ケーブルの型式を表す。	文字	2		コード
実装芯数	実際装置されているケーブルの芯線数	文字	3	0	本
敷設施設名称	光ケーブルが設置されている関連施設（共同溝、C A B等）の名称	文字	20		
市区町村自C	該当する区間の始点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード
市区町村至C	該当する区間の終点側の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	5		コード

(31) E334 光ケーブル端局

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当する光ケーブル端局を識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
所在地	該当する区間の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
端局設置年月	端局・接続箱の設置年月（年は西暦）	文字	6	0	
端局装置種別C	端局・接続箱の装置種別	文字	2		コード
端局設置区分C	端局・接続箱の設置区分	文字	2		コード
端局製造者名	端局・接続箱の製造者名（15文字以内）	文字	30		
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」。	文字	5		コード

(32) E350 ビーコン基本

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
路線	該当する路線を表す。	文字	4		
現旧区分C	該当する路線の現旧区分を表す。	文字	1		コード
整理番号1	該当するビーコンを識別するためのデータである。	文字	—		
整理番号2	同上	文字	—		
整理番号3	同上	文字	—		
補助番号	同上	文字	—		
百米標	該当する区間の距離標（百米標）を表す。	数値	4		1 k m
距離	該当する区間の距離標（百米標）からの距離を表す。	数値	4		0 m

項目名	定義	データ表現	文字数		単位
			全体	小数	
上り下り区分C	上下区分を表す。	文字	1		コード
所在地	該当する区間の所在地（字番地まで）（30文字以内）	文字	60		
完成年月	ビーコンが完成した年月。（年は西暦年）	文字	6	0	
設置箇所C	設置箇所を表す。	文字	1		コード
送信種別C	送信種別を表す。	文字	1		コード
ビーコン種類C	ビーコン種別を表す。	文字	2		コード
情報提供区間長	情報が提供される区間（サービスエリア間）の延長	文字	3		m
情報提供道路幅	情報が提供される区間（サービスエリア間）の道路幅（小数点以下1位）	文字	3	1	m
情報区分C	情報提供区分を表す。	文字	2		コード
AS名	AS（ビーコンセンターから送られてくる情報を受け持ち地域のビーコンに配信する制御装置）の名称（15文字以内）	文字	30		
AS設置場所	ASの設置場所（30文字以内）	文字	5		
市区町村C	該当する区間の市区町村名。使用するコードは「全国市町村要覧」の「都道府県市区町村コード」	文字	40		コード

5 . 詳細情報のサンプル

道路施設基本データ詳細情報のサンプルを以下に示す。

なお、各項目はダブルクォーテーション「”」で括る。

(1) 道路情報板を 1 基新設した場合

E06001.CSV

”路線”,”現旧区分”,”整理番号 1”,”整理番号 2”,”整理番号 3”,”補助番号”,”百米標”,”距離”,”施設改修年度”,”完成年月”,”情報板種別 C”,”表示方法 C”,”制御方法 C”,”市区町村 C”,
”0004”,”1”,””,””,””,””,”623.0”,”90”,”*”,”199403”,”1”,”4”,”3”,”02441”

(2) 防護柵を 2 箇所撤去した場合

E01001.CSV

”路線”,”現旧区分”,”整理番号 1”,”整理番号 2”,”整理番号 3”,”補助番号”,”市区町村 C”,”百米標自”,”距離自”,”百米標至”,”距離至”,”上り下り区分 C”,”設置箇所 C”,”防護柵種別 C”,”設置区分 C”,”設置延長”,
”0007”,”1”,”0001”,”0000”,”0000”,”*”,”02441”,”418.0”,”20”,”418.0”,”50”,”1”,”1”,”101”,”1”,”30.0”

E01002.CSV

”路線”,”現旧区分”,”整理番号 1”,”整理番号 2”,”整理番号 3”,”補助番号”,”市区町村 C”,”百米標自”,”距離自”,”百米標至”,”距離至”,”上り下り区分 C”,”設置箇所 C”,”防護柵種別 C”,”設置区分 C”,”設置延長”,
”0007”,”1”,”0002”,”0000”,”0000”,”*”,”02441”,”418.1”,”30”,”418.1”,”50”,”1”,”1”,”101”,”1”,”20.0”

(3) 道路標識を 1 基新設した場合（板が 2 枚）

E05001.CSV

”路線”,”現旧区分”,”整理番号 1”,”整理番号 2”,”整理番号 3”,”補助番号”,”百米標”,”距離”,”上り下り区分 C”,”設置箇所 C”,”設置方式 C”,”支柱形式 C”,”基礎形式 C”,”クリアランス”,”施設改修年度”,”完成年月”,”市区町村 C”,
”0016”,”1”,””,””,””,””,”57.3”,”25”,”1”,”1”,”11”,”11”,”1”,”5.1”,”*”,”199905”,”02441”

E05101.CSV

”整理番号 1”,”整理番号 2”,”整理番号 3”,”補助番号”,”標識種類番号”,”板寸法縦”,”板寸法横”,
””,””,””,””,”114-A”,”120”,”325”,
””,””,””,””,”118”,”45”,”45”

6 . 道路施設基本データ関連の管理ファイル

6-1 工事管理ファイル、その他管理ファイルのXML記入項目

6-1-1 工事管理ファイルのXML記入項目

電子成果品の工事管理ファイル「INDEX_C.XML」には、その他フォルダ「OTHRs」に格納する「ORG999」フォルダについて記載する。

(1) 工事管理ファイルの項目

電子成果品に格納する工事管理ファイル「INDEX_C.XML」の入力例を表 3に示す。なお、網掛け部分が入力する項目である。

表 3 工事管理ファイル入力例

カテゴリ	項目名	入力したデータ
基礎情報	メディア番号	2
	メディア総枚数	3
	適用要領基準	土木 200406-01
	発注図フォルダ名	DRAWINGS
	特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名	DRAWINGS/SPEC
	打合せ簿フォルダ名	MEET
	打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名	MEET/ORG
	施工計画書フォルダ名	PLAN
	施工計画書オリジナルファイルフォルダ名	PLAN/ORG
	完成図フォルダ名	DRAWINGF
	写真フォルダ名	PHOTO
	その他フォルダ名	OTHRs
	その他オリジナルファイルフォルダ名	OTHRs/ORG999
その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	道路施設基本データフォルダ	
工事件名等	発注年度	1998
	工事番号	199811110123
	工事名称	国道1号〇〇塗装修繕工事
	工事実績システムバージョン番号	5.0
	工事分野	道路
	工事業種	土木一式工事
	工種	歩行者系舗装工事
	工種	舗装路床工事
	工法型式	歩行者系舗装工
	住所コード	8220
	住所	茨城県つくば市〇〇3丁目〇〇番地
	工期開始日	1998-11-06
	工期終了日	1999-02-26
工事内容	掘削工 8500m3、土止め工 2800m2、埋戻し工 9500m3、路面覆工 300m2	
場所情報	測地系	01
	対象水系路線名	国道〇号
	現道-旧道区分	1
	対象河川コード	8606040001
	左右岸上下線コード	10
	起点側測点-n	15
	起点側測点-m	8
	終点側測点-n	18
	終点側測点-m	5
	起点側距離標-n	31
	起点側距離標-m	45
	終点側距離標-n	36
	終点側距離標-m	67
	西側境界座標経度	1383730
	東側境界座標経度	1384500

カテゴリ	項目名	入力したデータ
	北側境界座標緯度	353500
	南側境界座標緯度	352000
施設情報	施設名称	〇〇トンネル
発注者情報	発注者-大分類	国土交通省
	発注者-中分類	〇〇地方整備局
	発注者-小分類	〇〇工事事務所
	発注者コード	10102124
請負者情報	請負者名	〇〇建設株式会社△△組共同企業体 (代表：〇〇建設株式会社)
	請負者コード	10012345000
予備		
ソフトメーカー用 TAG		

(2) 工事管理ファイルの出力例

工事管理ファイルの出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "INDE_C03.DTD">
<constdata DTD_version="03">
<基礎情報>
  <メディア番号>2</メディア番号>
  <メディア総枚数>3</メディア総枚数>
  <適用要領基準>土木 200406-01</適用要領基準>
  <発注図フォルダ名>DRAWINGS</発注図フォルダ名>
  <特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名>DRAWINGS/SPEC
  </特記仕様書オリジナルファイルフォルダ名>
  <打合せ簿フォルダ名>MEET</打合せ簿フォルダ名>
  <打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>MEET/ORG</打合せ簿オリジナルファイルフォルダ名>
  <施工計画書フォルダ名>PLAN</施工計画書フォルダ名>
  <施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>PLAN/ORG</施工計画書オリジナルファイルフォルダ名>
  <完成図フォルダ名>DRAWINGF</完成図フォルダ名>
  <写真フォルダ名>PHOTO</写真フォルダ名>
  <その他フォルダ名>OTHR</その他フォルダ名>
  <その他オリジナルフォルダ情報>
    <その他オリジナルファイルフォルダ名>OTHR/ORG999
  </その他オリジナルファイルフォルダ名>
    <その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>道路施設基本データフォルダ
  </その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>
  </その他オリジナルフォルダ情報>
</基礎情報>
<工事件名等>
  <発注年度>2004</発注年度>
  <工事番号>200411110123</工事番号>
  <工事名称>国道〇号〇〇塗裝修繕工事</工事名称>
  <工事実績システムバージョン番号>5.0</工事実績システムバージョン番号>
  <工事分野>道路</工事分野>
  <工事業種>土木一式工事</工事業種>
  <工種-工法型式>
    <工種>歩行者系舗装工事</工種>
    <工法型式>歩行者系舗装工</工法型式>
  </工種-工法型式>
  <住所情報>
    <住所コード>08220</住所コード>
    <住所>茨城県つくば市〇〇3丁目〇〇番地</住所>
  </住所情報>
  <工期開始日>2004-11-06</工期開始日>
  <工期終了日>2005-02-26</工期終了日>
  <工事内容>掘削工 8500m3、土止め工 2800m2、埋戻し工 9500m3、路面覆工 300m2</工事内容>
</工事件名等>

```

```

<場所情報>
  <測地系>01</測地系>
  <水系-路線情報>
    <対象水系路線名>国道〇号</対象水系路線名>
    <現道-旧道区分>1</現道-旧道区分>
    <対象河川コード>8606040001</対象河川コード>
    <左右岸上下線コード>10</左右岸上下線コード>
    <測点情報>
      <起点側測点-n>0015</起点側測点-n>
      <起点側測点-m>008</起点側測点-m>
      <終点側測点-n>0018</終点側測点-n>
      <終点側測点-m>005</終点側測点-m>
    </測点情報>
    <距離標情報>
      <起点側距離標-n>031</起点側距離標-n>
      <起点側距離標-m>045</起点側距離標-m>
      <終点側距離標-n>036</終点側距離標-n>
      <終点側距離標-m>067</終点側距離標-m>
    </距離標情報>
  </水系-路線情報>
  <境界座標情報>
    <西側境界座標経度>1383730</西側境界座標経度>
    <東側境界座標経度>1384500</東側境界座標経度>
    <北側境界座標緯度>0353500</北側境界座標緯度>
    <南側境界座標緯度>0352000</南側境界座標緯度>
  </境界座標情報>
</場所情報>
<施設情報>
  <施設名称>〇〇トンネル</施設名称>
</施設情報>
<発注者情報>
  <発注者-大分類>国土交通省</発注者-大分類>
  <発注者-中分類>〇〇地方整備局</発注者-中分類>
  <発注者-小分類>〇〇事務所</発注者-小分類>
  <発注者コード>10102124</発注者コード>
</発注者情報>
<請負者情報>
  <請負者名>〇〇建設株式会社△△組共同企業体(代表：〇〇建設株式会社)</請負者名>
  <請負者コード>10012345000</請負者コード>
</請負者情報>
<予備></予備>
<ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>
</constdata>

```

6-1-2 その他管理ファイルのXML記入項目

電子成果品のその他管理ファイル「OTHERS.XML」には、その他フォルダ「OTHERS」に格納する「ORG999」フォルダ、道路施設基本データ管理ファイル「ORG999.XML」について記載する。

(1) その他管理ファイルの入力例

電子成果品のその他管理ファイル「OTHERS.XML」の入力例を表 4に示す。なお、網掛け部分が入力する項目である。

表 4 その他管理ファイルの入力項目

カテゴリ・項目名		入力例	
サブフォルダ情報	その他サブフォルダ名	ORG999	
	その他サブフォルダ日本語名	道路施設基本データフォルダ	
	資料名	道路施設基本データ管理ファイル	
	オリジナルファイル情報※1	シリアル番号	1
		オリジナルファイル名	ORG999.XML
		オリジナルファイル名日本語名	道路施設基本データ管理ファイル XML
		オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	○△□ワープロソフト_2004
		オリジナルファイル内容	道路施設基本データ管理ファイルの XML
		予備	
		シリアル番号	2
		オリジナルファイル名	ORG99901.DTD
		オリジナルファイル名日本語名	道路施設基本データ管理ファイル DTD
		オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	○△□ワープロソフト_2004
	オリジナルファイル内容	道路施設基本データ管理ファイルの DTD	
	その他	請負者説明文	
発注者説明文		道路施設基本データを格納する。	
ソフトメーカー用 TAG			

※1：複数存在する場合には、その項目を必要な回数繰り返す。

(2) その他管理ファイルの出力例

その他管理ファイルの出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE othrsdata SYSTEM "OTHR03.DTD">
<othrsdata DTD_version="03">
  <サブフォルダ情報>
<その他サブフォルダ名> ORG999 </その他サブフォルダ名>
<その他サブフォルダ日本語名>道路施設基本データフォルダ</その他サブフォルダ日本語名>
<その他資料情報>
<資料名>道路施設基本データ管理ファイル</資料名>
<オリジナルファイル情報>
<シリアル番号>1</シリアル番号>
<オリジナルファイル名> ORG999.XML </オリジナルファイル名>
<オリジナルファイル日本語名>道路施設基本データ管理ファイル XML </オリジナルファイル日本語名>
<オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○△□ワープロソフト_2004</オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
<オリジナルファイル内容>道路施設基本データ管理ファイルの XML </オリジナルファイル内容>
<予備></予備>
</オリジナルファイル情報>
<オリジナルファイル情報>
<シリアル番号>2</シリアル番号>
<オリジナルファイル名> ORG99901.DTD </オリジナルファイル名>
<オリジナルファイル日本語名>道路施設基本データ管理ファイル DTD </オリジナルファイル日本語名>
<オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○△□ワープロソフト_2004</オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
<オリジナルファイル内容>道路施設基本データ管理ファイルの DTD </オリジナルファイル内容>
<予備></予備>
</オリジナルファイル情報>
<その他>
<請負者説明文></請負者説明文>
<発注者説明文>道路施設基本データを格納する。</発注者説明文>
</その他>
</その他資料情報>
</サブフォルダ情報>
</othrsdata>

```

6-2 道路施設基本データ管理ファイルのXML入力項目およびDTD

6-2-1 道路施設基本データ管理ファイルのXML入力項目

道路施設基本データの管理ファイルとして「ORG999.XML」を作成し、ORG999 フォルダに格納する。また、「ORG999.XML」のデータ構造を示す「ORG99901.DTD」を用意する。

(1) ORG999 以下のフォルダ・ファイル構成

道路施設基本データを格納する「ORG999」フォルダ・ファイルの構成を、表 5に示す。

表 5 「ORG999」フォルダ内のフォルダ・ファイル構成

構成	名称／拡張子	解説
道路施設基本データ管理ファイル	ORG999.XML 拡張子：.xml *格納する ORG999 フォルダと名称を合わせる。	「道路施設基本データ管理ファイル」は、道路施設の基本属性を表すデータを XML 文書 (XML バージョン 1.0 に準拠) で記述したファイルであり、ファイル名称を半角英数大文字で「ORG999.XML」とする。なお、「ORG99901.DTD」もこのフォルダに格納するものとする。
道路施設諸元データフォルダ	SYOGEN	各種道路施設の諸元データは、「SYOGEN」フォルダに工種毎 (施設毎) のサブフォルダを設けて格納する。サブフォルダは、工事内容に応じて関連するフォルダのみを作成するものとする。
道路施設基本データ位置図ファイル	Innn.PDF 拡張子：.pdf *「nnn」は連番 (位置図ファイル数分)	ファイル名称は I (位置図を表すアルファベット) に連番「nnn」を付けたもの (道路施設基本データ位置図番号) とする。「SYOGEN」フォルダに格納する。
道路施設諸元サブフォルダ	例：D010	道路施設の諸元データは、施設諸元サブフォルダに格納する。施設諸元サブフォルダは、道路施設の種類毎に作成し、フォルダ名称は表 2の施設番号に合わせる。
個別道路施設諸元サブフォルダ	例：D010ii *「ii」は連番 (施設数分)	道路施設の道路施設基本データ詳細情報、道路施設一般図、現況写真は、個別道路施設諸元サブフォルダに格納する。個別道路施設諸元サブフォルダは、道路施設基本データの作成施設単位毎に作成し、フォルダ名称は、道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「ii」 ^{*1} を付けたものとする。
道路施設基本データ詳細情報ファイル	例：D010ii.CSV 拡張子：.csv *「ii」は個別道路施設諸元サブフォルダと合わせる。	ファイル名称は道路施設基本データ詳細情報番号 (D010、D011、D012 など、表 2 参照) に連番「ii」 ^{*1} を付けたものとする。
道路施設一般図フォルダ	例：S_DRAW	施設の一般図ファイルは、道路施設一般図フォルダに格納する。道路施設一般図フォルダは、一般図が必要な施設のみ作成する。
道路施設一般図ファイル	例：D010iijj.JPG、 D010iijj.P21 拡張子：.jpg、p21 *「jj」は連番 (イメージファイル数分)	ファイル名称は個別道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「jj」 ^{*1} を付けたものとする。
道路施設現況写真フォルダ	S_PHOTO	現況写真ファイルは、道路施設現況写真フォルダに格納する。道路施設現況写真フォルダは、現況写真が必要な施設のみ作成する。

構成				名称／拡張子	解説
			現況写真ファイル	例：D010iijj.JPG 拡張子：.jpg	ファイル名称は個別道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「jj」 ^{※1} を付けたものとする。

※1：連番が 100 を超える場合は、アルファベット（半角大文字）及び数字（半角）を用いる。

例、100～109 の場合は A0～A9、110～119 の場合は B0～B9、120～129 の場合は C0～C9、とする

(2) 道路施設基本データ管理ファイルの入力項目

電子成果品の道路施設基本データ管理ファイル「ORG999.XML」の入力項目および入力例を表6に示す。但し、個人情報保護法上の問題が生じる項目については入力を省略してもよい。

表 6 道路施設基本データ管理ファイルの入力項目

カテゴリ	入力項目		データ形式	入力例	必要度	
道路施設諸元データフォルダ情報	道路施設諸元データフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	SYOGEN	◎	
	道路施設諸元データフォルダ日本語名（固定）		全角文字 14 文字	道路施設諸元データフォルダ名	◎	
工事の概要	概要		全角文字, 半角英数字 127 文字	〇〇に関する工事	◎	
	供用未供用の別		全角文字 3 文字	供用	◎	
	供用予定	供用年	半角英数字 4 文字	2004	◎	
		供用月	半角英数字 2 文字	1	◎	
データ作成基礎情報	データ作成者	請負会社	現場代理人	全角文字, 半角英数字 127 文字	×× ××	△
			主任技術者	全角文字, 半角英数字 127 文字	〇〇 〇〇	△
			連絡先	TEL	半角英数字 12 文字	0999-99-9999
		FAX		半角英数字 12 文字	0999-99-1111	△
		E-Mail		半角英数字 127 文字	〇〇〇@〇〇.jp	△
		監督職員	監督部署	全角文字, 半角英数字 127 文字	■ ■ ■ ■	△
	主任監督員		全角文字, 半角英数字 127 文字	△△ △△	△	
	監督員		全角文字, 半角英数字 127 文字	☆☆ ☆☆	△	
	発注担当課長		全角文字, 半角英数字 127 文字	□□ □□	△	
	データ作成対象施設		道路施設種別※1※2	半角英数字大文字 4 文字	D010	◎
道路施設諸元サブフォルダ情報※1	道路施設諸元サブフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	D010	◎	
	道路施設諸元サブフォルダ日本語名		半角英数字大文字 127 文字	D010	◎	
	個別道路施設諸元サブフォルダ※1	個別道路施設諸元サブフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	D01001	◎
		個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名※3		半角英数字大文字 127 文字	D01001	◎
	道路施設情報	道路施設名称	全角文字, 半角英数字 127 文字	●●橋	◎	
		工事区分※4	全角文字 2 文字	改良	◎	
	道路施設基本データ詳細情報	道路基本データファイル名※1	半角英数字大文字 127 文字	D01001.CSV	◎	
	図面フォルダ	図面フォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	S_DRAW	◎
		図面フォルダ日本語名（固定）		全角文字 6 文字	図面フォルダ	◎
		図面ファイル名※1		半角英数字大文字 127 文字	D0100101.P21	◎
	写真フォルダ	写真フォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	S_PHOTO	◎
		写真フォルダ日本語名（固定）		全角文字 6 文字	写真フォルダ	◎
写真ファイル名※1		半角英数字大文字 127 文字	D0100101.JPG	◎		

凡例 ◎：必須記入 △：任意記入

※1：複数存在する場合には、その項目を必要な回数繰り返す。

※2：道路施設種別は、表 2 に示している施設名に対応する施設番号とする。

※3：個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名は、サブフォルダ名称とする。

※4：工事区分は、「新設」、「改良」、「撤去」のいずれかとする。

(3) 道路施設基本データ管理ファイルの出力例

道路施設基本データ管理ファイルの出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE orgdata SYSTEM "ORG99901.DTD">
<orgdata DTD_version="01">
<道路施設諸元データフォルダ情報>
<道路施設諸元データフォルダ名>SYOGEN</道路施設諸元データフォルダ名>
<道路施設諸元データフォルダ日本語名>道路施設諸元データフォルダ名</道路施設諸元データフォルダ日本語名>
</道路施設諸元データフォルダ情報>
<工事の概要>
<概要>〇〇に関する工事</概要>
<供用未供用の別>供用</供用未供用の別>
<供用予定>
<供用年>2004</供用年>
<供用月>1</供用月>
</供用予定>
</工事の概要>
<データ作成基礎情報>
<データ作成者>
<請負会社>
<現場代理人>×× ××</現場代理人>
<主任技術者>〇〇 〇〇</主任技術者>
<連絡先>
<TEL>0999-99-9999</TEL>
<FAX>0999-99-1111</FAX>
<E-Mail>〇〇〇@〇〇.jp</E-Mail>
</連絡先>
</請負会社>
<監督職員>
<監督部署>■ ■ ■ ■</監督部署>
<主任監督員>△△ △△</主任監督員>
<監督員>☆☆ ☆☆</監督員>
</監督職員>
<発注担当課長>□□ □□</発注担当課長>
</データ作成者>
<データ作成対象施設>
<道路施設種別>D010</道路施設種別>
</データ作成対象施設>
</データ作成基礎情報>
<道路施設諸元サブフォルダ情報>
<道路施設諸元サブフォルダ名>D010</道路施設諸元サブフォルダ名>
<道路施設諸元サブフォルダ日本語名>D010</道路施設諸元サブフォルダ日本語名>
<個別道路施設諸元サブフォルダ>
<個別道路施設諸元サブフォルダ名>D01001</個別道路施設諸元サブフォルダ名>
<個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名> D01001</個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名>
<道路施設情報>
<道路施設名称>●●橋梁</道路施設名称>
<工事区分>改良</工事区分>
</道路施設情報>

```

<道路施設基本データ詳細情報>
 <道路施設基本データファイル名>D01001.CSV</道路施設基本データファイル名>
 </道路施設基本データ詳細情報>
 <図面フォルダ>
 <図面フォルダ名>S_DRAW</図面フォルダ名>
 <図面フォルダ日本語名>図面フォルダ</図面フォルダ日本語名>
 <図面ファイル名>D0100101.P21</図面ファイル名>
 </図面フォルダ>
 <写真フォルダ>
 <写真フォルダ名>S_PHOTO</写真フォルダ名>
 <写真フォルダ日本語名>写真フォルダ</写真フォルダ日本語名>
 <写真ファイル名>D0100101.JPG</写真ファイル名>
 </写真フォルダ>
 </個別道路施設諸元サブフォルダ>
 </道路施設諸元サブフォルダ情報>
 <備考/>
 </orgdata>

6-2-2 道路施設基本データ管理ファイルのDTD

道路施設基本データの管理ファイルのDTDを作成する。

(1) 道路施設基本データ管理ファイルの DTD 作成例

道路施設基本データ管理ファイルの DTD 作成例を次に示す。

```

<!--ORG99901.DTD / 2005/03 -->
<!ELEMENT orgdata (道路施設諸元データフォルダ情報, 工事の概要, データ作成基礎情報, 道路施設諸元サブフォルダ情報+, 備考)>
<!ATTLIST orgdata DTD_version CDATA #FIXED "01">

<!--*****-->
<!--                道路施設諸元データフォルダ情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ情報 (道路施設諸元データフォルダ名, 道路施設諸元データフォルダ日本語名)>
<!ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ日本語名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                工事の概要                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 工事の概要 (概要, 供用未供用の別, 供用予定?)>
<!ELEMENT 概要 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 供用未供用の別 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 供用予定 (供用年, 供用月)>
<!ELEMENT 供用年 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 供用月 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--                データ作成基礎情報                -->
<!--*****-->
<!ELEMENT データ作成基礎情報 (データ作成者, データ作成対象施設)>
<!ELEMENT データ作成者 (請負会社, 監督職員, 発注担当課長)>
<!ELEMENT 請負会社 (現場代理人, 主任技術者, 連絡先)>
<!ELEMENT 現場代理人 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 主任技術者 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 連絡先 (TEL, FAX, E-Mail)>
<!ELEMENT TEL (#PCDATA)>
<!ELEMENT FAX (#PCDATA)>

```

```

<!ELEMENT E-Mail (#PCDATA)>
<!ELEMENT 監督職員 (監督部署, 主任監督員, 監督員)>
<!ELEMENT 監督部署 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 主任監督員 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 監督員 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 発注担当課長 (#PCDATA)>
<!ELEMENT データ作成対象施設 (道路施設種別+)>
<!ELEMENT 道路施設種別 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          道路施設諸元サブフォルダ情報          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ情報 (道路施設諸元サブフォルダ名+, 道路施設諸元サブフォルダ日本語名+,
個別道路施設諸元サブフォルダ+)>
<!ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ (個別道路施設諸元サブフォルダ名, 個別道路施設諸元サブフォルダ日
本語名, 道路施設情報, 道路施設基本データ詳細情報, 図面フォルダ*, 写真フォルダ*)>
<!ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 道路施設情報 (道路施設名称, 工事区分)>
<!ELEMENT 道路施設名称 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 工事区分 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 道路施設基本データ詳細情報 (道路施設基本データファイル名+)>
<!ELEMENT 道路施設基本データファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 図面フォルダ (図面フォルダ名, 図面フォルダ日本語名, 図面ファイル名+)>
<!ELEMENT 図面フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 図面フォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 図面ファイル名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ (写真フォルダ名, 写真フォルダ日本語名, 写真ファイル名+)>
<!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          備考          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 備考 (#PCDATA)>

```

国土技術政策総合研究所資料
TECHNICAL NOTE of NILIM
No. 331 August 2006

編集・発行 ©国土技術政策総合研究所

本資料の転載・複写の問い合わせは
〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地
企画部研究評価・推進課 TEL 029-864-2675